

西富田新田遺跡Ⅲ

— A地点の調査 —

旭・小島古墳群

— 万年寺八幡山古墳ほかの調査 —

2015

本庄市教育委員会

西富田新田遺跡Ⅲ

— A地点の調査 —

旭・小島古墳群

— 万年寺八幡山古墳ほかの調査 —

2015

本庄市教育委員会

序

本庄市は、江戸時代において、中山道本庄宿を擁し、流通の一大拠点として賑わい、以後も長く繭と蚕の集散地として、繁栄を誇って参りました。また、『群書類従』を編んだ盲目の国学者塙保己一の生誕地としても、広く知られているところです。本庄市は、また数多くの埋蔵文化財にも恵まれ、旧石器時代から近代に至るまでの様々な遺跡が、市内各所に分布しています。とりわけ、市内に所在する古墳時代の遺跡の多さは特筆され、古墳時代中期の大規模集落である西富田遺跡や東日本最大級の古墳群として著名な長沖古墳群などは、埼玉県的重要遺跡にも選定されています。

本書に報告する西富田新田遺跡と旭・小島古墳群も、地域を代表する古墳時代の遺跡としてよく知られているところです。西富田新田遺跡では、東日本で最も古い時期の竈が使用されており、集落の設定にあたって、最先端の生活文化が導入されていたことがわかります。また、出土した鏡や馬の土製模造品は、類例の希少な遺物で、この地に暮らした当時の人々の精神生活を知る上で、きわめて重要な資料といえます。

旭・小島古墳群は、古墳時代の前期から終末期にかけて、約400年ほどの間に造られた150基以上の古墳によって形成されていますが、本書では、とくに古墳群の初現を画する万年寺八幡山古墳と屋敷内3号墳の調査成果が掲載されています。

本書に報告されたような貴重な文化遺産を長く後世に伝えていくことは、現代に生きるわたくしたちの使命であり、こののち本書が学術研究の発展に役立てられるとともに、郷土の歴史への関心と埋蔵文化財への理解をより一層深められるための資料として、多くの方々にご活用いただけることを願ってやみません。

末筆ながら、本書の刊行にあたり、ご指導、ご教示を賜りました方々、現地調査にご協力いただいた関係諸機関、直接作業の労にあたられた地元住民の皆様にかかる御礼を申し上げます。

平成27年3月

本庄市教育委員会

教育長 勝 山 勉

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市西富田810-1ほかに所在する西富田新田遺跡、同万年寺3丁目3-8番地に所在する旭・小島古墳群万年寺八幡山古墳、下野堂小島3丁目8-3番地に所在する旭・小島古墳群屋敷内3号墳および同小島3丁目1,720に所在する堂場3・10・11号墳の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、宅地造成工事ならびに集会所建設工事に伴い、記録保存を目的として、本庄市教育委員会が実施したものである。
3. 発掘調査地点ごとの調査期間、調査面積、調査原因および調査担当者は以下のとおりである。

- ・西富田新田遺跡

調査期間 自 昭和46年3月20日 至 昭和46年5月16日

調査面積 2,491㎡

調査原因 宅地造成

調査担当者 菅谷浩之

- ・旭・小島古墳群万年寺八幡山古墳

調査期間 自 昭和55年11月7日 至 昭和55年11月28日

調査面積 260㎡

調査原因 集会所建設

調査担当者 長谷川 勇・岸 隆雄

- ・旭・小島古墳群屋敷内3号墳

調査期間 自 昭和59年2月1日 至 昭和59年2月29日

調査面積 900㎡

調査原因 宅地造成

調査担当者 長谷川勇

- ・旭・小島古墳群堂場3・10・11号墳

調査期間 自 昭和63年5月30日 至 昭和63年7月30日

調査面積 750㎡

調査原因 宅地造成

調査担当者 増田一裕

4. 整理調査期間は以下のとおりである。

自 平成26年4月1日 至 平成27年1月14日

5. 整理調査および本書の執筆・編集は本庄市教育委員会文化財保護課太田博之が担当した。
6. 本書に掲載した出土遺物、遺構および遺物の実測図ならびに写真、その他本報告に関係する資料は本庄市教育委員会において保管している。
7. 整理調査から報告書の刊行に至るまで、以下の方々から貴重な御助言、御指導、御協力を賜った。ご芳名を記し感謝申し上げます。(順不同・敬称略)

池田匡彦 昆 彭生 坂本和俊 菅谷浩之 金子彰男 中沢良一 増田一裕

丸山 修 丸山陽一

8. 本報告の発掘調査、整理調査および報告書編集・刊行に係る本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

・発掘調査

教育長	宮下達也	(昭和45年度)
	田口豊七	(昭和46年度)
	飯島 彰	(昭和55・59年度)
	坂本敬信	(昭和63年度)
社会教育課長	島田徳三	(昭和55年度)
	戸塚克男	(昭和59年度)
	荒井正夫	(昭和63年度)

課長補佐兼

文化財保護係長	金井善一	(昭和55年度)
	長谷川道夫	(昭和59年度)
	田村文一	(昭和63年度)
文化財保護係	長谷川勇	(昭和55・59・63年度)
	岸 隆雄	(昭和55年度)
	反町光弘	(昭和55年度)
	中田啓一	(昭和59年度)
	増田一裕	(昭和59・63年度)
	早野秀之	(昭和63年度)

・整理調査および報告書編集・刊行（平成26年度）

教育長	勝山 勉
事務局長	関和成昭
文化財保護課長	川上美恵
課長補佐兼	
埋蔵文化財係長	太田博之
主 幹	恋河内昭彦
主 査	松本 完
主 査	大熊季広
主 事 補	栗原秀太
臨時職員	的野善行

凡 例

1. 本書所収の遺跡全体図におけるX・Y座標値は、世界測地系に基づく。各遺構における方位針は、座標北を示す。
2. 本書掲載の図面のうち、遺構図の縮尺は、各図に明示している。
遺物実測図の縮尺は、1/4を基本としているが、微細な遺物は必要に応じ、1/2および1/3としている。
3. 遺構断面図の水準数値は海拔を示す。単位はmである。
4. 遺構断面図のスクリーントーンのうちストライプは地山のローム層を示す。
5. 本書掲載の地形図は、国土交通省国土地理院発行1/50,000「本庄」、各遺跡の発掘調査点図は、本庄市都市計画図1/2,500に加筆したものをを用いた。
6. 本書の引用・参考文献は巻末に一括して記載した。

目 次

序
例言
凡例
目次

I	遺跡の環境	
1	地理的環境	1
2	歴史的環境	2
II	西富田新田遺跡の調査成果	
1	西富田新田遺跡A地点の概要	4
2	住居	4
3	祭祀遺構出土遺物	40
4	遺構外出土遺物	41
III	旭・小島古墳群の調査成果	
1	旭・小島古墳群の概要	42
2	万年寺八幡山古墳	42
3	屋敷内3号墳	46
4	堂場3・10・11号墳	50
IV	結 語	53

文献
写真

挿図目次

図1	埼玉県の地形	1	図26	西富田新田遺跡A地点 SI-8 出土遺物(2)	28
図2	周辺の遺跡	3	図27	西富田新田遺跡A地点 SI-9 出土遺物	28
図3	西富田新田遺跡A地点位置図	5	図28	西富田新田遺跡A地点 SI-10出土遺物(1)	29
図4	西富田新田遺跡A地点全体図	6	図29	西富田新田遺跡A地点 SI-10出土遺物(2)	30
図5	西富田新田遺跡A地点 SI-1 平面図 および断面図	7	図30	西富田新田遺跡A地点 SI-11出土遺物(1)	32
図6	西富田新田遺跡A地点 SI-1 出土遺物(1)	8	図31	西富田新田遺跡A地点 SI-11出土遺物(2)	33
図7	西富田新田遺跡A地点 SI-1 出土遺物(2)	9	図32	西富田新田遺跡A地点 SI-12出土遺物(1)	34
図8	西富田新田遺跡A地点 SI-2 平面図 および断面図(1)	10	図33	西富田新田遺跡A地点 SI-12出土遺物(2)	35
図9	西富田新田遺跡A地点 SI-2 断面図(2)	11	図34	西富田新田遺跡A地点 SI-12出土遺物(3)	36
図10	西富田新田遺跡A地点 SI-2 カマド 平面図および断面図	11	図35	西富田新田遺跡A地点 SI-13出土遺物	38
図11	西富田新田遺跡A地点 SI-2 出土遺物	12	図36	西富田新田遺跡A地点 SI-14出土遺物	39
図12	西富田新田遺跡A地点 SI-3 出土遺物	13	図37	西富田新田遺跡A地点祭祀遺構出土遺物	40
図13	西富田新田遺跡A地点 SI-4 出土遺物(1)	14	図38	西富田新田遺跡A地点遺溝外出土遺物	41
図14	西富田新田遺跡A地点 SI-4 出土遺物(2)	15	図39	万年寺八幡山古墳・屋敷内3号墳位置図	43
図15	西富田新田遺跡A地点 SI-5 出土遺物	16	図40	万年寺八幡山古墳調査地点位置図	44
図16	西富田新田遺跡A地点 SI-6 出土遺物	16	図41	万年寺八幡山A地点全体図	45
図17	西富田新田遺跡A地点 SI-7 平面図	17	図42	万年寺八幡山A地点断面図	46
図18	西富田新田遺跡A地点 SI-7 断面図	18	図43	屋敷内3号墳全体図	47
図19	西富田新田遺跡A地点 SI-7 カマド 平面図および断面図	19	図44	堂場3・10・11号墳位置図	48
図20	西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(1)	20	図45	堂場3・10・11号墳全体図	49
図21	西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(2)	21	図46	堂場3号墳平面図および断面図	50
図22	西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(3)	22	図47	堂場10号墳平面図および断面図	51
図23	西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(4)	23	図48	堂場11号墳平面図および断面図	52
図24	西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(5)	24			
図25	西富田新田遺跡A地点 SI-8 出土遺物(1)	27			

写真目次

写真 1	西富田新田遺跡A地点 SI- 1 出土遺物(1)
写真 2	西富田新田遺跡A地点 SI- 1 出土遺物(2) 西富田新田遺跡A地点 SI- 2 出土遺物
写真 3	西富田新田遺跡A地点 SI- 3 出土遺物 西富田新田遺跡A地点 SI- 4 出土遺物(1)
写真 4	西富田新田遺跡A地点 SI- 4 出土遺物(2) 西富田新田遺跡A地点 SI- 5 出土遺物
写真 5	西富田新田遺跡A地点 SI- 6 出土遺物 西富田新田遺跡A地点 SI- 7 出土遺物(1)
写真 6	西富田新田遺跡A地点 SI- 7 出土遺物(2)
写真 7	西富田新田遺跡A地点 SI- 7 出土遺物(3)
写真 8	西富田新田遺跡A地点 SI- 7 出土遺物(4)
写真 9	西富田新田遺跡A地点 SI- 7 出土遺物(5)
写真10	西富田新田遺跡A地点 SI- 7 出土遺物(6) 西富田新田遺跡A地点 SI- 8 出土遺物(1)
写真11	西富田新田遺跡A地点 SI- 8 出土遺物(2) 西富田新田遺跡A地点 SI- 9 出土遺物
写真12	西富田新田遺跡A地点 SI-10出土遺物(1)
写真13	西富田新田遺跡A地点 SI-10出土遺物(2)
写真14	西富田新田遺跡A地点 SI-11出土遺物(1)
写真15	西富田新田遺跡A地点 SI-11出土遺物(2) 西富田新田遺跡A地点 SI-12出土遺物(1)
写真16	西富田新田遺跡A地点 SI-12出土遺物(2)
写真17	西富田新田遺跡A地点 SI-12出土遺物(3)
写真18	西富田新田遺跡A地点 SI-13出土遺物
写真19	西富田新田遺跡A地点 SI-14出土遺物
写真20	西富田新田遺跡A地点祭祀遺構出土遺物 西富田新田遺跡A地点遺構外出土遺物

I 遺跡の環境

1 地理的環境

本庄市の地形は南方に連なる山地、市街地をのせる台地および利根川右岸に広がる低地とに大別される。山地は、上武山地の北縁にあたる。奥秩父山地に比べて浸食が進み、谷が広く、比較的起伏の少ない地形を特徴としている。上武山地は、群馬県西南部の赤久縄山を中心とする地域と、埼玉県北西部の城峯山を主峰とする山地の総称であり、南東から北西方向へと展開している。

台地は身馴川（小山川）扇状地と神流川扇状地との複合地形からなり、本庄台地と呼称され、立川期に対応するものとされる。身馴川（小山川）扇状地は西側を第三系の残丘である生野山、大久保山といった児玉丘陵に、東側を松久丘陵、櫛引台地によって画され、その間を小山川、志戸川などの中小河川が北東方向へ流れている。河川の周辺は沖積化が顕著で、自然堤防状の微高地が発達している。一方、神流川扇状地は群馬県藤岡市浄方寺付近を扇頂部とし、扇端部は児玉郡上里町大字金久保から本庄市鶴森にかけて広がっている。扇状地を開析して流れる中小河川には女堀川、男堀川などがあり、身馴川（小山川）扇状地の場合と同様に、周囲には沖積地の形成が顕著である。なお、台地端部は、明瞭な崖線を形成している。現在、この崖線は、一部が河川の浸食を受けているが、本来は直線状を呈し、深谷断層の延長部にあると推測される。

台地北側に広がる低地は、妻沼低地の西縁をなし、氾濫による自然堤防が発達するとともに、利根川に沿って加須低地、中川低地へと連続している。

本書に報告する西富田新田遺跡および旭・小島古墳群は、ともに本庄台地の北部に立地する古墳時代の遺跡である。

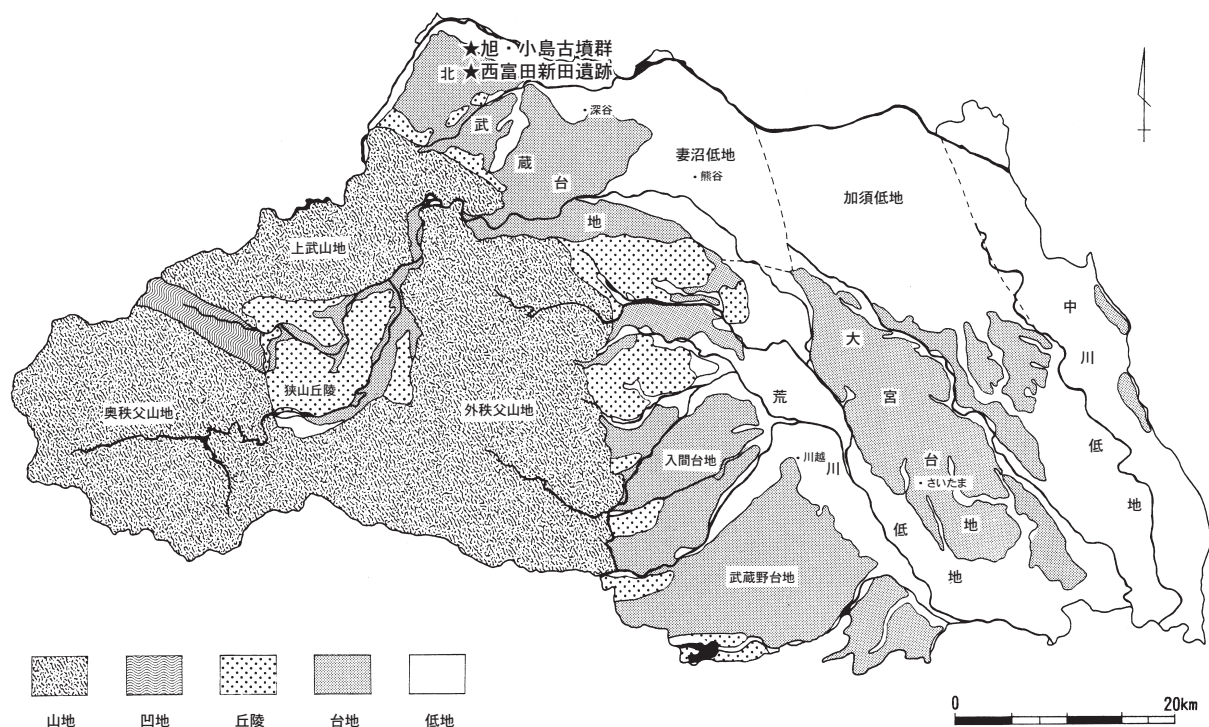


図1 埼玉県の地形

2 歴史的環境

本書で報告する遺跡のうち西富田新田遺跡は古墳時代中期の集落遺跡、旭・小島古墳群は古墳時代前期から終末期にかけての古墳群である。本節では、周辺に展開する古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡と古墳を概観し、歴史的環境の理解としたい。

古墳時代の集落遺跡

古墳時代前期の集落には、七色塚遺跡 (35)、久下東遺跡 (36)、北堀新田遺跡 (37)、久下前遺跡 (38)、西五十子古墳群 (40)、下田遺跡 (44)、後張遺跡 (49)、川越田遺跡 (50)、飯玉東遺跡 (51) 等があげられる。このうち後張遺跡は古墳時代前期から中期にかけて中核的集落として知られている。古墳時代中期から終末期にかけては、前期から継続する集落のほかに、女堀川左岸の微高地および台地内奥部に、新たに展開する集落が出現する。これらの集落遺跡には、小島本伝遺跡 (5)、城山遺跡 (7)、諏訪新田遺跡 (16)、東五十子田端屋敷遺跡 (24)、二本松遺跡 (26)、夏目西遺跡 (27)、弥藤次遺跡 (28)、夏目遺跡 (29)、社具路遺跡 (30)、薬師元屋舗遺跡 (31)、笠ヶ谷戸遺跡 (32)、雌濠遺跡 (33)、九反田遺跡 (47)、四方田遺跡 (48) 等が知られ、一集落内における住居軒数も一段と増加している。また、これらの集落のなかには、夏目遺跡のように、鍛冶関連遺物や畿内系土器・朝鮮半島系土器を模倣した地元産土師器などが検出され、人間の移住を含む西日本方面との交渉を想定しうる事例も見られる。

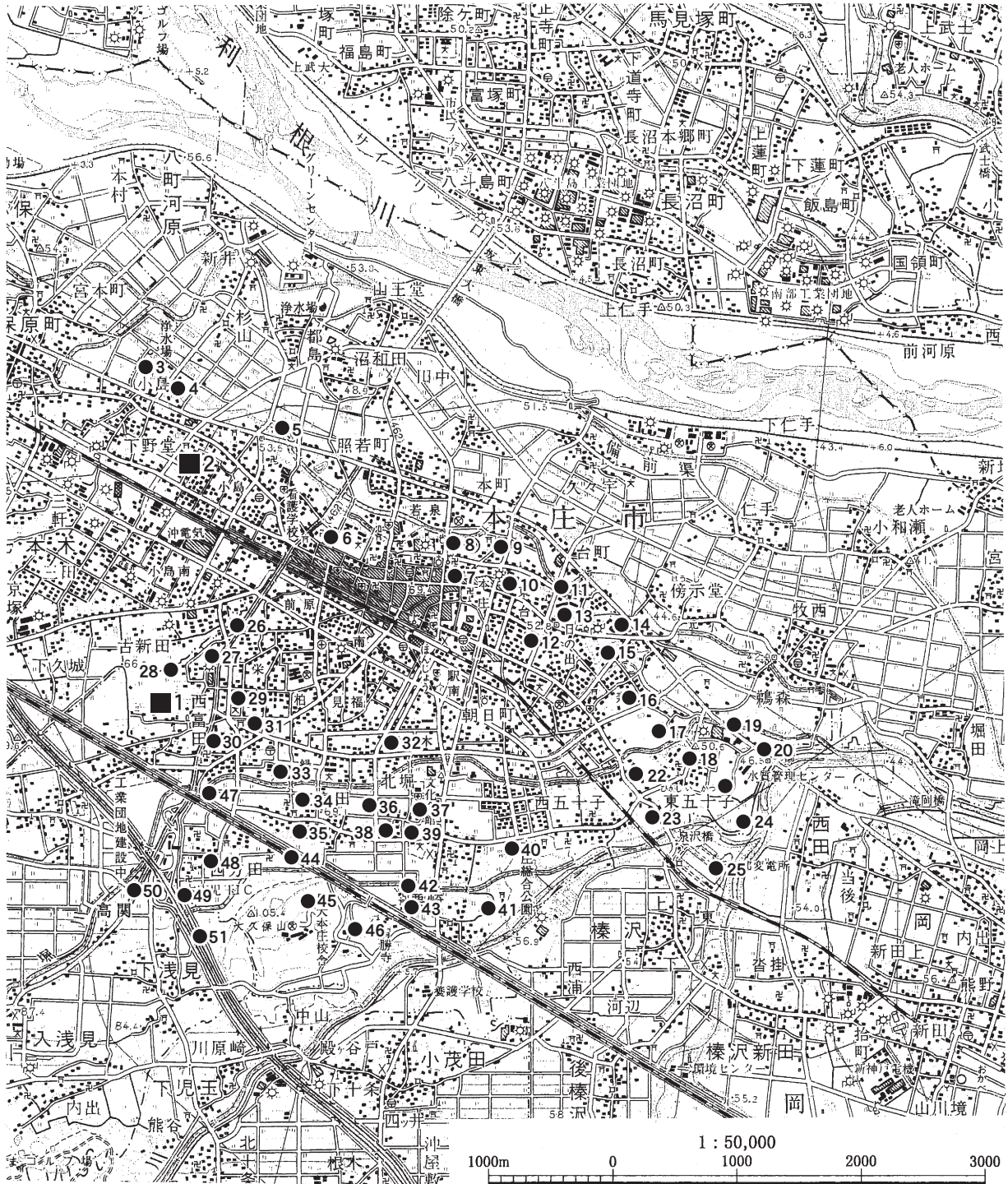
奈良・平安時代の集落

奈良・平安時代になると一部の集落は、台地北端から連続している低地帯内の微高地状にも進出する。古墳時代中・後期から継続する集落に、小島本伝遺跡 (5)、東五十子田端屋敷遺跡 (24)、薬師元屋舗遺跡 (31) などがある。また、御堂坂遺跡 (14)、薬師堂遺跡 (11)、本庄飯玉遺跡 (12)、天神林Ⅱ遺跡 (10)、天神林遺跡 (9)、石神境遺跡 (3) は古墳時代終末期以降、奈良・平安時代にかけて新たに成立してくる集落である。なお、石神境遺跡は、本庄2号遺跡とともに、この時期に台地下へと進出する集落で、その初現は7世紀後半頃と推定されている。

古墳の分布

旭・小島古墳群の所在する本庄台地北縁部では、同時期の集落の間隙を埋めるように、西から北原古墳群 (6)、御堂坂古墳群 (15)、鶴森古墳群 (17)、東五十子古墳群 (21) が分布している。このうち、東五十子古墳群は、典型的な古式群集墳で、小規模な円墳からなる密集度の高い群を形成している。また、本庄台地の内部には、男堀川や女堀川に沿った微高地上に東富田古墳群 (34)、西五十子古墳群 (40)、大久保山丘陵上に大久保山古墳群 (46) が分布している。東富田古墳群の公卿塚古墳は朝鮮半島の土器製作技術である格子タタキ技法を用いて製作された円筒埴輪を出土することで注目される。

大久保山古墳群中の北堀前山1号墳は、最近まで円墳と考えられてきたが、本庄市教育委員会による確認調査の結果、全長70mを超える埼玉県内最大規模の前方後円墳であることが明らかとなった。これに近接して所在する北堀前山2号墳も、従来、径28mの円墳とされてきたが、本庄市教育委員会による調査の結果、一辺30m前後の方墳となることが確認された。同じ大久保山丘陵の北東斜面には、宥勝寺裏埴輪窯跡 (42) も所在している。操業年代は古墳時代後期後半で、5基以上の埴輪窯跡が良好な状態で保存されている。



- 1 西富田新田遺跡 2 旭・小島古墳群 3 石神境遺跡 4 本庄2号遺跡 5 小島本伝遺跡 6 北原古墳群
- 7 城山遺跡 8 本庄城跡 9 天神林遺跡 10 天神林Ⅱ遺跡 11 薬師堂遺跡 12 本庄飯玉遺跡 13 薬師堂東遺跡
- 14 御堂坂遺跡 15 御堂坂古墳群 16 諏訪新田遺跡 17 鶉森古墳群 18 東五十子赤坂遺跡 19 東五十子城跡遺跡
- 20 五十子陣跡 21 東五十子古墳群 22 西五十子大塚遺跡 23 西五十子台遺跡 24 東五十子先端屋敷遺跡
- 25 六反田遺跡 26 二本松遺跡 27 夏目西遺跡 28 弥藤次遺跡 29 夏目遺跡 30 社具路遺跡 31 薬師元屋舗遺跡
- 32 笠ヶ谷戸遺跡 33 雌濠遺跡 34 東富田古墳群 35 七色塚遺跡 36 久下東遺跡 37 北堀新田遺跡 38 久下前遺跡
- 39 北堀新田前遺跡 40 西五十子古墳群 41 東本庄遺跡 42 宍勝寺裏埴輪窯跡 43 宍勝寺北裏遺跡 44 下田遺跡
- 45 浅見山Ⅰ遺跡 46 大久保山古墳群 47 九反田遺跡 48 四方田遺跡 49 後張遺跡 50 川越田遺跡 51 飯玉東遺跡

図2 周辺の遺跡

II 西富田新田遺跡の調査成果

1 西富田新田遺跡A地点の概要

本章に報告する西富田新田遺跡A地点の発掘調査は、昭和46年3月から5月にかけて、宅地造成工事に伴い、記録保存を目的として、本庄市委員会が実施したものである。遺跡は本庄台地の縁辺から2kmほど台地の奥部に入った地点に所在する古墳時代中期の集落遺跡である。遺跡周辺の標高は65.4～66.0mで、南西から北東方向に向けて緩やかに傾斜している。立地地形は東西に長い微高地で、付近は宅地および畑地として利用されている。

西富田新田遺跡では、これまでに平成22年度にB地点、平成23年度にC地点の調査が実施されており、本報告の調査地点については、A地点と呼称している（図3）。A地点の西側に隣接するB地点の調査では、古墳時代中期の竪穴住居1棟、また東に100m以上離れたC地点の調査でも、同時期竪穴住居3棟のほか溝・土坑を検出している（太田・大熊2011、的野2014）。本報告のA地点を含め、いずれの遺構からも、いわゆる和泉Ⅱ式期の資料を出土する点が共通することから、西富田新田遺跡は、古墳時代中期後半期になって新規に設定された大規模集落と考えることができるだろう。

A地点の調査については、現在、図面・写真など記録品類の所在が明らかではない。よって、遺構の記述については、調査概報（菅谷1972）および本庄市史資料編（本庄市1976）の記載内容をもとにしている。

現地調査は、当該調査区に対し、南北方向に7本のトレンチを設定し、竪穴住居等の遺構が検出された個所を必要な範囲で拡張する方法をとっている。遺構面は、1面のみで、遺構確認面はローム層の上面である。検出した遺構は、住居13基・溝2条・土坑10基である（図4）。このほかに、別地点の調査機材置き場で、調査終了後、偶然に同時期の住居を確認しており、これを含めると検出された住居は14基となる。

溝はSI-11の上層を横切って東西方向に走行する1条と、SI-4の北東側に、東南東に向けて調査区外へ走行する1条とが検出されている。SI-11と重複する前者は、住居よりも新しい時期の溝であるが、帰属時期の詳細は不明である。後者の溝の帰属時期も判然としない。

土坑についても、すべて住居より新しい時期の遺構と考えられるが、溝と同様に帰属時期の詳細を示す遺物は出土していない。

2 住居

調査時に別地点で検出した住居を含め、14基を調査している。いずれも竪穴住居である。多くの住居では、柱穴、竈、貯蔵穴などの施設を確認しているが、SI-1・6・9の3基は、柱穴が検出されていない。SI-1では竈、貯蔵穴もなく、一部が調査できなかったSI-6もまた同様であったろうと思われる。

住居の主軸方向は、東北東を向くものと、ほぼ真東から若干南へ振るものとの二大別される。前者には大型住居が多く、相互に重複を避け、調査区の中央に集中するのに対し、後者は、いずれも一辺4～5mを計測し、柱穴、竈、貯蔵穴を備えるなど規格性が高く、同じく重複を避けながら。調査区

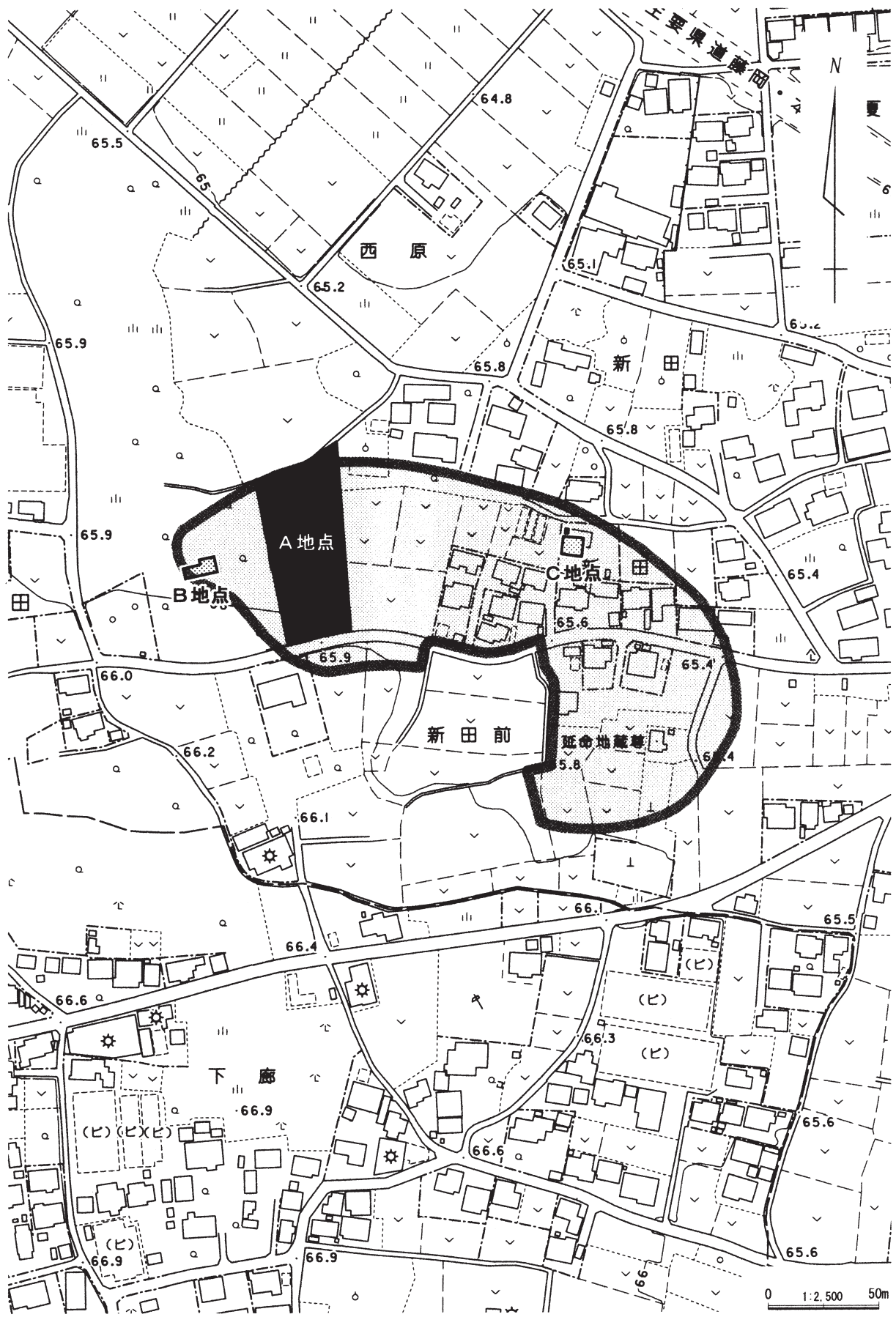


图3 西富田新田遺跡A地点位置図

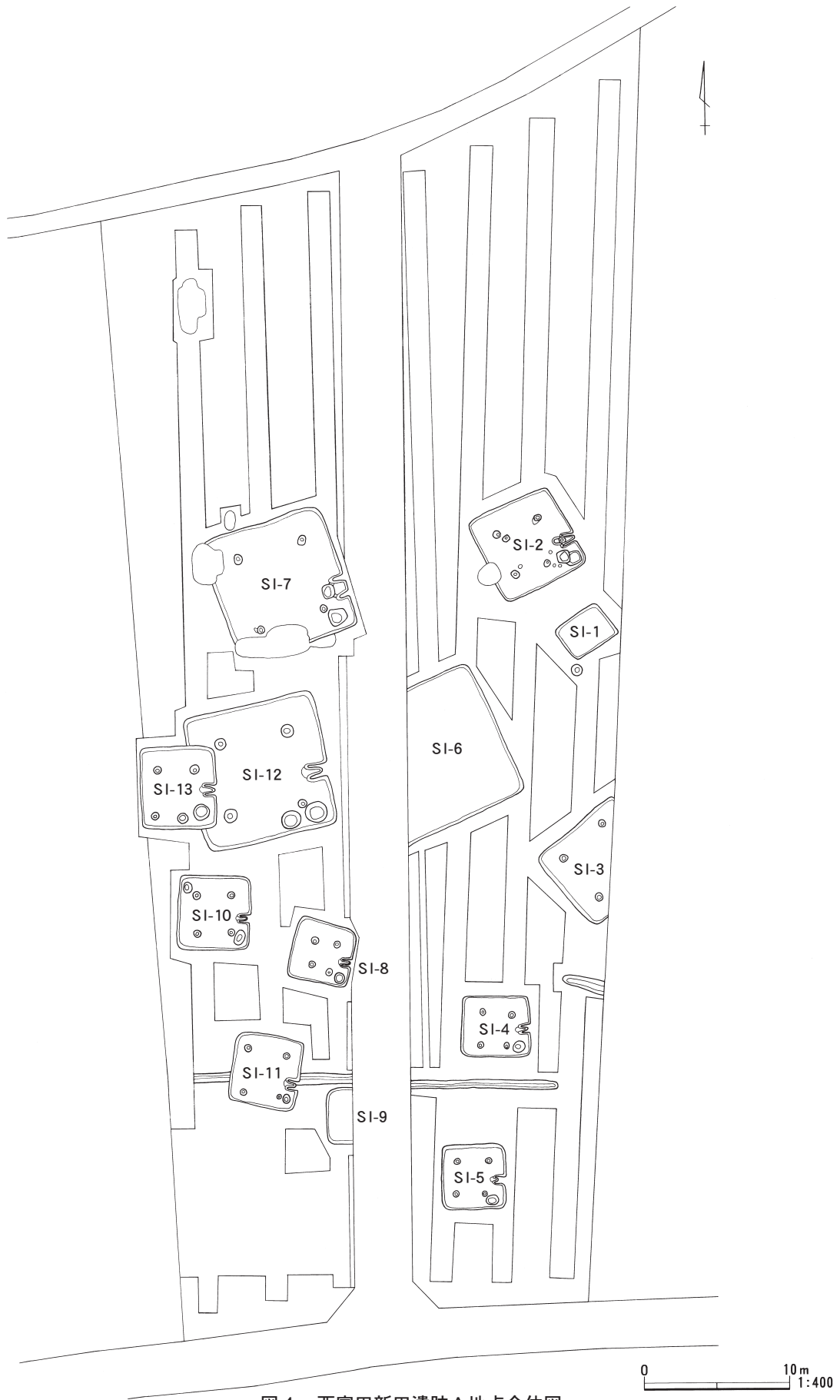


图4 西富田新田遺跡A地点全体図

の南半に偏って分布する。両者の間では、一部に重複関係が見られ、SI-12とSI-13が切り合う関係にある。新旧は、SI-12の方が古く、SI-13が新しい。ただし、出土遺物を見るかぎり、前者の悉くが、後者よりも古いということはいえない。

遺物は多量の土師器を検出しているほか、土製・石製の模造品が多く見られる点が注目される。とくに、大型の鏡形土製模造品や馬形・鞍形の土製模造品は希有な資料として特筆される。なお、SI-1・2・5では、床面で焼土や炭化物を検出したことが報告されている。

SI-1 (図5～7)

調査区中央の東端隅に位置し、遺構全体を検出した。平面形は東西に長い隅丸の長方形をなし長辺3.7m、短辺2.9mの規模を有する。確認面から床面までの深さは20cmと浅い。主軸方向はN-70°-Eを示す。柱穴は検出されず、竈、貯蔵穴、壁溝など施設も存在しない。西側を中心に、床面から焼土が多く検出され、炭化材も確認されことから、調査者は火災を受けたことを想定している。

遺物は、土師器坏、高坏、埴、甕、壺、甑が出土しているが、床面までが浅く、耕作の影響もあつてか、完形品は含まれない。現存しないが、鉄鎌の出土も報告されている。

SI-1は、一定量の遺物を出土しているが、完掘をしているにもかかわらず、柱穴、竈、貯蔵穴の施設を検出していない。平面形も長方形をなし、古墳時代中期の住居としては異質に映る。他の住居に比べ、規模も小さいことから、納屋や作業小屋など、通常の居住空間とは異なる機能を有していた可能性が考えられる。

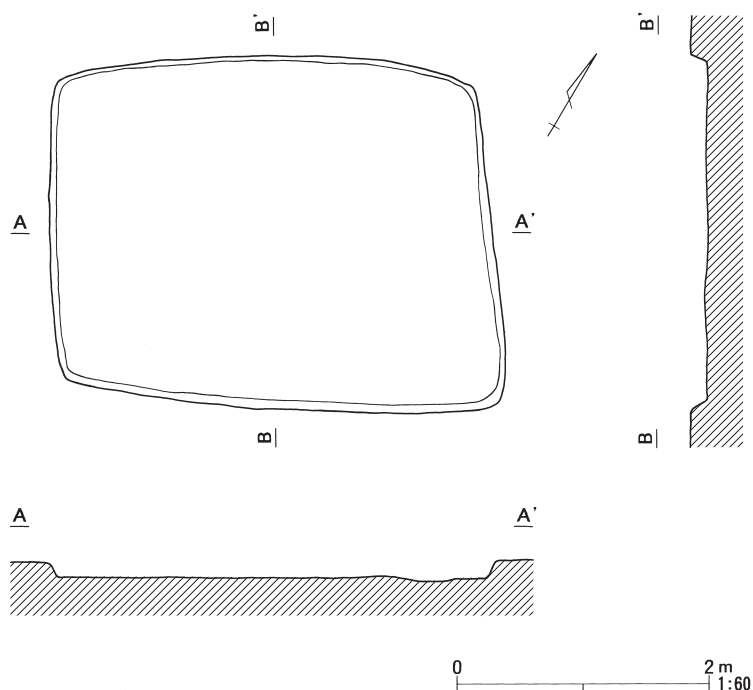
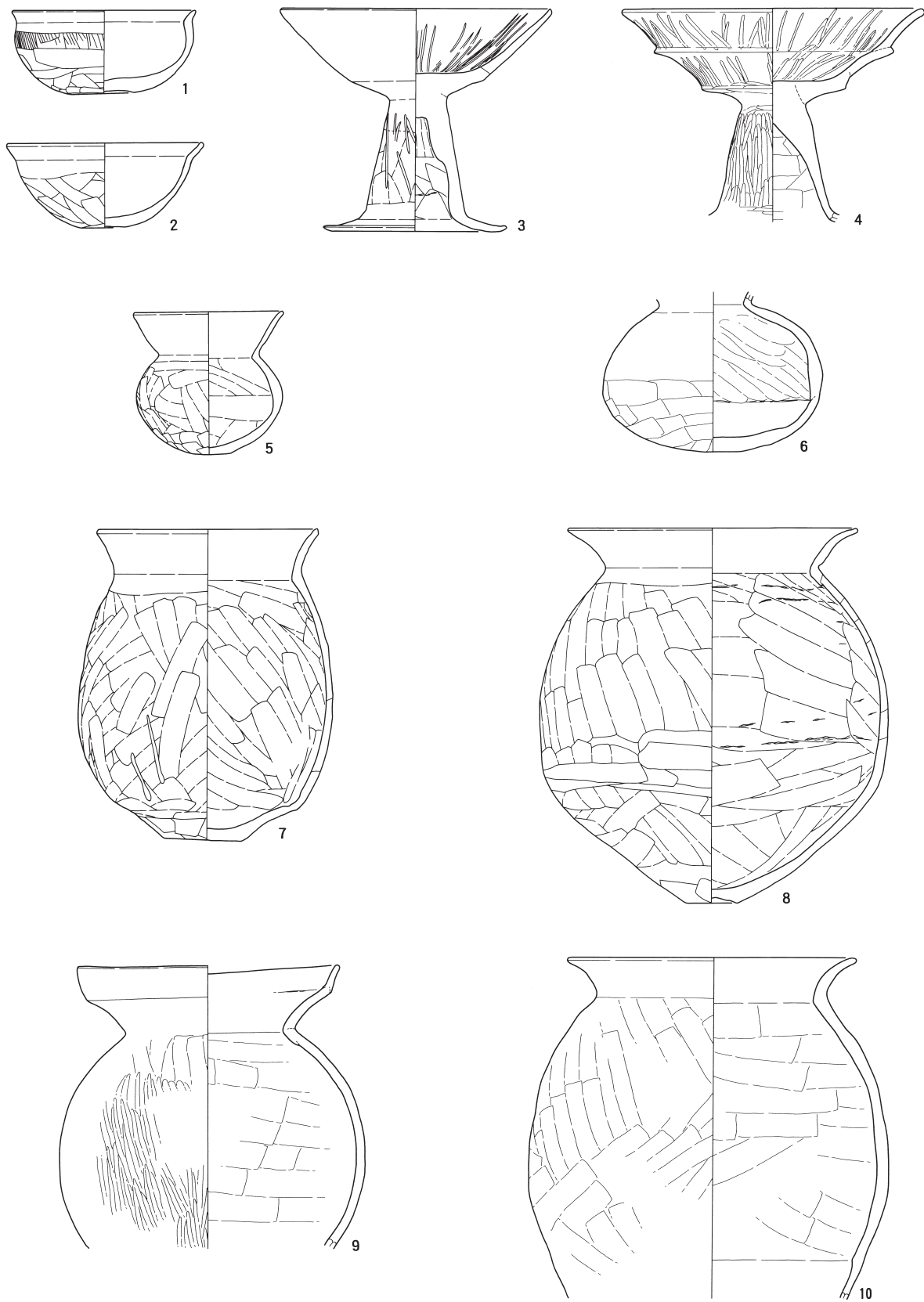


図5 西富田新田遺跡A地点SI-1平面図および断面図



0 10cm 1:4

图6 西富田新田遺跡A地点SI-1出土遺物(1)

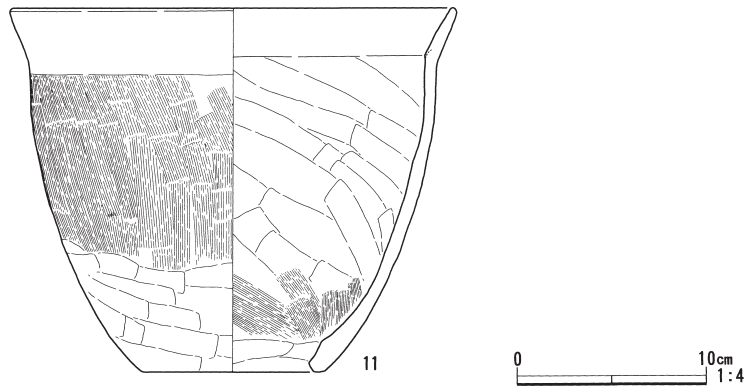


図7 西富田新田遺跡 A 地点 SI-1 出土遺物(2)

SI-1 出土遺物観察表

1	土師器	器	A. 口径12.4。底径4.2。器高6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～下半ナデ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒。E. 外内-にぶい褐色。F. ほぼ完形。
2	土師器	器	A. 口径13.3。底径3.0。器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部～底部ケズリ後体部上位ナデ。内面、ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
3	土師器	器	A. 口径(18.1)。底径(10.8)。器高15.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～裾部ナデ、脚部ミガキ。内面、口縁部～体部ミガキ、脚部～裾部ナデ。D. 片岩・黒色粒。E. 外内-にぶい橙色。F. ほぼ完形。
4	土師器	器	A. 口径20.6。残存高14.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、坏部ナデ後ミガキ、脚部ミガキ。内面、坏部ナデ後ミガキ、脚部ケズリ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外内-橙色。F. 3/4。
5	土師器	器	A. 口径10.2。底径2.4。器高9.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～中位ナデ、下位～底部ケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・黒色粒・白色粒。E. 外内-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。
6	土師器	器	A. 残存高10.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部下半～底部ケズリ。内面、体部ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外-にぶい赤褐色。内-灰褐色。F. 2/3。
7	土師器	器	A. 口径(14.9)。底径(5.3)。器高21.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ後胴部下位～底部ヨコケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒。E. 外内-にぶい橙色。F. 4/5。
8	土師器	器	A. 口径19.6。底径3.4。器高25.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部上位ナデ、胴部中位～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・片岩。E. 外内-にぶい橙色。F. 4/5。
9	土師器	器	A. 口径17.7。残存高19.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後ミガキ。内面、口縁部ナデ、体部ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 1/2。
10	土師器	器	A. 口径(19.6)。残存高23.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-にぶい褐色。内-褐色。F. 2/3。
11	土師器	器	A. 口径(23.6)。底径(9.7)。器高19.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ハケメ・ナデ。内面、口縁部ナデ、体部ナデ・ハケメ。D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石。E. 外内-にぶい褐色。F. 1/2。

SI-2 (図8～11)

調査区中央の東寄り位置し、遺構のほぼ全体を検出したが、西壁の一部が土坑と重複している本調査区の住居群のなかでは、SI-7とともに北端に位置する。平面形は、ほぼ正方形をなし、一辺6.1mほどの規模を有する。確認面から床面までの深さは約20cmである。主軸方向はN-70°-Eを示す。床面には、支柱穴と考えられるピットが、7箇所に見られることから、建て替えがおこなわれた可能性が高いと判断される。

東壁の南寄りには、竈を付設している。竈は、柱穴の位置を避けるようにして、壁に対し、斜行して取り付けられている。左右の袖部が長く残り、燃焼部の中央には、台付甕(図11-7)が支脚として設置されていた。焚き口の手前部分は、床面より若干低く掘り込まれ、焚き口部分には、さらにもう一段深い円形の窪みが設けられている。壁外に延びる煙道は認められず、高い天井部を有した竈で

あったことが推測される。

竈の南側、住居の南東隅には、隅丸方形に近い形状の貯蔵穴が、2基重複して存在している。調査者は貯蔵穴の作り替えがあったと観察しており、柱穴の検出状況から建て替えを想定したことに符合する。床面では、焼土や炭化物が多く観察されていることから、火災を受けたことが想定されている。

遺物は中央から東側に出土し、遺構の規模が大きい割には、床面までの深さがなかったためか、総量はさほど多くはなく、完形品も含まれない。土師器鉢、小型甕、甕、甌のほか、竈内部から台付甕を出土している。他の住居に比較して、坏、高坏などの供膳具が目立たない。甌は体部の膨らむ大型品で、外反する頸部をもつ。

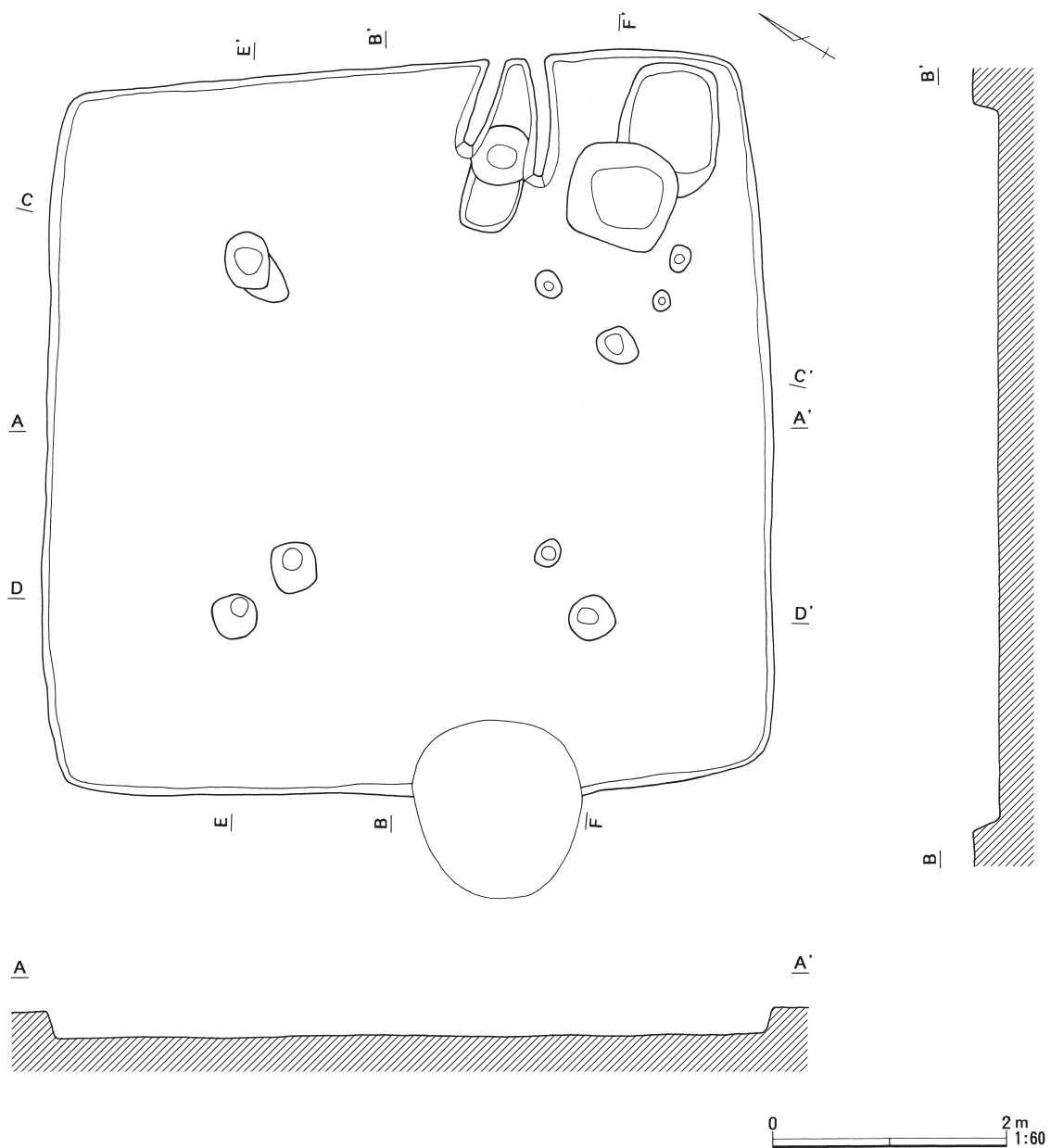


図8 西富田新田遺跡A地点 SI-2 平面図および断面図(1)

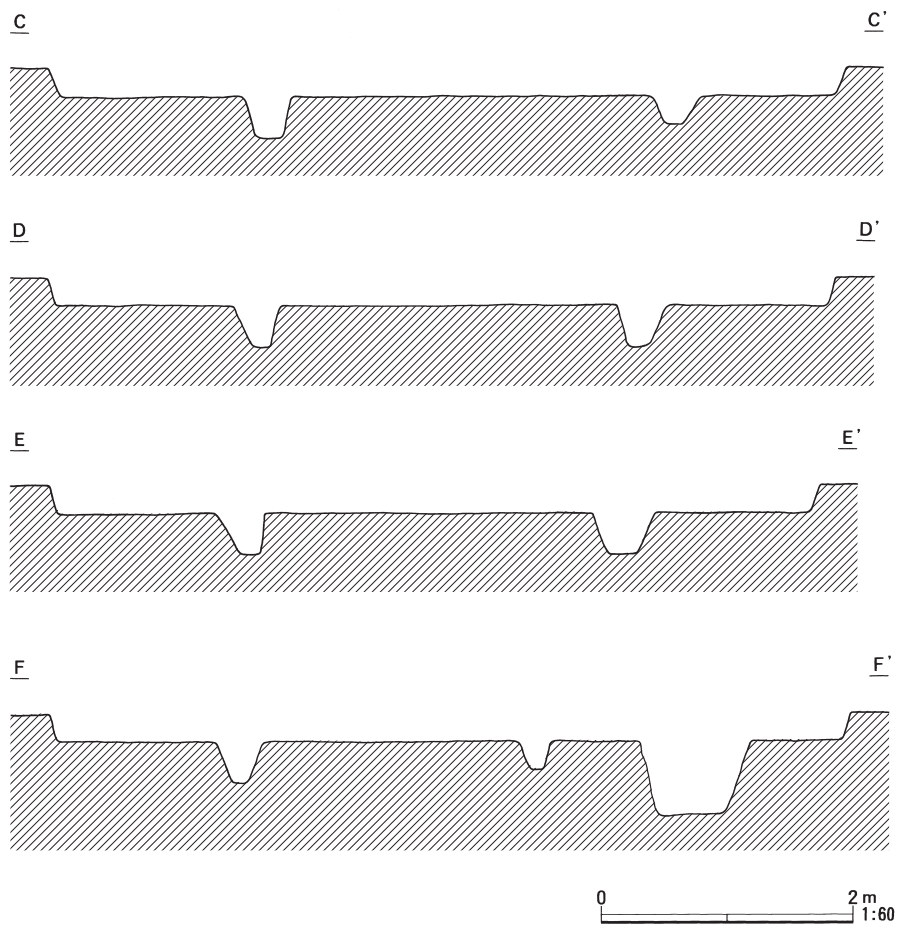


図9 西富田新田遺跡A地点 SI-2 断面図(2)

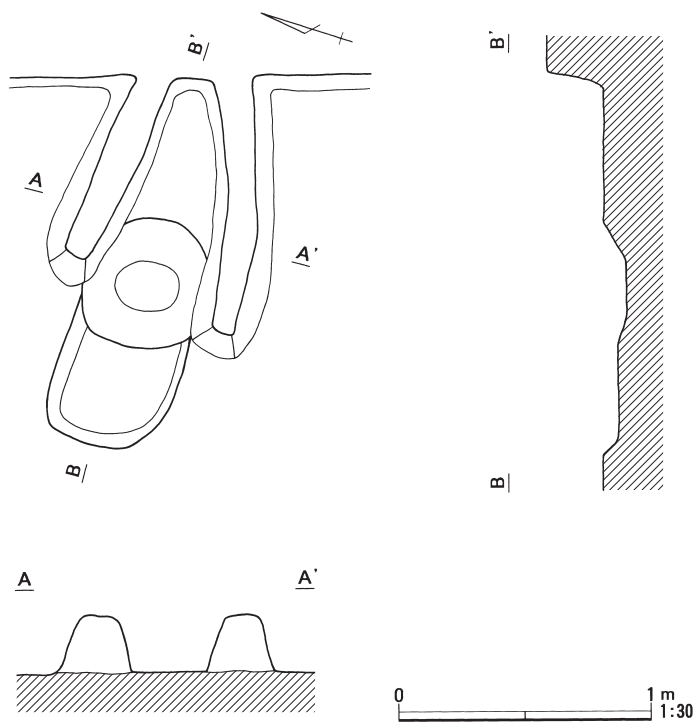


図10 西富田新田遺跡A地点 SI-2 カマド平面図および断面図

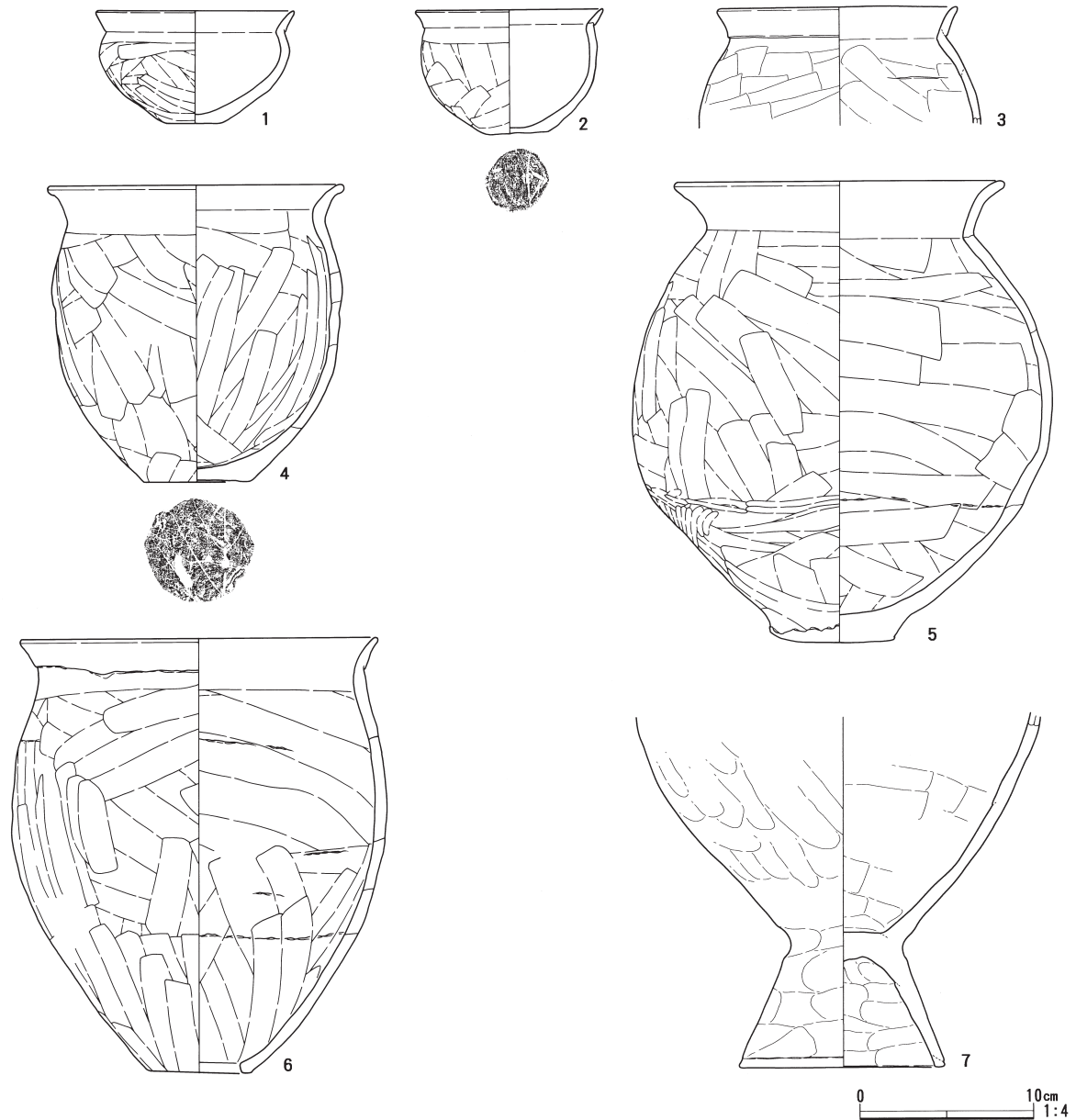


図11 西富田新田遺跡A地点 SI-2 出土遺物

SI-2 出土遺物観察表

1	土師器	鉢	A. 口径11.4。底径3.1。器高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・黒色粒。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
2	土師器	鉢	A. 口径(10.8)。底径3.6。器高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・片岩。E. 外-にぶい黄橙色。内-にぶい橙色。F. 4/5。G. 底部木葉痕。
3	土師小形	器甕	A. 口径13.8。残存高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. 1/3。
4	土師小形	器甕	A. 口径17.0。底径6.1。器高17.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ、底部ナデ後木葉痕。D. 白色粒・黒色粒。E. 外-にぶい黄橙色。内-にぶい橙色。F. 1/2。
5	土師器	甕	A. 口径19.0。底径7.2。器高26.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外-にぶい橙色。内-橙色。F. 4/5。
6	土師器	甕	A. 口径20.6。底径3.0。器高25.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 白色粒・黒色粒。E. 外-にぶい黄橙色。内-橙色。F. 5/6。
7	土師器	付台甕	A. 底径11.8。残存高20.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石。E. 外内-にぶい黄褐色。F. 1/2。

SI-3 (図12)

調査区中央の東端にあって、1/3ほどが調査区外にある。平面形は整った方形をなし、一辺6.2mほどの規模を有する。壁は垂直で、確認面から床面までの深さは35cm前後である。主軸方向はN-50°-Eを示す。柱穴は3箇所で見出されている。いずれも主柱穴である。平面形は整った方形をなし、南北で6.6mほどの規模を有する。竈などの燃焼施設、壁溝、貯蔵穴は認められない。

遺物の出土量は少ないが、遺存状態は良好である。土師器埴、小型甕、甕が出土している。埴、小型甕は完形品である。

SI-4 (図13・14)

調査区南半の東寄りにある。遺構の状態は良好で、全掘している。平面形は整った長方形をなし、主軸方向をほぼ真東に向ける。東西は約4.7m、南北4.3mの規模を有する。確認面から床面までの深さは30cm前後である。柱穴は4箇所で見出され、いずれも主柱穴である。東壁のほぼ中央に竈を付設している。竈の燃焼部中央には、支脚として高坏(図13-5)を設置している。また、南東隅に貯蔵穴が存在する。壁溝は見られない。

遺物は多量の土師器のほか土製品、砥石を出土している。重機の加重で破損したと思われるものも少なくないが、坏、高坏、埴に完形品が含まれる。13は把手付甕の破片で、外面調整には細かなハケを施している。砥石は、石英安山岩製で、摩耗痕が観察される。板状土製品の原形は不詳であるが、SI-7出土の鏡形土製品などと同じ胎土である。

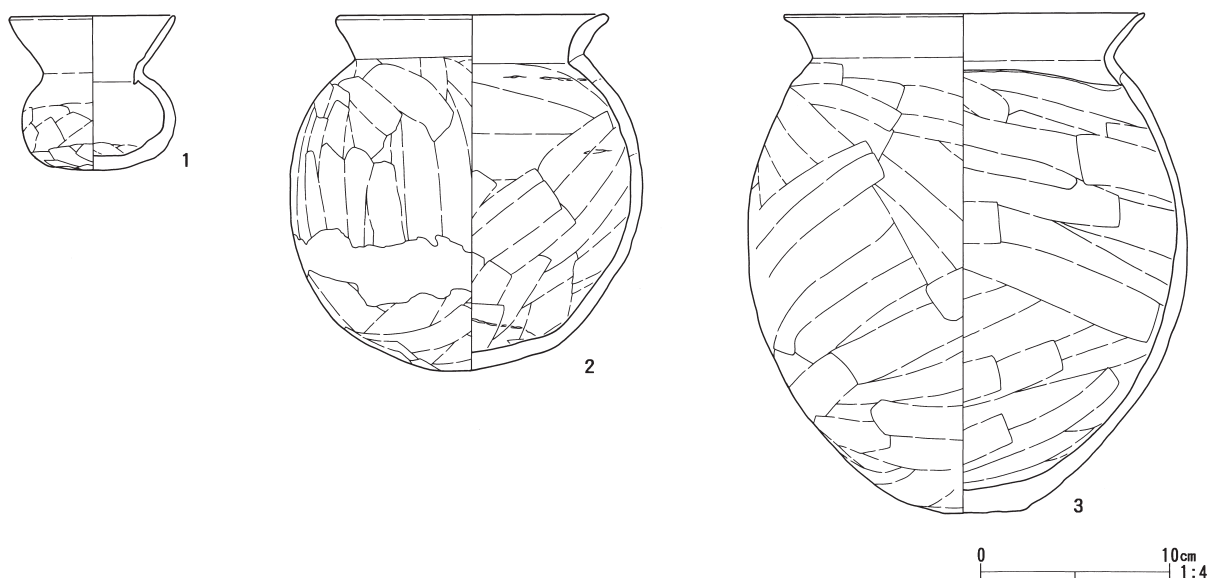


図12 西富田新田遺跡A地点 SI-3 出土遺物

SI-3 出土遺物観察表

1	土師器 埴	A. 口径8.8。器高8.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部中位ナデ、下位～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外内一明赤褐色。F. 完形。
2	土師器 小形甕	A. 口径14.4。器高13.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・黒色粒・片岩。E. 外-にぶい黄橙色。内-にぶい赤褐色。F. 完形。
3	土師器 甕	A. 口径19.0。底径6.6。器高26.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ケズリ後ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・黒色粒・チャート。E. 外内-にぶい橙色。F. 5/6。

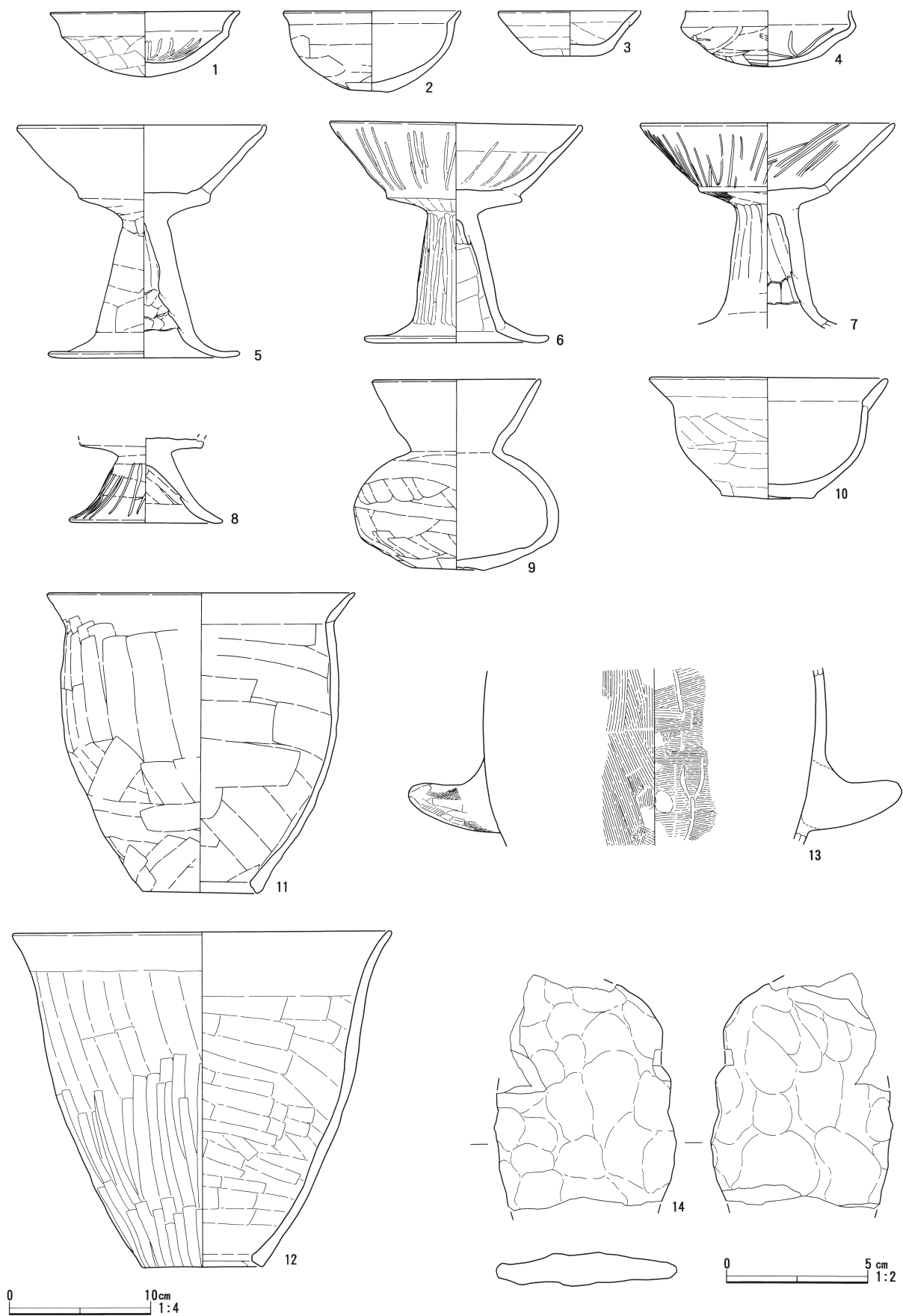


图13 西富田新田遺跡A地点SI-4出土遺物(1)

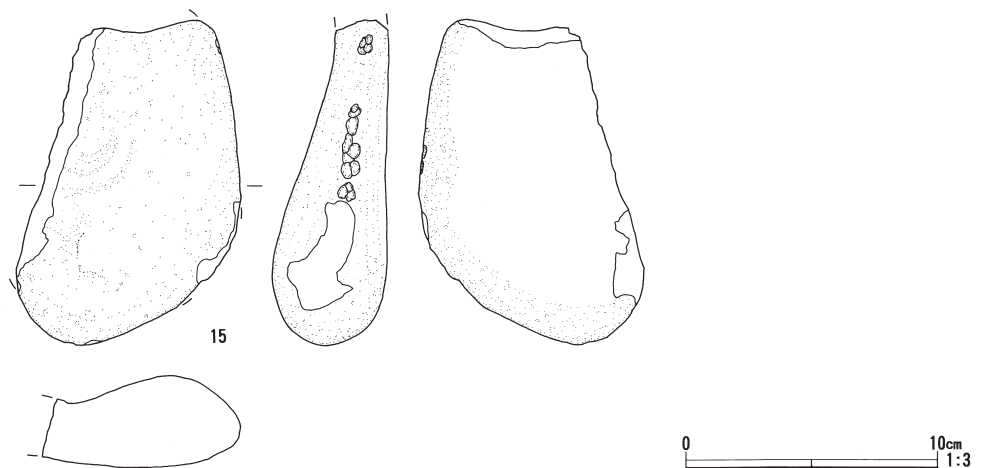


図14 西富田新田遺跡A地点 SI-4 出土遺物(2)

SI-4 出土遺物観察表

1	土師器	器	A. 口径(13.4)。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ヘラ調整。内面、口縁部ナデ、体部ミガキ。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 2/3。
2	土師器	器	A. 口径12.5。底径2.7。器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上半ナデ、底部ナデ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 白色粒・赤色粒・片岩。E. 外内-にぶい橙色。F. 5/6。
3	土師器	器	A. 口径(10.1)。器高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナデ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
4	土師器	器	A. 口径11.7。器高4.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部上半ナデ、下半~底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、体部~底部ナデ後ミガキ。D. 白色粒・黒色粒。E. 外内-にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。
5	土師器	器	A. 口径(17.7)。底径(13.5)。器高16.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~裾部ナデ。内面、口縁部~裾部ナデ。D. 白色粒・赤色粒。E. 外内-にぶい橙色。F. 4/5。H. カマド。
6	土師器	器	A. 口径17.9。底径(13.1)。器高15.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~脚部ミガキ。内面、口縁部ミガキ、脚部ケズリ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-明黄褐色・内-にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。
7	土師器	器	A. 口径18.0。残存高14.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ミガキ、体部ナデ、脚部~裾部ナデ。内面、口縁部~体部ミガキ、脚部、裾部ナデ。D. 黒色粒・石英。E. 外内-橙色。F. 4/5。H. カマド。
8	土師器	器	A. 底径10.9。残存高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部ナデ、脚部ナデ後ミガキ。内面、体部ナデ後ミガキ、脚部ナデ。D. 黒色粒・赤色粒・白色粒。E. 外-にぶい黄褐色。内-にぶい橙色。F. 脚部片。
9	土師器	器	A. 口径11.9。底部5.0。器高13.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ、胴部下位~底部ケズリ。内面、口縁部~底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・石英。E. 外内-橙色。F. 完形。
10	土師器	器	A. 口径16.9。底径6.5。器高8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 3/4。
11	土師器	器	A. 口径21.7。底径8.1。器高21.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~胴部ナデ。内面、口縁部~胴部ナデ。D. 黒色粒・赤色粒・白色粒。E. 外内-橙色。F. 4/5。H. カマド、貯蔵穴。
12	土師器	器	A. 口径(26.9)。底径8.6。器高23.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部ナデ、下半ケズリ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 赤色粒子・白色粒子・角閃石。E. 外-にぶい褐色・内-明赤褐色。F. 2/3。
13	土師器	器	A. 残存高12.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、把手ナデ・ハケメ、体部ハケメ。内面、体部ハケメ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-にぶい褐色・内-褐色。F. 破片。
14	板状土製品		A. 残存長8.4。最大幅6.5。厚さ1.1。B. 手捏ね。C. ユビナデ。D. 白色粒子。E. 外内-にぶい橙色。F. 破片。G. 破損後に被熱か。
15	砥石		A. 長さ12.9。幅8.9。厚さ4.6。重さ523.75。石材 石英安山岩。G. 先端部欠損。右側縁敲打痕。表面中央に摩耗痕あり。

SI-5 (図15)

調査区南半の東寄りにあって、SI-4からは南に6mほどの距離を置いている。遺構の状態は良好で、全掘をおこなっている。平面形は正方形をなし、主軸方向をほぼ真東に向ける。一辺約は4.4mほどの規模を有する。確認面から床面までの深さは35cm前後である。柱穴は4箇所検出され、い

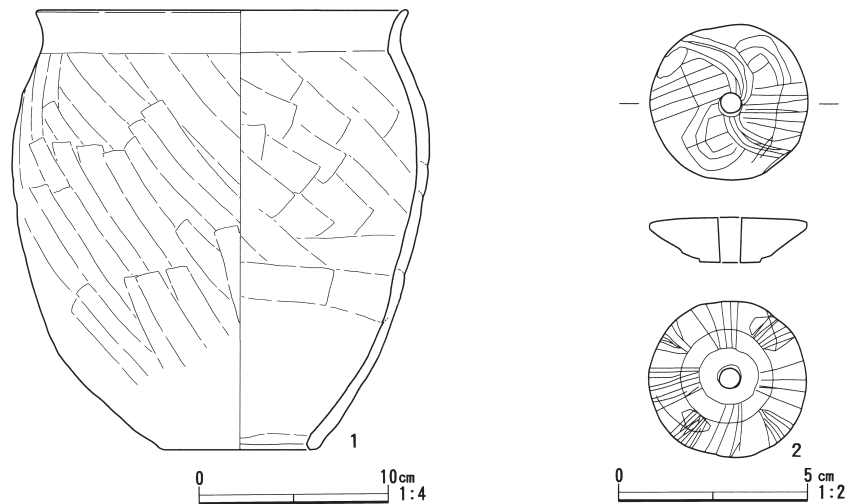


図15 西富田新田遺跡A地点 SI-5 出土遺物

SI-5 出土遺物観察表

1	土師器 甑	A. 口径(19.7)。底径(8.1)。器高23.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 3/4。
2	石製紡錘車	A. 上径4.2。下径1.6。高さ1.2。重さ22.7。B. 削り・研磨。C. 上面、ウールマーク状線刻。側面、放射状・鋸歯文状線刻。D. 蛇紋岩。E. 濃緑色。F. 完形。

れも支柱穴である。東壁のほぼ中央に竈を付設し、南東隅に貯蔵穴があって、壁溝が見られない点などは、SI-4と同様である。床面では炭化物が多く観察されていることから、調査者は火災を受けたことを想定している。

遺物は少なく、土師器甑1点のほかには、鋸歯文状の刻線をもつ蛇紋岩製の紡錘車が1点出土している。

SI-6 (図16)

調査区のほぼ中央にあって、西側の1/4ほどが道路にかかり、全形を把握することができなかった。平面形はほぼ正方形をなし、一辺9.3mを計測する大型の遺構である。主軸方向はN-70°-Eを示す。床面はとくに攪乱を受けている状況ではないが、柱穴は検出されず、竈などの燃焼施設、貯蔵穴も、確認できる範囲には存在しない。壁溝も認められない。

遺物は土師器坏、高坏などの出土が報告されているが、現在SI-6出土遺物として確定しうるのは、器種不明の土製模造品片1点のみである。

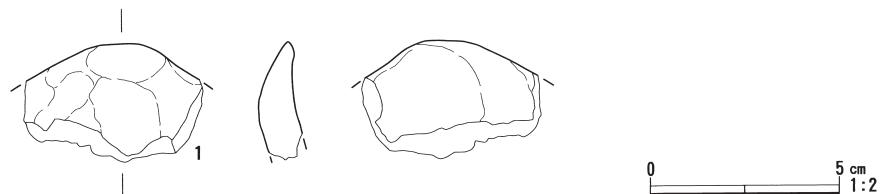


図16 西富田新田遺跡A地点 SI-6 出土遺物

SI-6 出土遺物観察表

1	土製模造品 不明	A. 残存長3.1。残存幅4.7。厚さ1.1。B. 手捏ね。C. ユビナデ。D. 白色粒子。E. 外内-にぶい橙色。F. 破片。
---	-------------	--

SI-7 (図17~24)

調査区中央の西寄りにあって、本調査区の住居群のなかでは、SI-2とともに北端に位置する。平面形はほぼ正方形をなし、一辺約8mの規模を有する。南側から北西側にかけての一部が、土壌状の掘り込みにより失われている。確認面から床面までの深さは約45cmである。主軸方向はN-70°-Eを示す。床面はほぼ平坦に掘削されている。柱穴は4箇所で見出され、いずれも主柱穴である。東壁の南寄りに竈を付設している。竈は、燃烧部が床面より低く、焚き口にはさらに一段深い不整形の浅

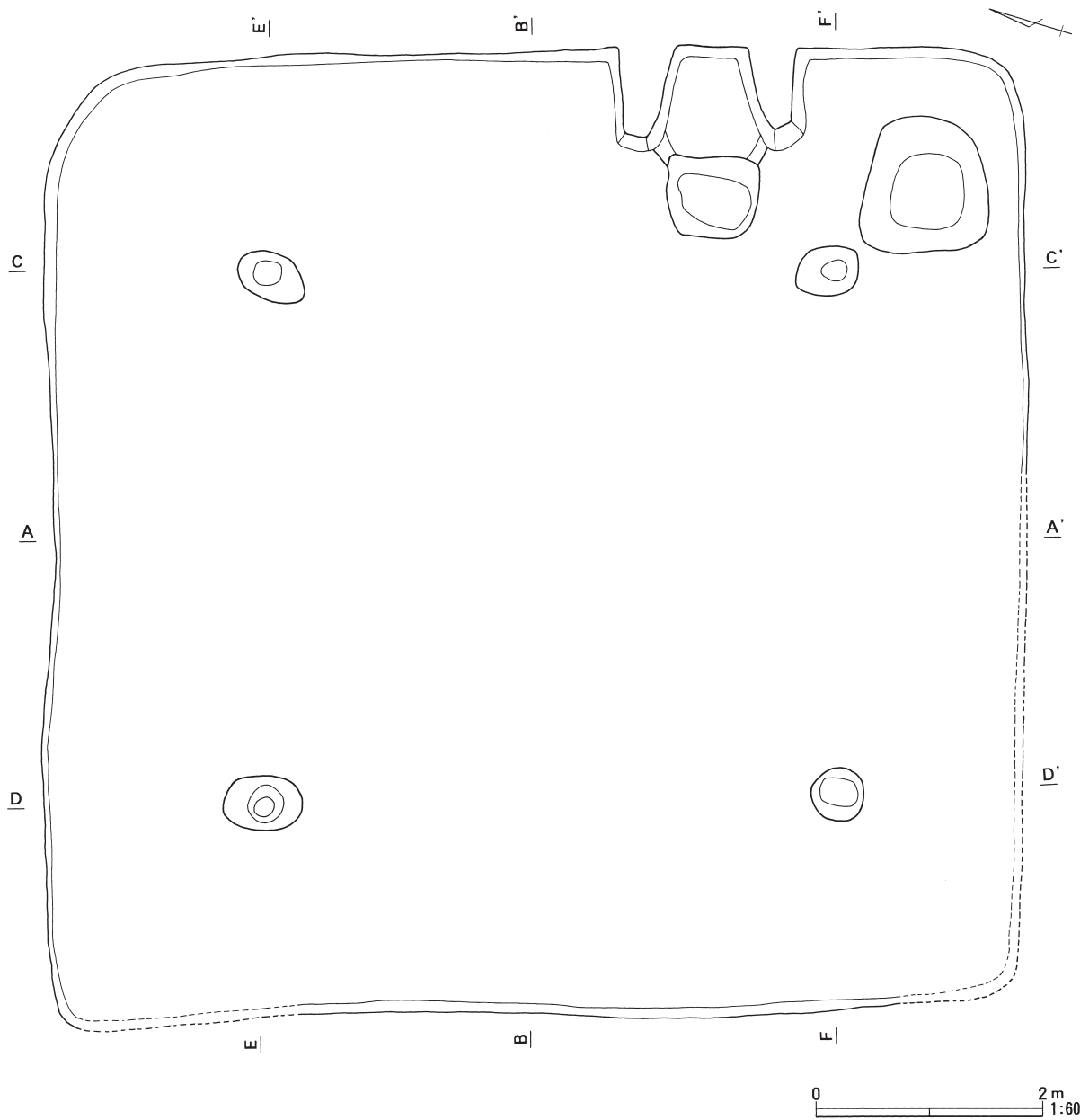


図17 西富田新田遺跡A地点 SI-7 平面図

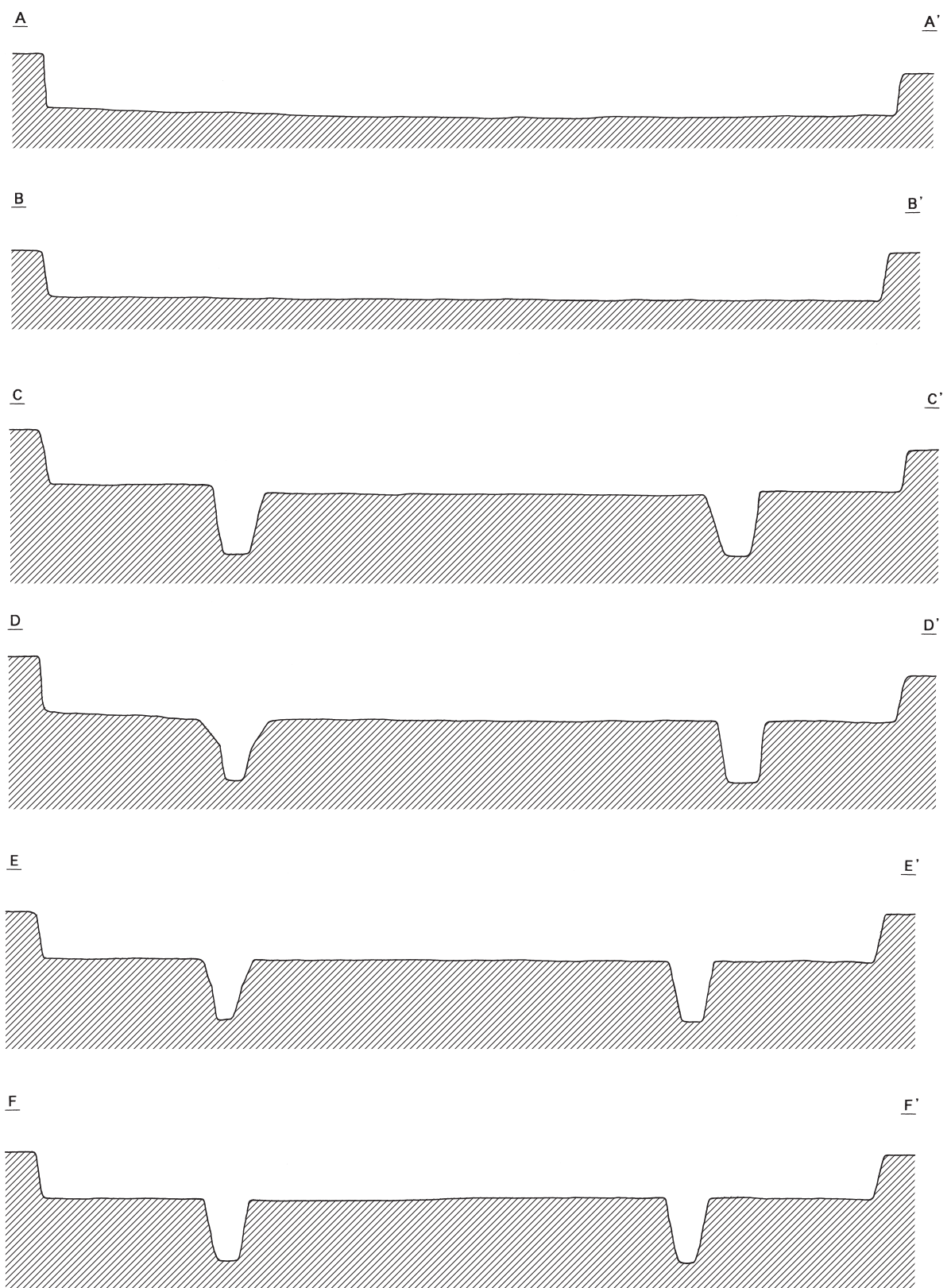


图18 西富田新田遺跡A地点 SI-7 断面図

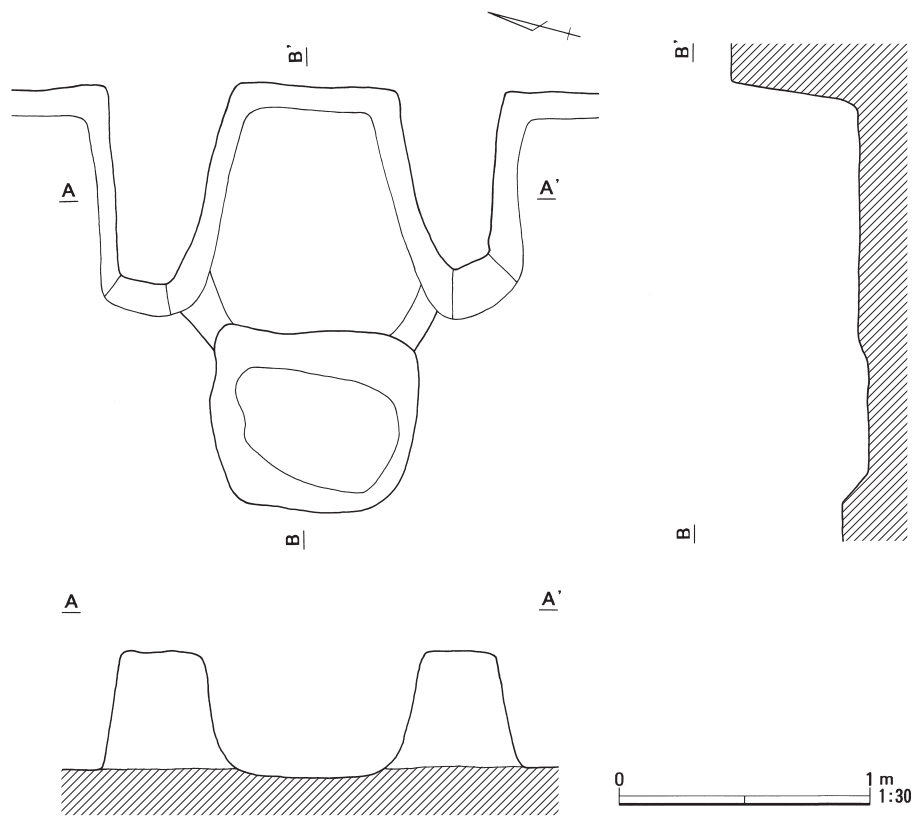


図19 西富田新田遺跡A地点 SI-7カマド平面図および断面図

掘り込みが認められる。袖部も良好に残っているが、壁外に延びる煙道は認められず、高い天井部を有した竈であったことが推測される。周囲からは土師器坏、同高坏を中心に、多量の土器を出土している。南東隅には貯蔵穴が確認されている。開口部が1.1×1.2mほどの大型貯蔵穴で、床面からの深さは60cmを計測する。貯蔵穴の内部からは土師器坏や同小型甕などを中心に、多数の土器類が落ち込んだ状態で検出されている。

遺物は土師器坏、高坏、柑、甕を中心に多量に出土しており、完形品の占有率も高い。とくに、竈と貯蔵穴の周辺では、集中的な出土を見ている。坏では、口縁部にヨコナデを加える須恵器模倣坏が出現している。高坏では有稜脚の出現率が高い。また、鏡形土製模造品は、手捏ねにより成形され、直径15.4cm、厚さ2.2cm、重量201.8gを計測し、重量感をもつ大型品である。中心部分には、紐孔を造形した痕跡も認められる。

SI-8 (図25・26)

調査区中央の南寄りにあり、遺構の状態は良好で、全掘している。平面形はやや歪な方形をなし、わずかに南北に長い。西壁に比べて、東壁の方が、やや短い。主軸方向を真東よりいくぶん南に向いている。東西約3.8m、南北約4.5mの規模を有する。確認面から床面までの深さは25cm前後である。柱穴は4箇所検出され、いずれも支柱穴である。東壁のほぼ中央に竈を付設している。また、南東隅に貯蔵穴が存在する。壁溝は見られない。

遺物は各種土師器を出土している。坏、高坏、鉢に完形品が含まれる。深身の坏部をもつ高坏や、胴部外面にミガキ調整を施す壺などやや特異な資料が含まれる。

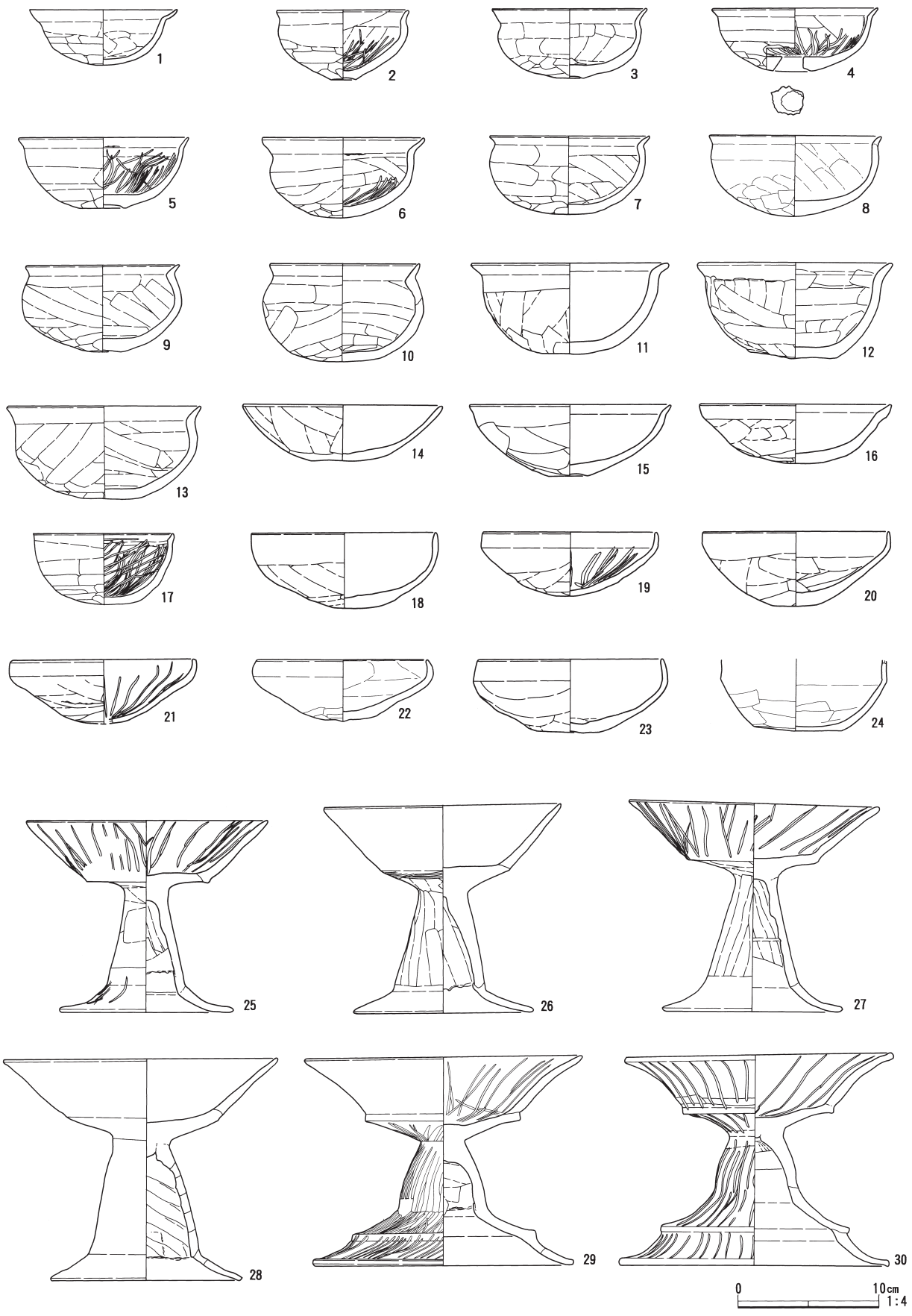


图20 西富田新田遺跡A地点SI-7出土遺物(1)

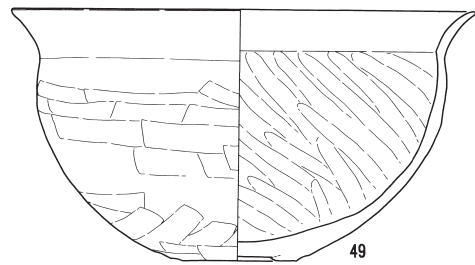
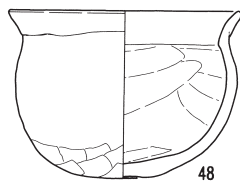
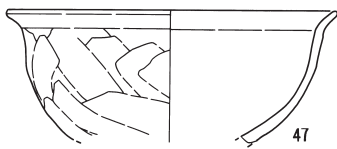
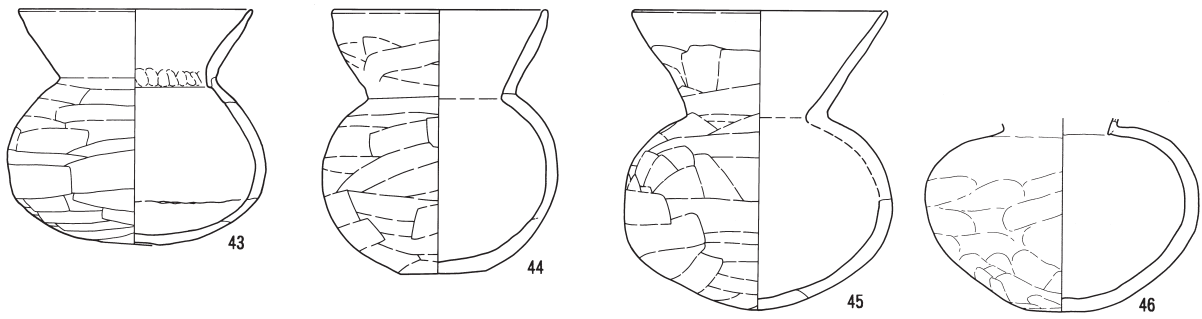
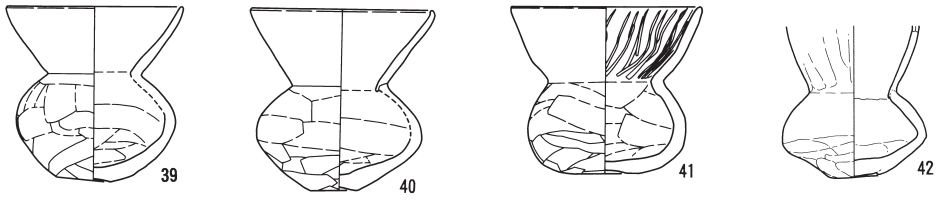
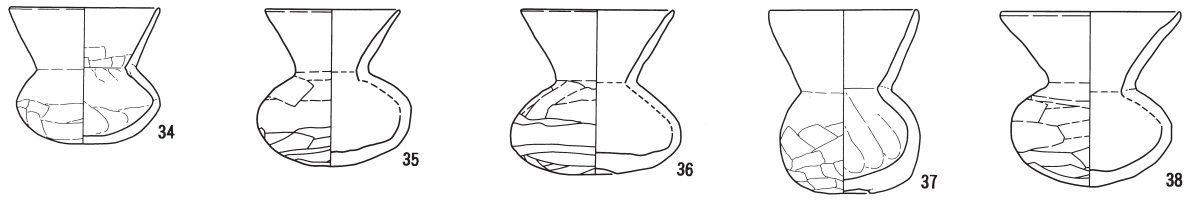
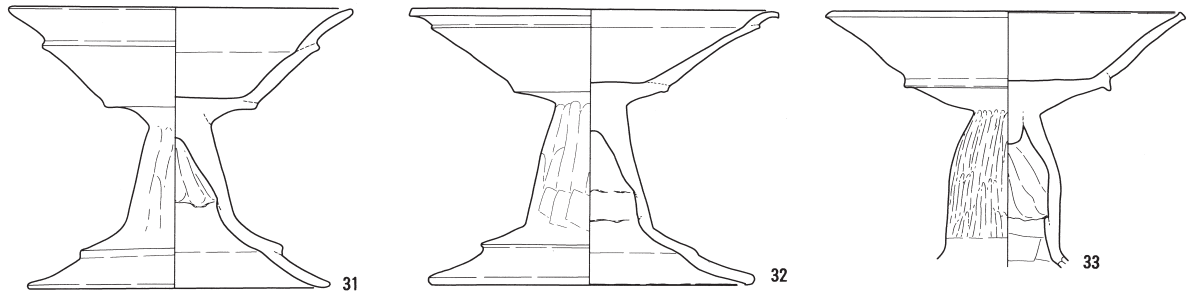


图21 西富田新田遺跡A地点SI-7出土遺物(2)

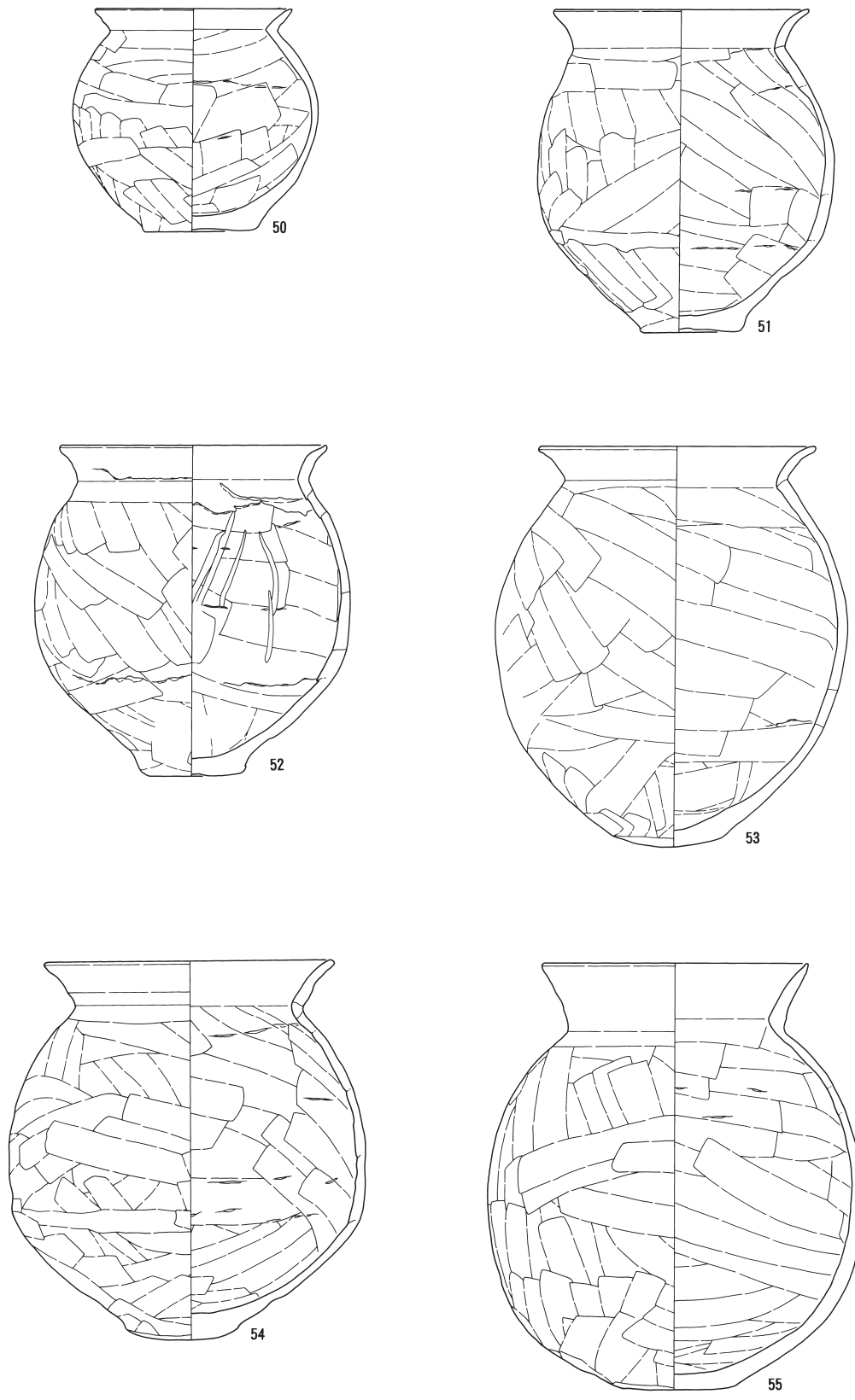
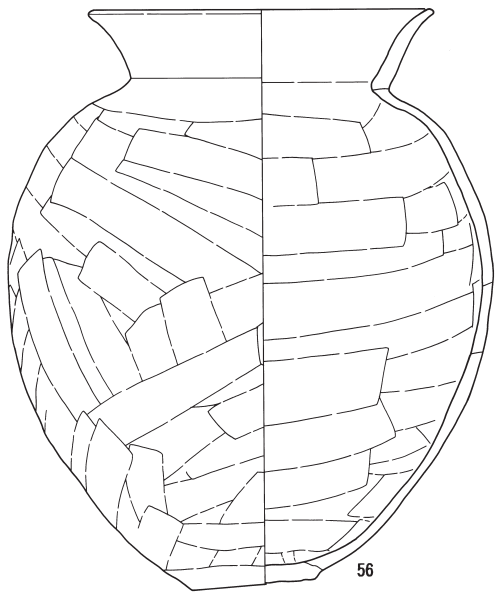
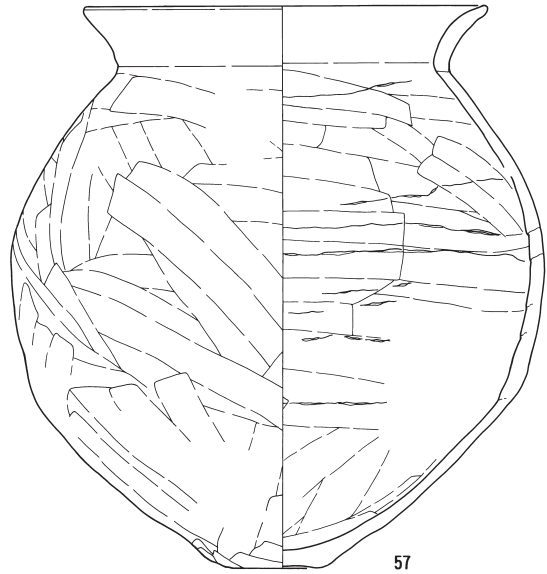


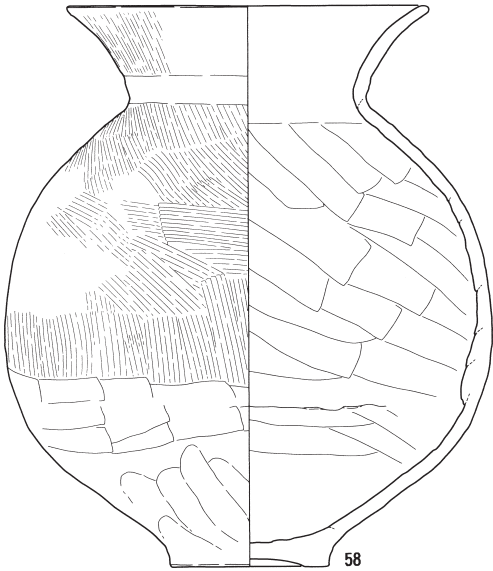
图22 西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(3)



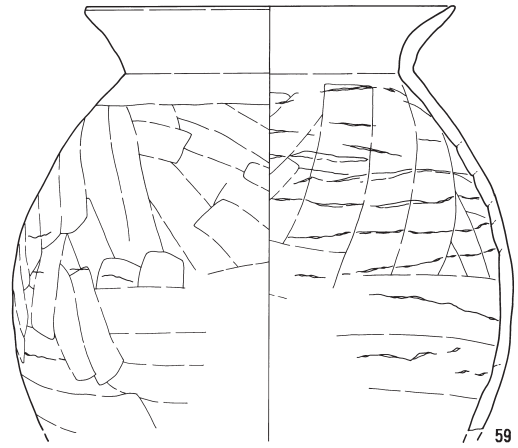
56



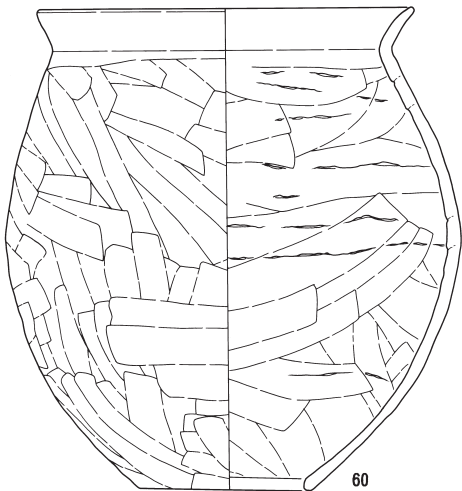
57



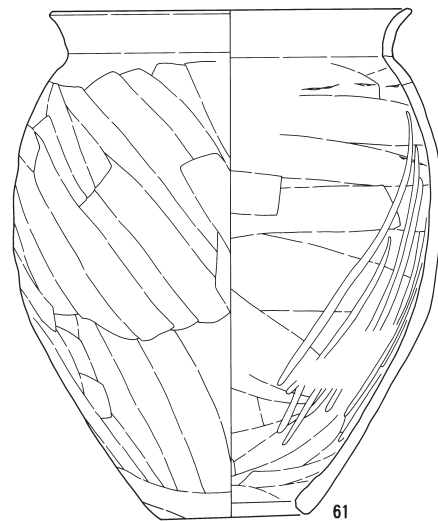
58



59



60



61



图23 西富田新田遺跡A地点SI-7出土遺物(4)

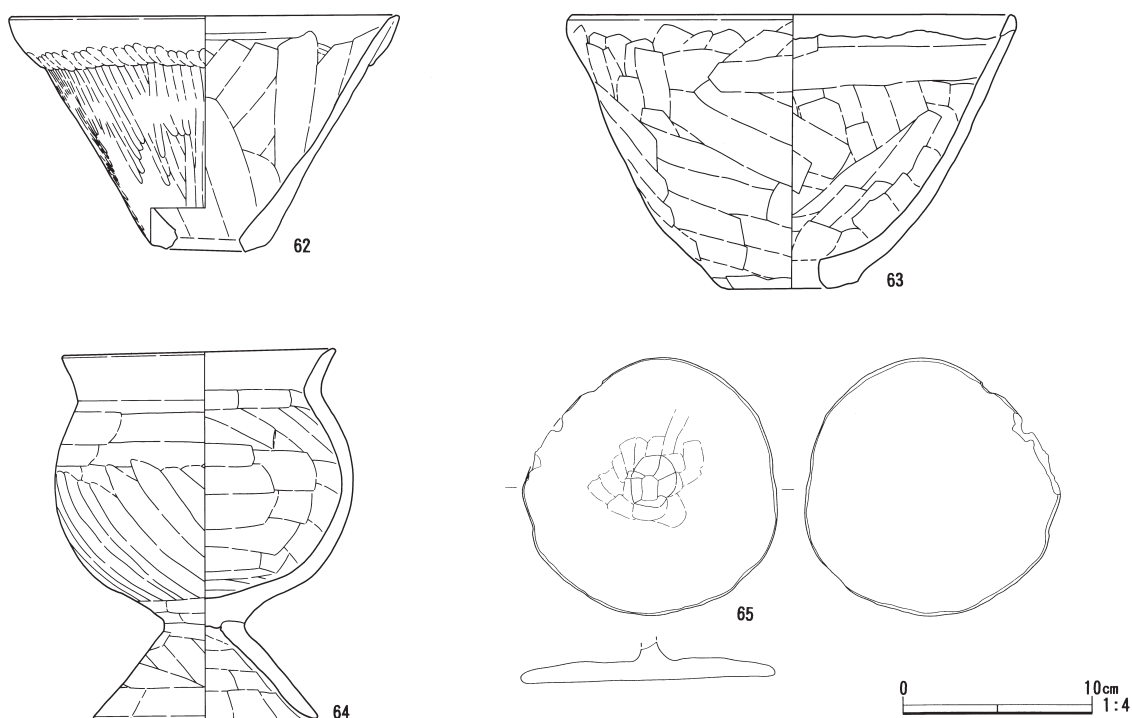


図24 西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(5)

SI-7 出土遺物観察表

1	土師器	A. 口径10.4。器高3.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上位ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
2	土師器	A. 口径9.4。底径1.8。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上位ナデ、底部ナデ。内面、口縁部ナデ、体部ミガキ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-明黄褐色。F. ほぼ完形。
3	土師器	A. 口径11.0。底径2.0。器高4.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~底部ナデ。内面、口縁部~体部ナデ、底部ケズリ。D. 白色粒・片岩・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
4	土師器	A. 口径11.8。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上位ナデ。内面、口縁部ナデ、体部ナデ後ミガキ。D. 白色粒・赤色粒・雲母。E. 外-褐色。内-にぶい黄褐色。F. 4/5。
5	土師器	A. 口径12.0。底径3.0。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上半ナデ。内面、ナデ後体部にミガキ。D. 白色粒・角閃石・片岩。E. 外-橙色。内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
6	土師器	A. 口径11.5。器高5.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部下半ケズリ後上半ナデ。内面、口縁部ナデ、体部ナデ後ミガキ。D. 白色粒・角閃石・片岩。E. 外内-橙色。F. 4/5。
7	土師器	A. 口径11.4。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上半ナデ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 赤色粒・白色粒・角閃石・片岩。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
8	土師器	A. 口径(12.2)。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部下半~底部ヘラ調整。内面、口縁部~体部ナデ。D. 赤色粒子・角閃石・白色粒子。E. 外-橙色。内-明赤褐色。F. 2/3。
9	土師器	A. 口径10.8。底径2.1。器高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上半ナデ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 赤色粒・白色粒・雲母。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
10	土師器	A. 口径10.7。器高7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部下半ケズリ上半ナデ。内面、口縁部ナデ、体部ケズリ後ナデ。D. 赤色粒・白色粒・角閃石。E. 外-黄褐色。内-橙色。F. ほぼ完形。
11	土師器	A. 口径14.0。底径4.0。器高6.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部ナデ、底部ナデ。内面、口縁部~底部ナデ。D. 白色粒・角閃石・赤色粒。E. 外内-橙色。F. 5/6。H. カマド。
12	土師器	A. 口径13.8。器高6.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~体部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・チャート・片岩。E. 外-橙色。内-明黄褐色。F. ほぼ完形。
13	土師器	A. 口径13.8。器高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上半ナデ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 赤色粒・白色粒・角閃石・片岩。E. 外内-明黄褐色。F. ほぼ完形。

14	土師器 坏	A. 口径14.2。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口唇部ナデ、体部～底部ケズリ後体部上半ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・黒色粒。E. 外-明赤褐色。内-橙色。F. 4/5。
15	土師器 坏	A. 口径14.3。底径2.8。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部～底部ケズリ後体部上半ナデ。内面、口縁部ナデ～底部ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
16	土師器 坏	A. 口径(13.6)。器高4.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部～底部ケズリ後体部上半ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外内-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。
17	土師器 坏	A. 口径10.0。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上位ナデ。内面、ナデ後体部ミガキ。D. 白色粒・赤色粒・黒色粒・角閃石・石英。E. 外内-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。
18	土師器 坏	A. 口径(13.2)。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部中位ナデ、体部下位～底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 1/2。
19	土師器 坏	A. 口径12.5。器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部～底部ケズリ体部上半ナデ。内面、口縁部～底部ナデ後ミガキ。D. 黒色粒・角閃石・白色粒。E. 外-にぶい黄褐色。F. ほぼ完形。
20	土師器 坏	A. 口径13.2。器高5.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ケズリ後体部上半ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部ナメナデ。D. 白色粒・黒色粒。E. 外内-橙色。F. 3/5。
21	土師器 坏	A. 口径13.2。器高(4.5)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部～底部ケズリ後体部上半ナデ。内面、口縁部～底部ナデ後ミガキ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
22	土師器 坏	A. 口径12.2。器高4.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ。底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
23	土師器 坏	A. 口径(13.2)。底径4.4。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部～底部ケズリ後体部中位ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 赤色粒・白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. 3/5。
24	土師鉢	A. 底径6.3。残存高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部下半・底部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-褐色。内-にぶい褐色。F. 1/3。
25	土師器 高坏	A. 口径17.1。底径(11.3)。器高13.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ミガキ。内面、口縁部～体部ミガキ、脚部ヨコケズリ、裾部ナデ。D. 白色粒・角閃石・赤色粒。E. 外内-橙色。F. 4/5。
26	土師器 高坏	A. 口径16.8。底径(12.7)。器高14.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部から体部ハケメ後ナデ、脚部～裾部ナデ。内面、口縁部～裾部ナデ。D. 白色粒・黒色粒・石英。E. 外内-橙色。F. 5/6。
27	土師器 高坏	A. 口径17.8。底径12.8。器高14.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ミガキ、体部～裾部ナデ。内面、口縁部～体部ミガキ、脚部ケズリ、裾部ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-橙色。F. 5/6。
28	土師器 高坏	A. 口径19.5。底径13.7。器高15.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、器面荒れ激しい。内面、口縁部～裾部ナデ。D. 石英・白色粒・角閃石。E. 外-橙色。内-明褐色。F. 3/4。
29	土師器 高坏	A. 口径(19.7)。底径18.4。器高14.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～脚部ナデ・裾部ミガキ。内面、口縁部～体部ミガキ、脚部～裾部ナデ。D. 角閃石・白色粒・石英。E. 外内-橙色。F. 5/6。
30	土師器 高坏	A. 口径19.0。底径19.1。器高15.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～脚部ナデ、裾部ミガキ。内面、口縁部～体部ミガキ、脚部～裾部ナデ。D. 角閃石・白色粒・石英。E. 外内-橙色。F. 5/6。
31	土師器 高坏	A. 口径(18.2)。底径16.0。器高14.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、坏部～裾部ナデ。内面、坏部～裾部ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外内-橙色。F. 2/3。
32	土師器 高坏	A. 口径19.6。底径17.3。器高14.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、坏部～裾部ナデ。内面、坏部～裾部ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. 3/4。
33	土師器 高坏	A. 口径19.1。残存高13.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、坏部ナデ、脚部ミガキ。内面、坏部～脚部ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 2/3。
34	土師器 高坏	A. 口径(8.0)。器高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部下半ヘラ調整。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-にぶい赤褐。F. 3/4。
35	土師器 高坏	A. 口径7.2。器高8.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後下位ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外-にぶい黄褐色。内-にぶい褐色。F. 完形。
36	土師器 高坏	A. 口径8.1。底径2.7。器高7.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ下位ケズリ、底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・角閃石・白色粒・チャート。E. 外内-褐色。F. ほぼ完形。
37	土師器 高坏	A. 口径8.0。底径2.2。器高9.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部～底部ケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
38	土師器 高坏	A. 口径9.5。器高9.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ケズリ上半ナデ、底部ナデ。内面、口縁部ミガキ、胴部～底部ナデ。D. 黒色粒・角閃石・白色粒・石英。E. 外内-褐色。F. ほぼ完形。
39	土師器 高坏	A. 口径9.4。底径2.9。器高9.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部～底部ケズリ体部上半ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外内-褐色。F. ほぼ完形。

40	土師器	A. 口径9.8。底径2.4。器高8.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部～底部ケズリ体部上半ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・石英。E. 外内-にぶい橙色。F. ほぼ完形。
41	土師器	A. 口径10.1。底径3.0。器高8.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ケズリ上半ナデ、底部ナデ。内面、口縁部ミガキ、胴部～底部ナデ。D. 黒色粒・角閃石・白色粒。E. 外内-橙色。F. 完形。
42	土師器	A. 底径3.0。残存高8.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヘラ調整後ナデ、体部下半・底部、ヘラ調整。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-橙色。F. 2/3。
43	土師器	A. 口径12.4。底径3.0。器高12.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部上半ナデ下半ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、頸部オサエ。D. 石英・片岩・角閃石。E. 外内-橙色。F. 4/5。
44	土師器	A. 口径11.4。底径4.4。器高13.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・角閃石・白色粒・石英。E. 外内-にぶい黄橙色。F. ほぼ完形。
45	土師器	A. 口径13.5。器高15.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ココナデ後半ナデ、胴部～底部ナメナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外-にぶい橙色。内-橙色。F. ほぼ完形。
46	土師器	A. 残存高10.2。B. 粘土紐積み上げ。C. ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石。E. 外-明褐色。内-にぶい橙色。F. 2/3。
47	土師鉢	A. 口径17.4。残存高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 黒色粒・角閃石・白色粒。E. 外内-橙色。F. 口縁部～体部1/2。
48	土師鉢	A. 口径(12.2)。器高8.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 2/3。G. 外面被熱による剥離か。
49	土師鉢	A. 口径24.6。底径6.2。器高13.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ヘラ調整。内面、口縁部ナデ、体部ヘラ調整後ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-明赤褐色。内-赤褐色。F. ほぼ完形。
50	土師器 小形甕	A. 口径(12.2)。底径7.0。器高13.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外-橙色。内-にぶい橙色。F. ほぼ完形。
51	土師器 小形甕	A. 口径15.8。底径6.1。器高20.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・角閃石・白色石。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
52	土師器 小形甕	A. 口径16.6。底径6.5。器高15.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外内-にぶい橙色。F. 1/2。
53	土師器 甕	A. 口径17.2。底径6.9。器高24.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 白色粒・黒色粒・赤色粒。E. 外-にぶい黄橙色。内-橙色。F. 3/5。
54	土師器 甕	A. 口径18.0。底径6.9。器高23.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・赤色粒・角閃石。E. 外-にぶい赤褐色。内-明赤褐色。F. 5/6。
55	土師器 甕	A. 口径16.5。底径6.9。器高26.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。G. 外面胴部中位にスス付着。
56	土師器 甕	A. 口径18.2。底径6.6。器高30.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 赤褐色粒・角閃石・白色粒。E. 外-橙色。内-にぶい黄橙色。F. 3/4。
57	土師器 甕	A. 口径21.3。底径4.3。器高29.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後下端ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 赤褐色粒・白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 4/5。
58	土師器 甕	A. 口径(19.0)。底径8.2。器高29.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部上半ハケメ・ナデ。底部ケズリ。内面、口縁部ナデ。体部ケズリ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
59	土師器 甕	A. 口径19.6。残存高22.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 黒色粒・白色粒・角閃石。E. 外-明赤褐色。内-褐色。F. 口縁部～胴部上半3/5。
60	土師器 甕	A. 口径19.9。底径9.1。器高25.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 白色粒・赤色粒・角閃石。E. 外-にぶい褐色。内-褐色。F. ほぼ完形。
61	土師器 甕	A. 口径19.2。底径8.9。器高26.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ハケ後ミガキ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 4/5。
62	土師器 甕	A. 口径20.7。底径6.1。器高12.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ後下位ユビオサエ、胴部ナデ。内面、口縁部～胴部ハケ後ナデ。D. 白色粒・赤色粒・黒色粒。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
63	土師器 甕	A. 口径23.8。底径7.2。器高14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ後下端ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外-にぶい褐色。内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
64	土師器台付甕	A. 口径14.5。底径11.8。器高19.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～台部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
65	土製模造品 鏡	A. 直径13.6。残存厚2.2。重さ201.8。B. 手捏ね。C. ナデ。紐、貼り付け。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 表裏-明赤褐色。F. 紐欠損。

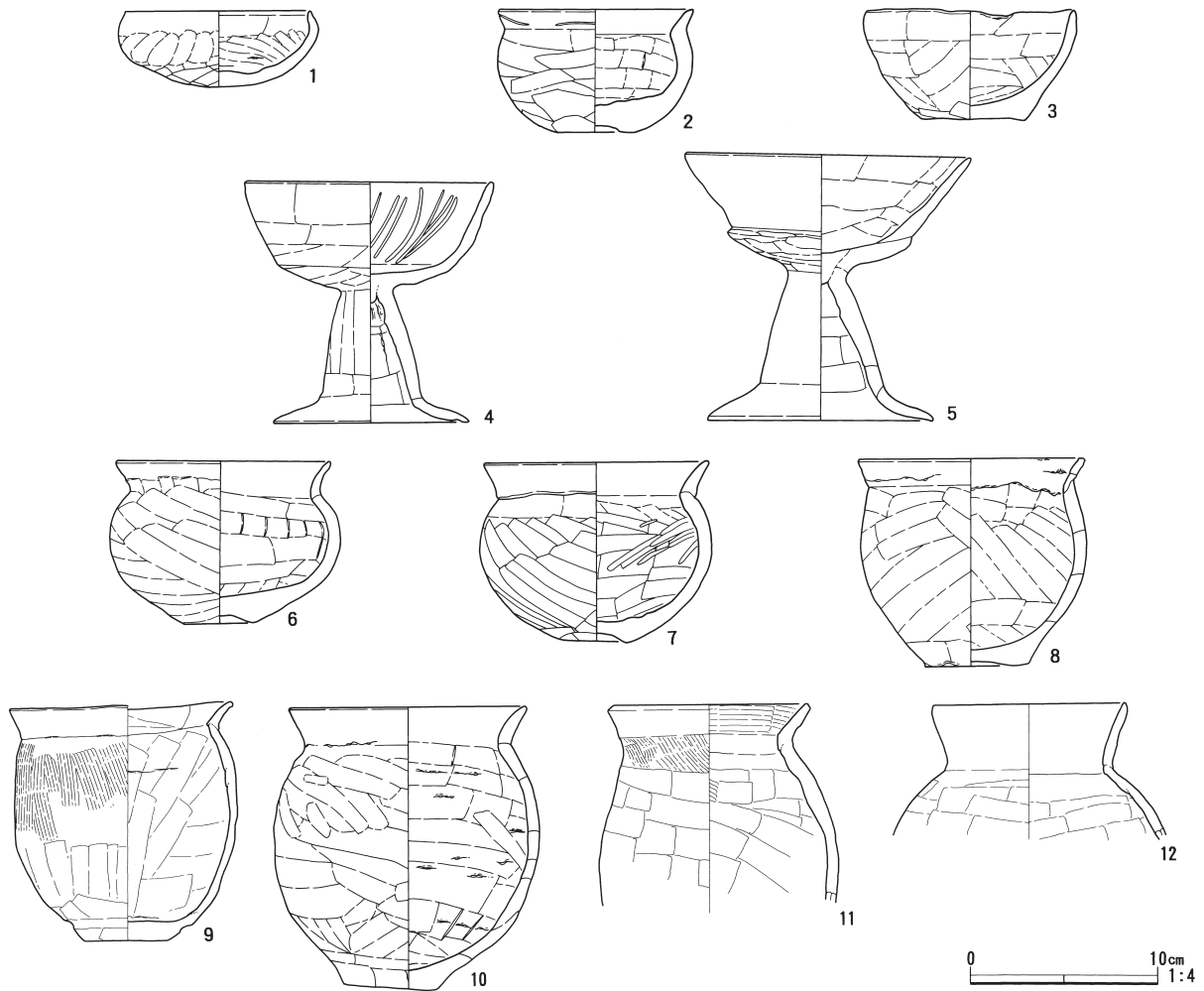


図25 西富田新田遺跡A地点SI-8出土遺物(1)

SI-8 出土遺物観察表

1	土師器	器坏	A. 口径9.9。器高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ後ナデ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 片岩・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
2	土師器	器坏	A. 口径10.4。底径4.0。器高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後下位ケズリ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 片岩・角閃石・石英・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
3	土師器	器坏	A. 口径11.1。底径5.5。器高5.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ下位ケズリ、底部ナデ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 石英・白色粒・角閃石。E. 外-橙色。内-明赤褐色。F. 完形。
4	土師器	高器坏	A. 口径13.3。底径10.5。器高12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～脚部ナデ。内面、口縁部ミガキ、脚部ヨコケズリ、裾部ヨコナデ。D. 片岩・白色粒・石英。E. 外内-明赤褐色。F. 4/5。
5	土師器	高器坏	A. 口径15.3。底径12.1。器高14.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁～裾部ナデ。内面、口縁部ナデ、脚部ケズリ、裾部ナデ。D. 白色粒・角閃石・赤色粒。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
6	土師器	鉢	A. 口径11.7。底径3.8。器高8.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ、底部ケズリ後ナデ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒・赤色粒。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
7	土師器	鉢	A. 口径12.0。底径3.2。器高9.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後中位以下ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、体部ナデ。D. 片岩・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. 4/5。
8	土師器	小形甕	A. 口径12.1。底径5.6。器高11.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 石英粒・角閃石・白色粒。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 4/5。
9	土師器	小形甕	A. 口径11.8。底径4.1。器高12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部外上半ハケメ、下半ヘラナデ、底部ケズリ。内面、体部ヘラ調整。D. 白色粒子・角閃石。E. 外内-にぶい橙色。F. 2/3。

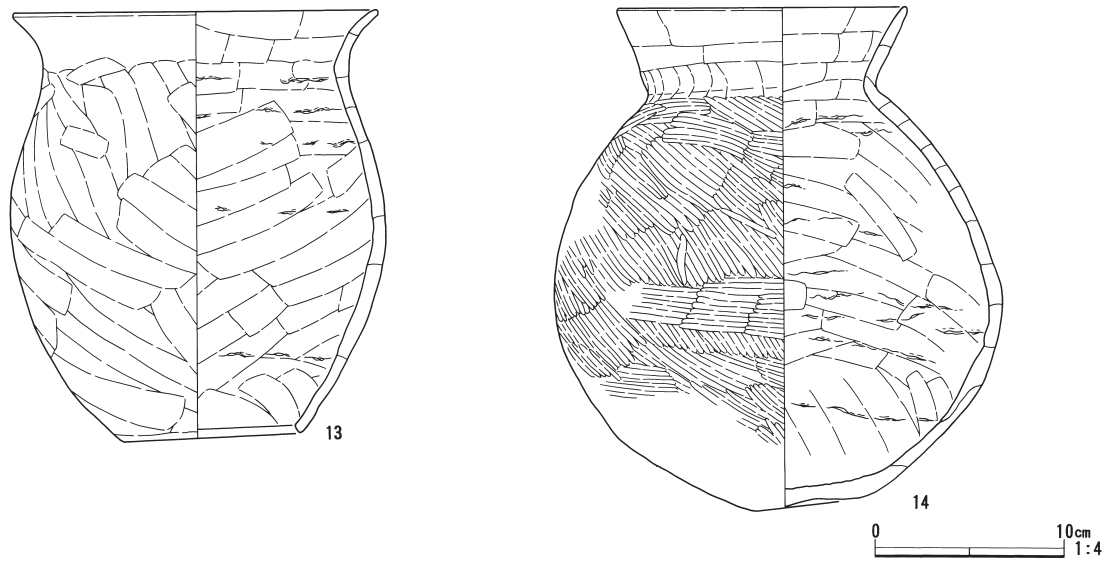


図26 西富田新田遺跡 A 地点 SI-8 出土遺物(2)

10	土師器	小形甕	A. 口径12.7。底径5.0。器高15.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
11	土師器	小形甕	A. 口径10.7。残存高11.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ハケメ後ケズリ。内面、口縁部ハケメ、体部ケズリ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. 1/3。
12	土師器	甕	A. 口径10.4。残存高7.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ。内面、口縁部～体部ヘラナデ。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 1/3。
13	土師器	甕	A. 口径19.2。底径9.4。器高22.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
14	土師器	壺	A. 口径15.4。底径5.6。器高29.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後ミガキ、底部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 石英・白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。

SI-9 (図27)

調査区中央の南寄りにおいて、SI-5とSI-11のほぼ中間に位置する。西側の一部を調査し得たのみで、遺構の過半が道路にかかり、全形を把握することができなかった。平面形は整った隅丸方形をなし、南北で約3.5mの規模を有する。確認面から床面までの深さは25cmである。柱穴は検出されず、竈などの燃焼施設、貯蔵穴、壁溝も、確認できる範囲には存在しない。

遺物は少なく、坏、埴各1点が出土している。

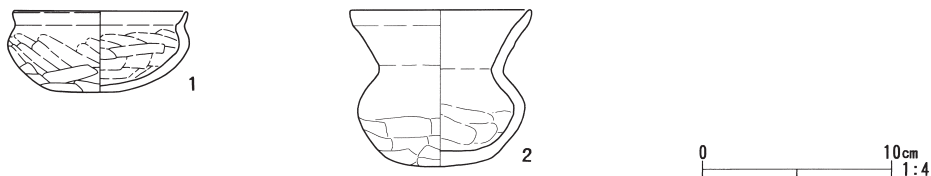


図27 西富田新田遺跡 A 地点 SI-9 出土遺物

SI-9 出土遺物観察表

1	土師器	坏	A. 口径9.3。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部ナメナデ後下位ヨコケズリ。内面、ヨコナデ。D. 白色粒・角閃石・赤色粒。E. 外内-赤褐色。F. 2/3。
2	土師器	埴	A. 口径(9.6)。器高8.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部下半・底部ケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 外-にぶい黄褐色。内-にぶい赤褐色。F. 3/4。

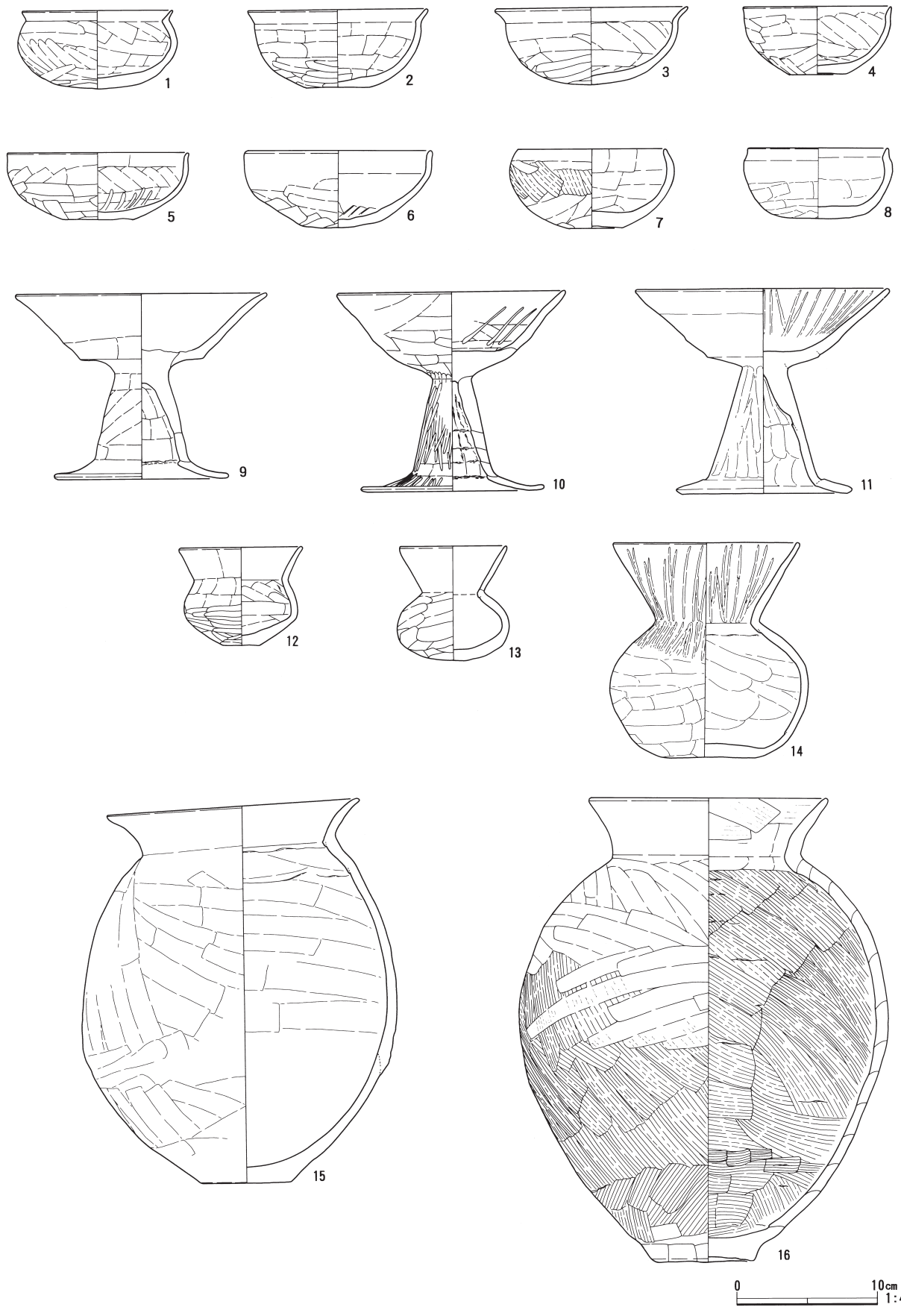


图28 西富田新田遺跡A地点SI-10出土遺物(1)

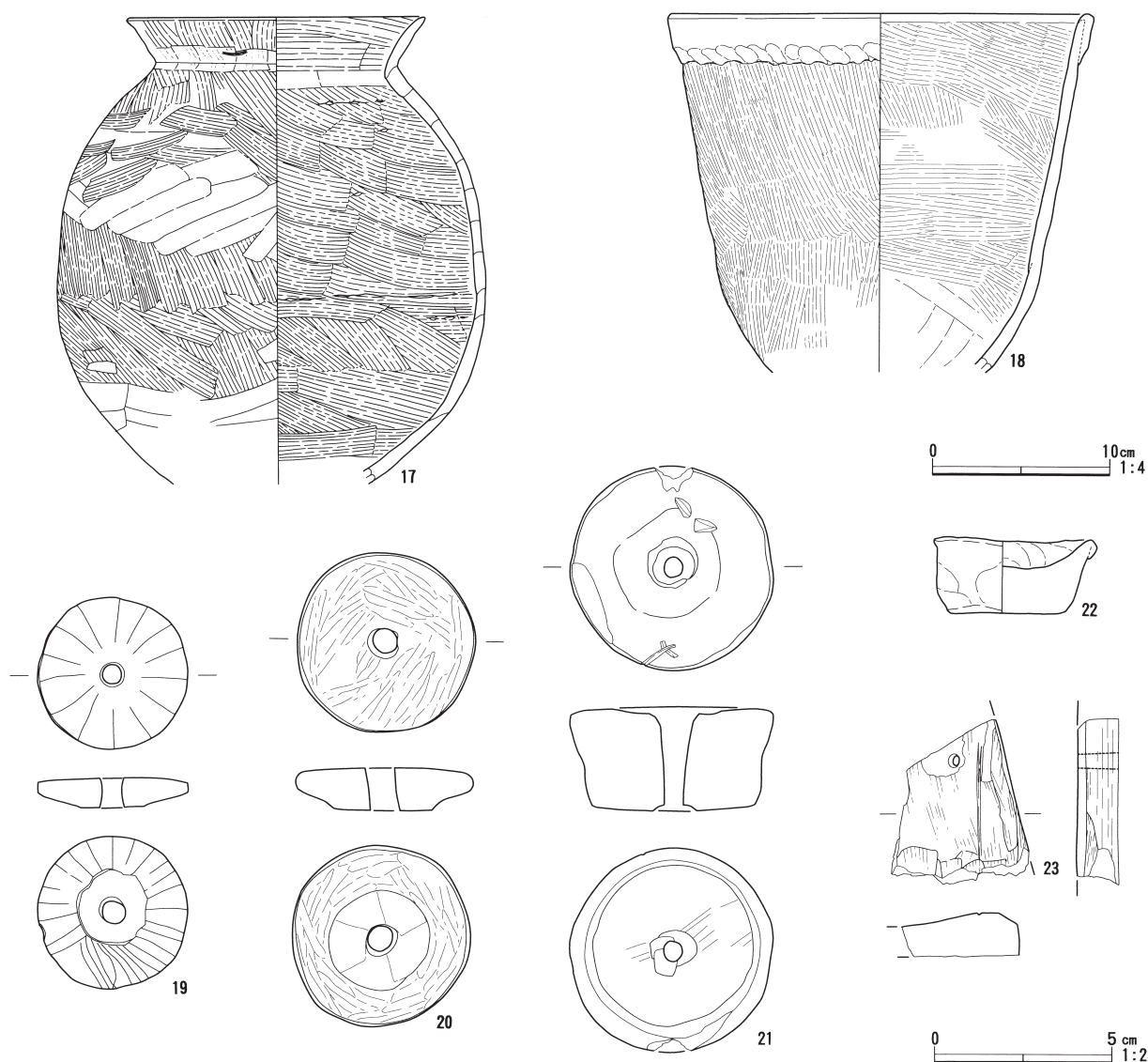


図29 西富田新田遺跡A地点 SI-10出土遺物(2)

SI-10 出土遺物観察表

1	土師器	A. 口径(10.8)。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後下位ケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 片岩・白色粒・石英。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 2/3。
2	土師器	A. 口径12.8。底径4.4。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後半ケズリ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-にぶい赤褐色。F. ほぼ完形。
3	土師器	A. 口径13.8。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後下位ケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-橙色。F. 完形。
4	土師器	A. 口径(10.6)。底径4.0。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 2/3。
5	土師器	A. 口径(12.8)。底径4.8。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ、中位以下ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、体部ミガキ。D. 角閃石・片岩。E. 外内-橙色。F. 2/3。
6	土師器	A. 口径13.4。器高5.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後下位ケズリ。内面、ナデ。D. 細粒砂・角閃石・白色粒・赤色粒。E. 外内-橙色。F. 完形。
7	土師器	A. 口径10.4。底径4.2。器高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後上位ハケ下位ケズリ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒・片岩。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 4/5。

8	土師器 坏	A. 口径(10.0)。器高5.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部下半・底部ヘラ調整。内面、口縁部体部内面ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
9	土師器 高坏	A. 口径(17.8)。底径(12.4)。器高13.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～脚部ナデ。内面、口縁部～脚部ナデ。D. 白色粒・石英・角閃石。E. 外内-橙色。F. 2/3。
10	土師器 高坏	A. 口径(16.2)。底径(13.0)。器高14.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ体部ケズリ、脚部～裾部ミガキ。内面、口縁部ミガキ、脚部～裾部ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. 1/3。
11	土師器 高坏	A. 口径18.0。底径(12.4)。器高14.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面ナデ。内面、坏部ナデ後暗文状ミガキ、脚部ナデ。D. 白色粒子・角閃石・赤色粒子。E. 外内-橙色。F. 3/4。
12	土師器 罎	A. 口径(8.8)。底径2.4。器高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ヨコナデ後下位ミガキ、底部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 外内-橙色。F. 4/5。
13	土師器 罎	A. 口径7.6。器高8.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部観察不可。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
14	土師器 罎	A. 口径13.2。器高15.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ミガキ、体部上半ミガキ、下半ヘラ調整。内面、口縁部ミガキ、体部ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外内-にぶい橙色。F. ほぼ完形。
15	土師器 甕	A. 口径17.9。底径6.4。器高27.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ヘラナデ。底部外面ケズリ。体部内面ヘラナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-にぶい橙色・内-橙色。F. 3/4。
16	土師器 甕	A. 口径17.0。底径7.5。器高32.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ハケ上位ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ハケ下位ハケ。D. 片岩・石英。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
17	土師器 甕	A. 口径16.8。残存高26.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部中位ナデ下位ケズリ。内面、口縁部ハケ、胴部ヨコハケ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. 口縁～胴部下位ほぼ完形。
18	土師器 甕	A. 口径24.0。残存高20.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ハケメ。内面ハケメ・ヘラナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-にぶい赤褐色。内-赤褐色。F. 2/3。
19	石製紡錘車	A. 上径4.3。下径1.8。高さ0.9。重さ22.1。B. 削り・研磨。C. 上・下面、放射状線刻。D. 蛇紋岩。E. 暗緑色。F. 完形。
20	土製紡錘車	A. 上径5.1。下径2.8。高さ1.2。重さ29.5。B. 手捏ね。C. 上面・側面、ミガキ。下面ケズリ。D. 白色粒子。E. 上-にぶい赤褐色。下-にぶい褐色。
21	土製紡錘車	A. 上径5.7。下径4.6。高さ2.9。重さ100.1。B. 手捏ね。C. 上面、ナデ・工具状圧痕。側面ナデ。下面ハケメ後ナデ。D. 白色粒子。E. 上下-明赤褐色。F. 完形。
22	ミニチュア土器	A. 口径(4.6)。底径3.3。器高2.1。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. 3/4。
23	砥石	A. 残存長4.7。残存幅3.9。残存厚1.2。重さ28.6。B. 削り・研磨。C. 表面、使用による削痕。D. 粘板岩。E. 暗灰色。F. 破片。

SI-10 (図28・29)

調査区南半の西寄りにある。遺構の状態は良好で、全掘している。平面形は整った方形をなし、主軸方向をほぼ真東に向ける。東西約4.9m、南北5.5mの規模を有する。確認面から床面までの深さは30cm前後である。柱穴は4箇所検出され、いずれも支柱穴である。東壁のほぼ中央に竈を付設している。南東隅に貯蔵穴が存在し、またこの貯蔵穴とは別に、北西隅にも貯蔵穴状の土坑が存在する。壁溝は見られない。

遺物は多量の土師器のほか、蛇紋岩製紡錘車1、土製紡錘車2、粘板岩製砥石1が出土している。

SI-11 (図30・31)

調査区南半の西寄りにある。遺構の状態は良好で、全掘している。平面形は整った方形をなし、SI-8と同じく、主軸方向を真東よりいくぶん南に向けている。東西約4.6m、南北4.9mの規模を有する。確認面から床面までは45cm余りの深さがある。柱穴は4箇所検出され、いずれも支柱穴である。東壁やや南寄りに竈を付設している。南東隅には貯蔵穴が存在し、壁溝は見られない。

遺物は竈周辺を中心に多数の土師器が出土している。坏、鉢は完形品が多く、甕には、大小が認められる。また、広面側に直弧文に似た刻線をもつ蛇紋岩製紡錘車各1点が出土している。

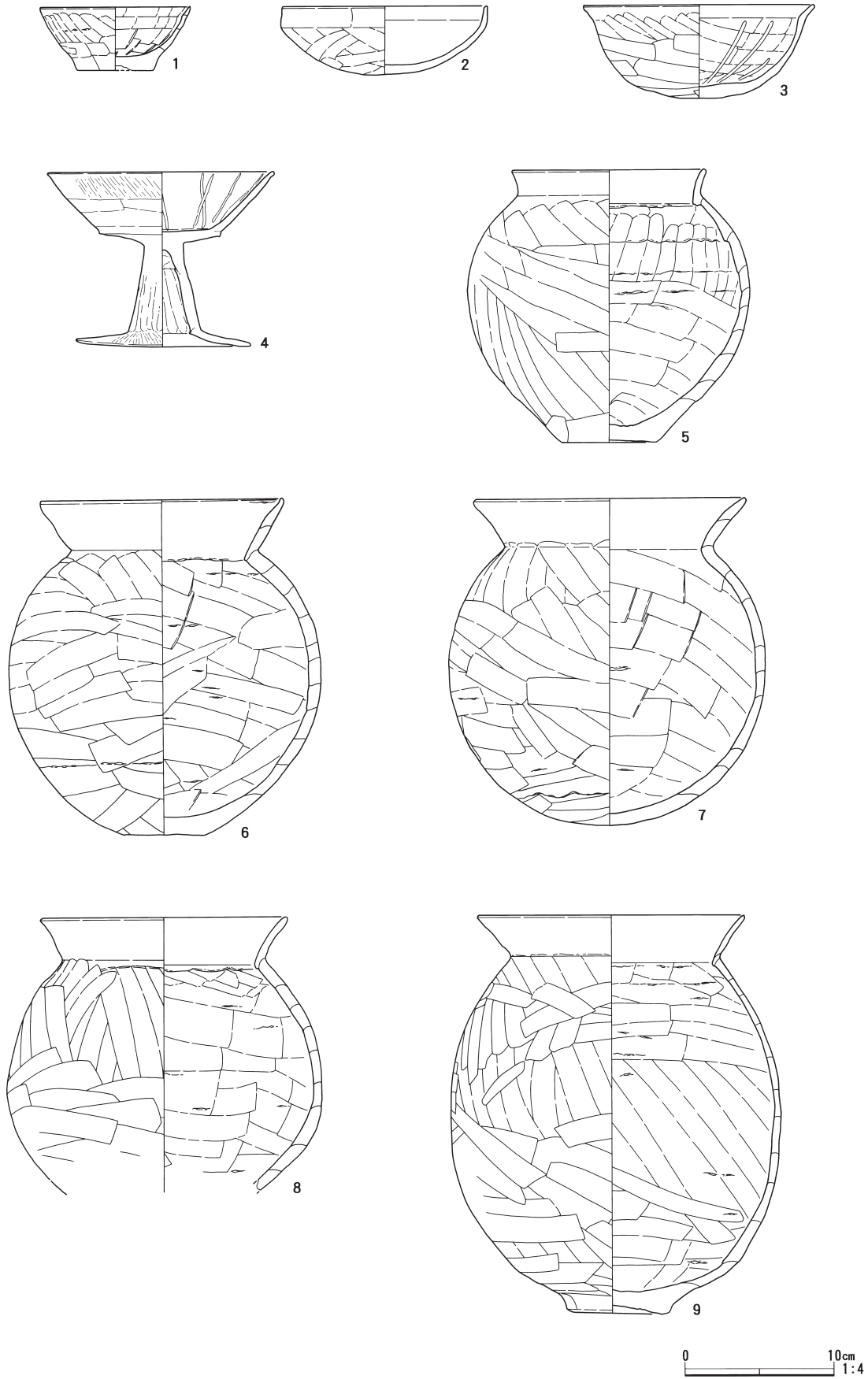


图30 西富田新田遺跡A地点 SI-11出土遺物(1)

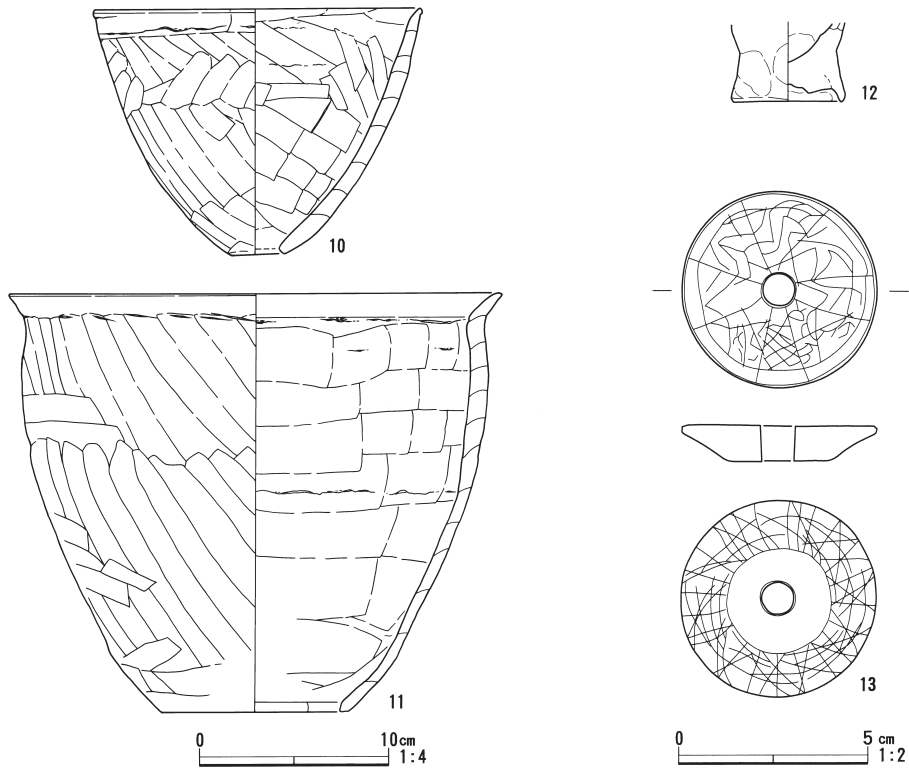


図31 西富田新田遺跡A地点 SI-11出土遺物(2)

SI-11 出土遺物観察表

1	土師器	A. 口径10.0。底径5.2。器高4.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒子・雲母。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 4/5。
2	土師器	A. 口径13.6。器高4.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・石英・角閃石。E. 外内-橙色。F. 完形。G. 器面の荒れ激しい。
3	土師器	A. 口径15.6。器高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後半ケズリ。内面、ナデ後体部ミガキ。D. 石英・角閃石・白色粒子。E. 外-赤褐色。内-黒褐色。F. ほぼ完形。
4	土師器	A. 口径(15.6)。底径11.7。器高11.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、坏部ナデ、脚部ハケメ後ナデ。内面、坏部暗文状ミガキ、脚部ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-明赤褐色。内-赤褐色。F. 3/4。
5	土師器	A. 口径(13.0)。底径(6.4)。器高18.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部下位ケズリ、底部ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 細粒砂・石英・白色粒。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 4/5。
6	土師器	A. 口径16.3。底径5.3。器高22.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ケズリ、半ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ。D. 石英・チャート。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 完形。
7	土師器	A. 口径16.3。底径5.3。器高22.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ケズリ、半ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ。D. 石英・チャート。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 完形。
8	土師器	A. 口径16.6。残存高18.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ。胴部ナデ下半ケズリ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 細粒砂・石英・片岩・角閃石。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 口縁～胴部下位4/5。
9	土師器	A. 口径18.0。底径6.8。器高26.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ上位ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ。D. 石英・角閃石。E. 外内-にぶい橙色。F. ほぼ完形。
10	土師器	A. 口径17.3。底径2.8。器高12.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、体部ケズリ。D. 白色粒・石英・角閃石。E. 外-にぶい橙色。内-橙色。F. 完形。
11	土師器	A. 口径(22.0)。底径(9.3)。器高22.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部中位ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部上～中位ナデ下位ケズリ。D. 角閃石・白色粒。E. 外内-橙色。F. 2/3。
12	ミニチュア土器	A. 底径(3.0)。器高2.1。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 1/2。
13	石製紡錘車	A. 上径5.2。下径2.8。高さ1.0。重さ32.8。B. 削り・研磨。C. 上面、放射状・幾何学模様線刻。側面、斜交・鋸歯文状線刻。D. 蛇紋岩。E. 濃緑色。F. 完形。

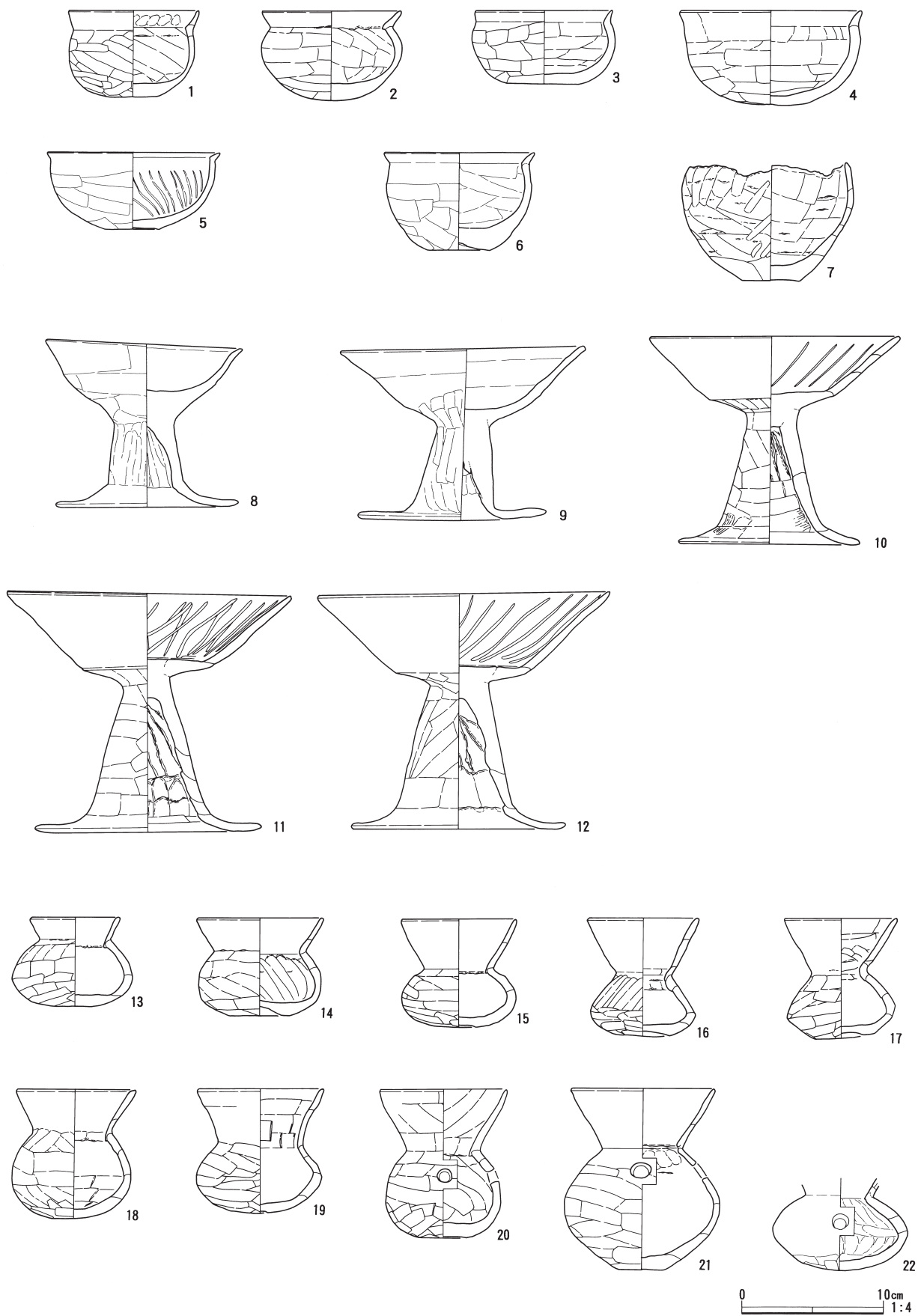


图32 西富田新田遺跡A地点 SI-12出土遺物(1)

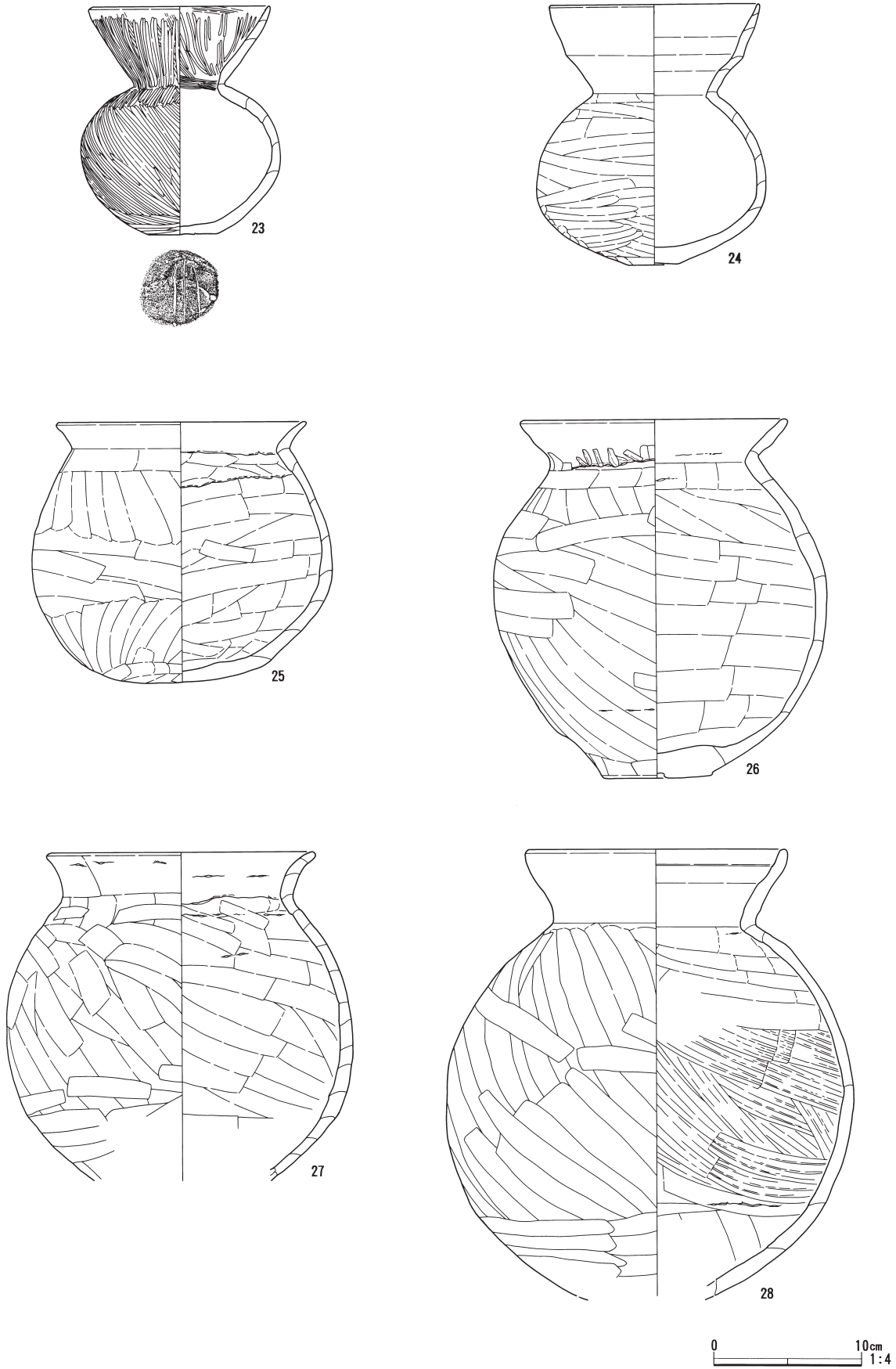


图33 西富田新田遺跡A地点SI-12出土遺物(2)

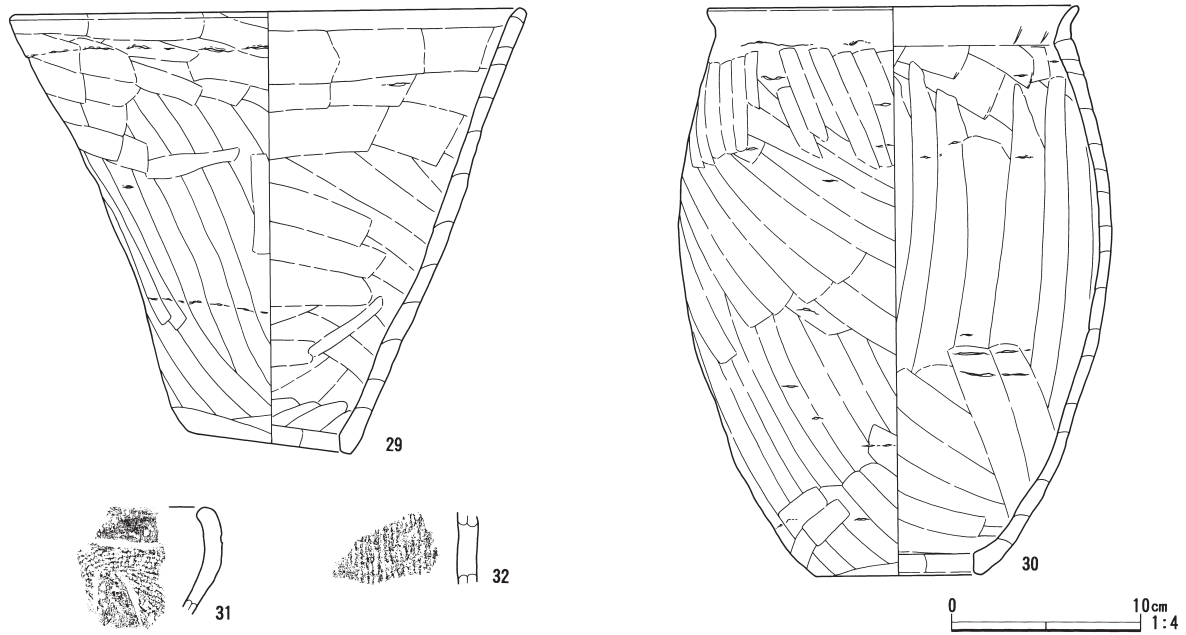


図34 西富田新田遺跡 A 地点 SI-12出土遺物(3)

SI-12 出土遺物観察表

1	土師器	器	A. 口径(9.2)。底径3.2。器高6.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ下位ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、体部ナデ。D. 角閃石・白色粒・片岩。E. 外内-橙色。F. 4/5。
2	土師器	器	A. 口径(9.8)。器高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部下位ケズリ後ナデ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-橙色。F. 1/2。
3	土師器	器	A. 口径9.6。底径5.0。器高5.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
4	土師器	器	A. 口径13.0。器高6.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、体部ケズリ後上位ナデ。D. 白色粒・角閃石・片岩。E. 外内-橙色。F. 2/3。
5	土師器	器	A. 口径12.2。底径3.9。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部へら調整。内面、口縁部ナデ、口縁部~体部暗文状ミガキ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外-赤褐色。内-明赤褐色。F. 2/3。
6	土師器	器	A. 口径10.6。底径4.4。器高7.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ。体部ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部~体部ナデ。D. 白色粒子。E. 外-灰黄褐色。内-黄褐色。F. 1/2。
7	土師器	器	A. 口径11.2。底径4.0。器高8.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部ナデ後下位ケズリ、底部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・片岩・角閃石・石英。E. 外内-にぶい橙色。F. 3/4。
8	土師器	器	A. 口径13.9。底径12.8。器高12.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~脚部ナデ。内面、口縁部~脚部ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
9	土師器	器	A. 口径(17.3)。底径(13.3)。器高12.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部・坏部ナデ。坏部下半・脚部ナデ。内面、口縁部・坏部ナデ、脚部ナデ。D. 白色粒子。E. 外内-明黄褐色。F. 3/4。
10	土師器	器	A. 口径17.8。底径12.8。器高14.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~裾部ナデ。内面、口縁部ナデ後ミガキ、脚部~裾部ナデ。D. 白色粒・石英粒・片岩。E. 外内-橙色。F. 4/5。
11	土師器	器	A. 口径20.0。底径(16.0)。器高16.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~裾部ナデ。内面、口縁部ナデ後ミガキ、脚部~裾部ナデ。D. 石英粒・白色粒・角閃石・片岩。E. 外内-橙色。F. 4/5。
12	土師器	器	A. 口径20.6。底径15.2。器高16.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部~裾部ナデ。内面、口縁部ミガキ、脚部ナデ後半コビオサエ、裾部ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. 完形。
13	土師器	器	A. 口径6.3。器高6.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部上位~後中位ナデ後下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部観察不可。D. 白色粒・片岩・石英。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
14	土師器	器	A. 口径(9.0)。底径4.4。器高6.9。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部上位~後中位ナデ下位ケズリ、底部ナデ。内面、口縁部~胴部ナデ。D. 石英・角閃石。E. 外内-橙色。F. 4/5。
15	土師器	器	A. 口径(8.2)。器高7.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部上半ナデ後半ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部観察不可。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。

16	土師器	A. 口径7.9。底径3.7。器高8.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部～底部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部上位ユビオサエ以下観察不可。D. 白色粒・雲母。E. 外内-橙色。F. 完形。
17	土師器	A. 口径8.0。底径4.1。器高8.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ヨナデ下位ケズリ、底部ナデ。内面、口縁部ナデ。D. 白色粒・雲母・赤色粒。E. 外内-橙色。F. 4/5。
18	土師器	A. 口径8.5。器高9.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部上半観察不可下半ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 外内-橙色。F. 完形。
19	土師器	A. 口径9.0。器高8.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部観察不可。D. 白色粒・雲母。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
20	土師器	A. 口径(9.0)。底径3.2。器高10.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後下位ケズリ、底部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. 3/5。
21	土師器	A. 口径(10.2)。底径3.4。器高12.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部上位オサエ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. 4/5。G. 胴部上位円形透孔1。
22	土師器	A. 残存高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～体部ナデ。D. 白色粒子。E. 外-にぶい黄褐色。内-にぶい黄褐色。F. 2/3。G. 体部中央焼成前穿孔1孔。
23	土師器	A. 口径12.3。底径4.5。器高15.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ミガキ。内面、口縁部ナデ、頸部ハケ。D. 白色粒(針状物質)・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
24	土師器	A. 口径14.3。底径3.5。器高17.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部観察不可。D. 石英・白色粒。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
25	土師器	A. 口径16.8。底径10.0。器高17.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-橙色。F. 完形。
26	土師器	A. 口径18.1。底径7.5。器高24.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、頸部ナデ後一部ユビオサエ、胴部ナデ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石・細粒砂。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
27	土師器	A. 口径(18.2)。残存高22.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ下位ケズリ。D. 白色粒・角閃石・片岩。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
28	土師器	A. 口径17.7。残存高30.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後ケズリ後下位ナデ。内面、口縁部～胴部ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-橙色。F. 口縁～胴部下位ほぼ完形。
29	土師器	A. 口径27.8。底径8.8。器高23.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ケズリ後上位ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ後下位ケズリ。D. 白色粒・片岩。E. 外内-赤褐色。F. 4/5。
30	土師器	A. 口径(19.6)。底径(8.8)。器高30.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ。内面、口縁部ナデ、胴部ナデ、端部ケズリ。D. 白色粒・角閃石。E. 外-橙色。内-にぶい赤褐色。F. 2/3。
31	縄文土器	A. 残存高5.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 沈線による区画→LR単節縄文。D. 白色粒子・赤色粒子。E. 外-明褐色。内-明赤褐色。F. 破片。
32	縄文土器	A. 残存高3.8。B. 粘土紐積み上げ。C. LR単節縄文。D. 白色粒子・黒色粒子。E. 内-褐色・外-明褐色。F. 破片。

SI-12 (図32～34)

調査区中央の西寄りにあって、西側がSI-13と重複している。平面形はほぼ正方形をなし、東西8.8m、南北8.7mの規模を有する大型の住居である。主軸方向はN-80°-Eを示す。確認面から床面までの深さは約35cmである。柱穴は4箇所で見出され、いずれも主柱穴である。東壁の南寄りに竈を付設している。現在は特定できないが、竈の燃焼部には高坏2点が、伏位で出土したことが報告されている。また、南壁に添って2基の貯蔵穴が並んでいる。壁溝は見られない。

遺物は各種の土師器が多量に出土しているが、他の遺構に比べて、完形品の占有率は高くない。覆土から縄文土器片も少量検出している。

SI-13 (図35)

調査区中央の西端にあって、SI-12と重複している。前後関係は、SI-12が古く、SI-13の方が新しい。全掘をおこなっているものの、遺構の状態は良好ではない。平面形は整った方形をなし、主軸方向をほぼ真東に向ける。東西5.1m、南北5.4mの規模を有する。確認面から床面までの深さは35cm前後である。柱穴は4箇所で見出され、いずれも主柱穴である。東壁のほぼ中央に竈を付設し、南東隅に貯

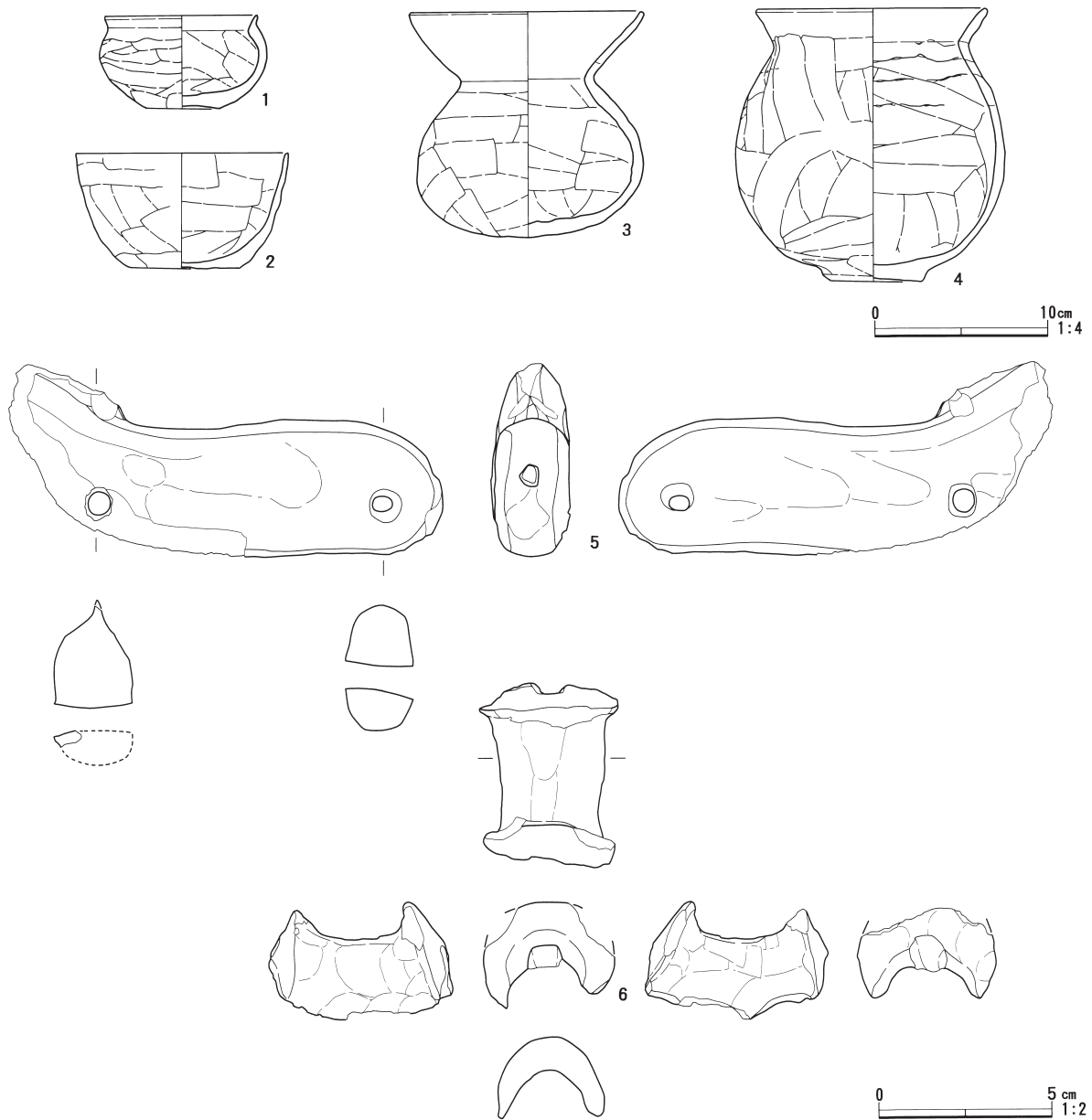


図35 西富田新田遺跡A地点 SI-13出土遺物

SI-13 出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径8.9。底径4.3。器高5.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～底部ナデ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 外-橙色。内-明赤褐色。F. 完形。
2	土師器 鉢	A. 口径12.4。底径6.4。器高6.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ下端ケズリ、底部ナデ。内面、口縁部～胴部中位ナデ、下位～底部ケズリ。D. 角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 1/2。
3	土師器 柑	A. 口径13.5。器高13.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・角閃石・チャート。E. 外内-明赤褐色。F. 5/6。
4	土師器 小形 甕	A. 口径13.4。底径5.8。器高15.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、底部ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 白色粒・角閃石。E. 外-にぶい赤褐色。内-にぶい褐色。F. 5/6。
5	土製模造品 馬	A. 残存高5.6。残存幅12.6。厚さ2.3。重さ126.3。B. 手捏ね。C. ナデ。脚・尻尾接合部穿孔。D. 白色粒子・赤色粒子。E. にぶい黄褐色。F. 頭部欠損。G. 鞍部(5)とセット。
6	土製模造品 鞍	A. 高さ3.4。最大幅3.0。厚さ5.4。重さ126.3。B. 手捏ね。C. ナデ。ヘラ調整。D. 白色粒子・赤色粒子。E. にぶい褐色。F. ほぼ完形。G. 馬形土製品(4)とセット。

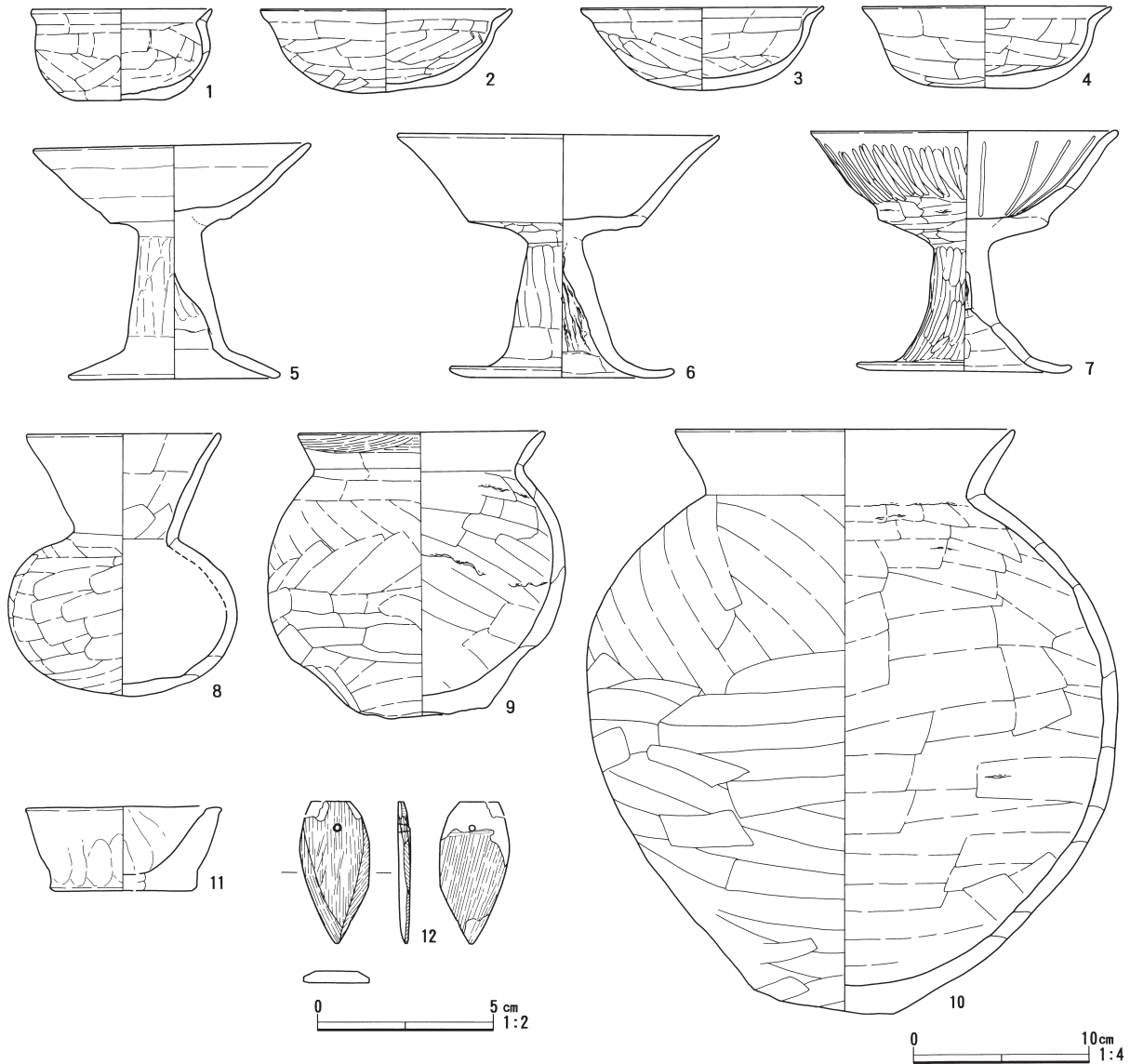


図36 西富田新田遺跡A地点SI-14出土遺物

SI-14 出土遺物観察表

1	土師器 坏	A. 口径10.3。底径4.8。器高5.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ユビオサ工後ナデ、体部～底部ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石・石英。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
2	土師器 坏	A. 口径14.4。器高4.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後ケズリ。内面、口縁部～底部ナデ。D. 角閃石・石英・片岩・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
3	土師器 坏	A. 口径13.9。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後下位ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒・角閃石・片岩。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
4	土師器 坏	A. 口径14.5。器高4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ナデ後下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、体部ナデ後上位ケズリ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
5	土師器 高坏	A. 口径(15.8)。底径12.0。器高13.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、坏部・脚部・裾部ナデ。内面、坏部・脚部・裾部ナデ。D. 赤色粒子・角閃石・白色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
6	土師器 高坏	A. 口径18.3。底径12.9。器高13.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～裾部ナデ。内面、口縁部ナデ、脚部絞り痕、裾部ナデ。D. 白色粒・角閃石・細砂粒。E. 外内-明赤褐色。F. 完形。
7	土師器 高坏	A. 口径17.6。底径12.3。器高13.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ミガキ、体部ナデ、脚部ミガキ、裾部ナデ。内面、口縁部ミガキ、裾部ナデ。D. 角閃石・石英。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。
8	土師器 罎	A. 口径11.1。器高14.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ナデ。内面、口縁部ナデ後下位ケズリ、胴部観察不可。D. 白色粒・角閃石・細砂粒。E. 外内-橙色。F. ほぼ完形。

9	土師器 小形甕	A. 口径14.0。底径7.4。器高16.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～胴部ナデ、胴部下半ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ケズリ。D. 白色粒・角閃石。E. 外内-灰褐色。F. 1/2。
10	土師器 甕	A. 口径19.2。底径8.1。器高33.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ後下ケズリ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 角閃石・白色粒。E. 外-明赤褐色。内-黄灰色。F. 3/4。
11	ミニチュア 土器	A. 口径(5.6)。底径(4.2)。器高2.4。B. 手捏ね。C. 外面、ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒子・角閃石。E. 外内-にぶい赤褐色。F. 1/4。
12	石製模造品 剣	A. 長さ4.0。最大幅2.0。厚さ0.4。重さ4.0。B. 削り・研磨。C. 研磨。片面穿孔。D. 滑石。E. 灰褐色。F. ほぼ完形。

蔵穴があり、壁溝は見られない。

遺物は鉢、甕等の土師器の小型品を主体とする。注目すべき資料として、馬形と鞍形の土製品が出土している。両者は別個に製作されているが、元来組み合わせて使用されたものであろう。

SI-14 (図36)

調査終了後、別地点で、偶然に検出された住居である。東壁に付く竈と貯蔵穴周辺の一部を確認したのみであるが、遺物は各種の土師器とともに、貯蔵穴の内部からは、剣形石製模造品1点を検出している。

3 祭祀遺構出土遺物

SI-11から南西方向に5～10m離れた地点で、石製模造品が散布する範囲が存在する。掘り込みを有する遺構は確認されていないが、調査者は屋外祭祀遺構の存在を想定している。図示した遺物は、勾玉形1、剣形2、有孔円板1で(図37)、この他に有孔円板1、白玉2の出土が報告されている。勾玉形は他と材質が異なり、蛇紋岩製で濃緑色を示す。剣形と有孔円板は滑石および片岩製で、とくに剣形の整形は粗雑である。

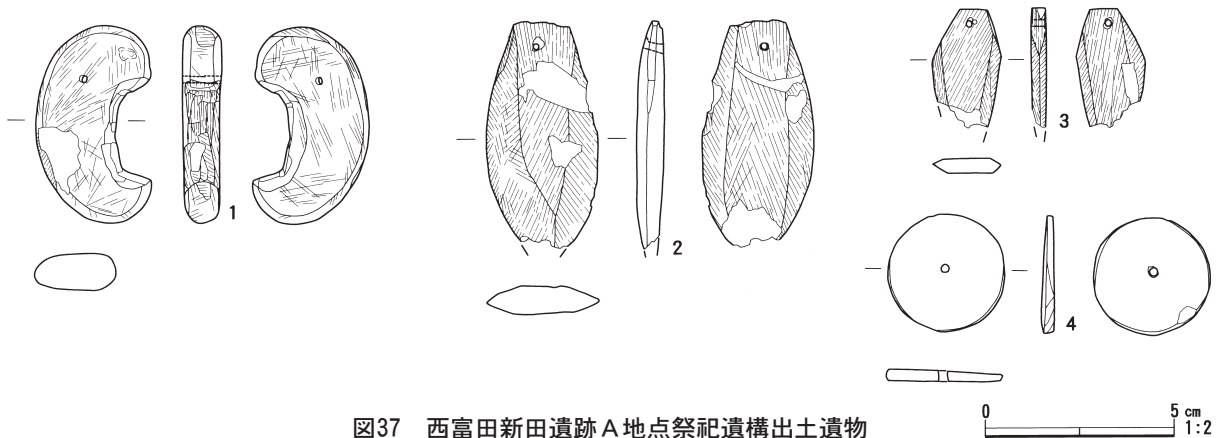


図37 西富田新田遺跡A地点祭祀遺構出土遺物

祭祀遺構出土遺物観察表

1	石製模造品 勾玉	A. 長さ5.2。最大幅3.1。厚さ1.1。重さ24.0。B. 削り・研磨。C. 研磨。両面穿孔。D. 蛇紋岩。E. 濃緑色。F. 完形。
2	石製模造品 剣	A. 残存長6.0。最大幅3.0。厚さ0.7。重さ17.7。B. 削り・研磨。C. 研磨。片面穿孔。D. 滑石。E. 灰褐色。F. 3/4。
3	石製模造品 剣	A. 残存長3.2。最大幅1.9。厚さ0.4。重さ3.5。B. 削り・研磨。C. 研磨。片面穿孔。D. 滑石。E. 灰褐色。F. 2/3。
4	石製模造品 円盤	A. 直径3.1。厚さ0.4。重さ5.0。B. 削り・研磨。C. 研磨。片面穿孔。D. 片岩。E. 濃緑色。F. 完形。

4 遺構外出土遺物

特定の遺構に伴わない遺物を遺構外出土遺物として一括した(図38)。表土掘削時の遺構確認面上層や攪乱坑などから出土した資料であろう。細片も多く、図化できた資料は多くない。1の土師器杯は、唯一ほぼ完形の資料である。6・7は縄文土器の小片で、施文、胎土、色調が似ることから、同一固体の破片と考えられる。8は円筒埴輪の口縁部片で、色調や焼成などから古墳時代後期に下る資料で、当遺跡の住居の年代よりも新しいが、付近ではこれまでのところ、当該時期の古墳の存在は知られていない。

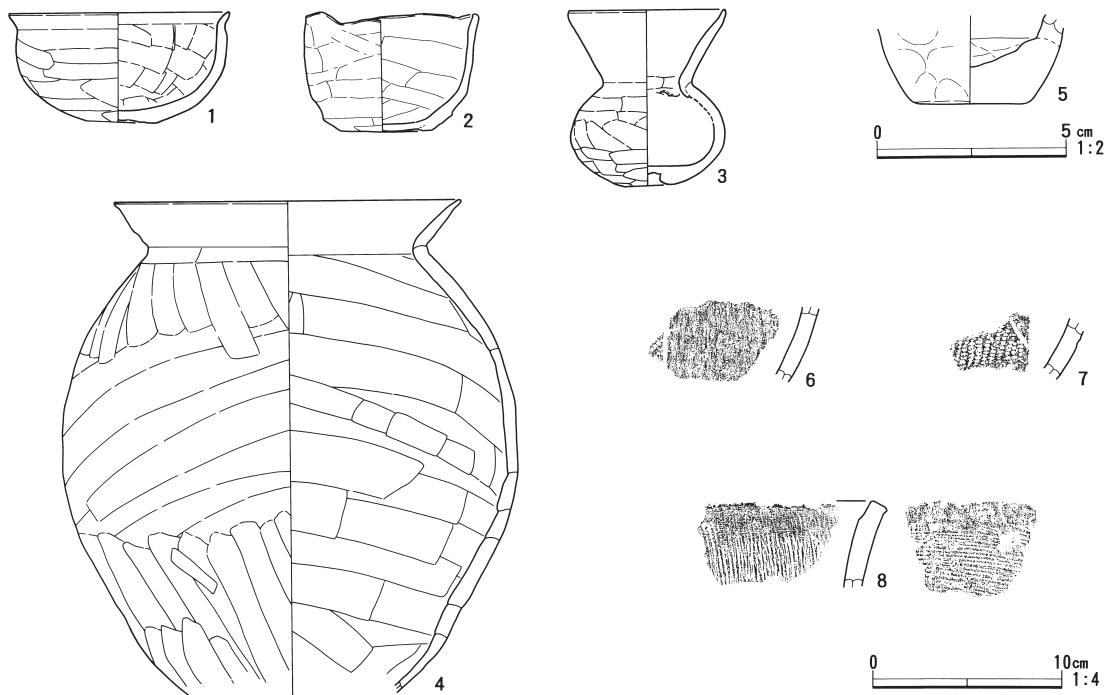


図38 西富田新田遺跡A地点遺構外出土遺物

遺構外遺物観察表

1	土師器杯	A. 口径9.2。底径4.8。器高6.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部～体部ナデ、底部ケズリ。内面、ヘラ調整。D. 赤色粒子・白色粒子。E. 外内-明赤褐色。F. ほぼ完形。
2	土師器杯	A. 口径11.7。底径3.8。器高5.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、体部ケズリ、底部ケズリ。内面、ナデ。D. 石英・角閃石・白色粒。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 2/3。
3	土師器埴	A. 口径8.4。底径2.2。器高9.3。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部上位～中位ナデ下位ケズリ、底部ケズリ。内面、口縁部ナデ。D. 角閃石・石英。E. 外内-にぶい橙色。F. 4/5。
4	土師器甕	A. 口径18.3。残存高26.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、胴部ナデ下位ケズリ。内面、口縁部ナデ、胴部ケズリ。D. 角閃石・石英・白色粒。E. 外内-明赤褐色。F. 2/3。
5	ミニチュア土器	A. 底径(3.1)。残存高2.3。B. 手捏ね。C. ナデ。D. 白色粒子・赤色粒子。E. にぶい赤褐色。F. 1/3。
6	縄文土器	A. 残存高4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 沈線による区画→LR単節縄文。D. 白色粒子。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 2と同一個体か。
7	縄文土器	A. 残存高3.2。B. 粘土紐積み上げ。C. 沈線による区画→LR単節縄文。D. 白色粒子。E. 外内-にぶい黄橙色。F. 破片。G. 1と同一個体か。
8	埴輪	A. 器高4.5。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ナデ、口縁部タテハケ。内面、口縁部ナデ、口縁部ハケ。D. 白色粒子・赤色粒子・角閃石。E. 外内-明赤褐色。F. 破片。

Ⅲ 旭・小島古墳群の調査成果

1 旭・小島古墳群の概要

旭・小島古墳群は本庄台地北縁部に立地し、本庄市小島地区から上里町神保原地区にかけて分布する。前方後円墳、帆立貝形古墳、円墳、方墳の混成による古墳群で、前期から終末期まで、断続的な造営が認められる。

旭・小島古墳群の形成は、前期後半からと考えられる。現在までに、18基ほどの前期方墳が確認され、このうち集成4期後半の万年寺つつじ山古墳（辺25m）では、直刃鎌、短冊形鉄斧ほか多数の石製模造品が、下野堂10号墓（辺24m）では、碧玉製石釧1点が出土している。また、古墳群の南端部に位置する下野堂二子山古墳も、旭・小島古墳群中で唯一の前方後円墳で、埴輪をもたないことから、最近まで集成10期後半の築造と考えられてきたが、平成25年度の発掘調査の結果、周堀出土の土師器二重口縁壺や周堀覆土中の黒色土壌の放射性炭素年代測定ならびにテフラ分析の結果から、前期後半に遡る可能性が考えられるようになった。墳丘はすでに削平を受け、詳細は不明であるが、これまでの試掘調査の成果などもあわせると、墳丘長61.2mの規模と復原される。

つづく集成5・6期に属する古墳は少なく、林8号墳（径30m）のように埴輪をもたず、和泉式の土師器を出土する古墳が少数みられる。集成7期には群集墳の築造が開始され、埴輪も導入される。三壘山2号墳（径22m）、上前原5号墳（径26m）では、外面二次調整B種ヨコハケの円筒埴輪を出土している。埴輪をもたない北浦3号墳も、典型的な坏蓋模倣坏出現以前の土師器坏を出土し、当該期の築造と推測される。集成8期においても群集墳の造営は継続し、三壘山8号墳（規模不詳）では円筒・朝顔形埴輪とともに、人物、馬など各種の形象埴輪が加わっている。

一時的に古墳造営の停滞する集成9期を経て、集成10期になると、大型の円墳築造が目立つようになる。小島御手長山古墳（径42m）をはじめ坊主山古墳（径35m）、山の神古墳（径40m±）、蚕影山古墳（径25m）、前の山古墳（径30m±）、神保原浅間山古墳（径30m）など、いずれも角閃石安山岩を用いた横穴式石室を採用している。終末期には、下野堂開拓1号墳（径22m）、下野堂御手長山古墳（径22m）、堂場1～11号墳など、不整形の周堀をめぐる直径10～20m前半台の円墳が築造される。下野堂開拓1号墳では、石室攪乱層からは鉄製の鉸具、刀子、釘、石室前庭部から大量の土師器・須恵器片のほか青銅製の巡方3点、丸鞆2点が出土している。

2 万年寺八幡山古墳

万年寺八幡山古墳は、平成5年度から15年度にかけて、区画整理事業に伴い、7次にわたる調査がおこなわれ（B地点～H地点）、すでに報告もなされている（太田・松本・的野ほか2006）。今回報告するのは、最も古く昭和55年度に実施したA地点の調査結果である（図39～42）。

A地点では、古墳の南西側の周堀を検出し、調査区の南西隅には、林9号墳の周堀の一部も確認している。周堀幅は上端で6.3～6.5mを計測する。堀底からの立ち上がりは明瞭である。調査がおこなわれていない南東側を除き、ほぼ同規模の周堀がめぐっていることになる。すべての調査成果を総合すると直径40m前後の円墳となる。

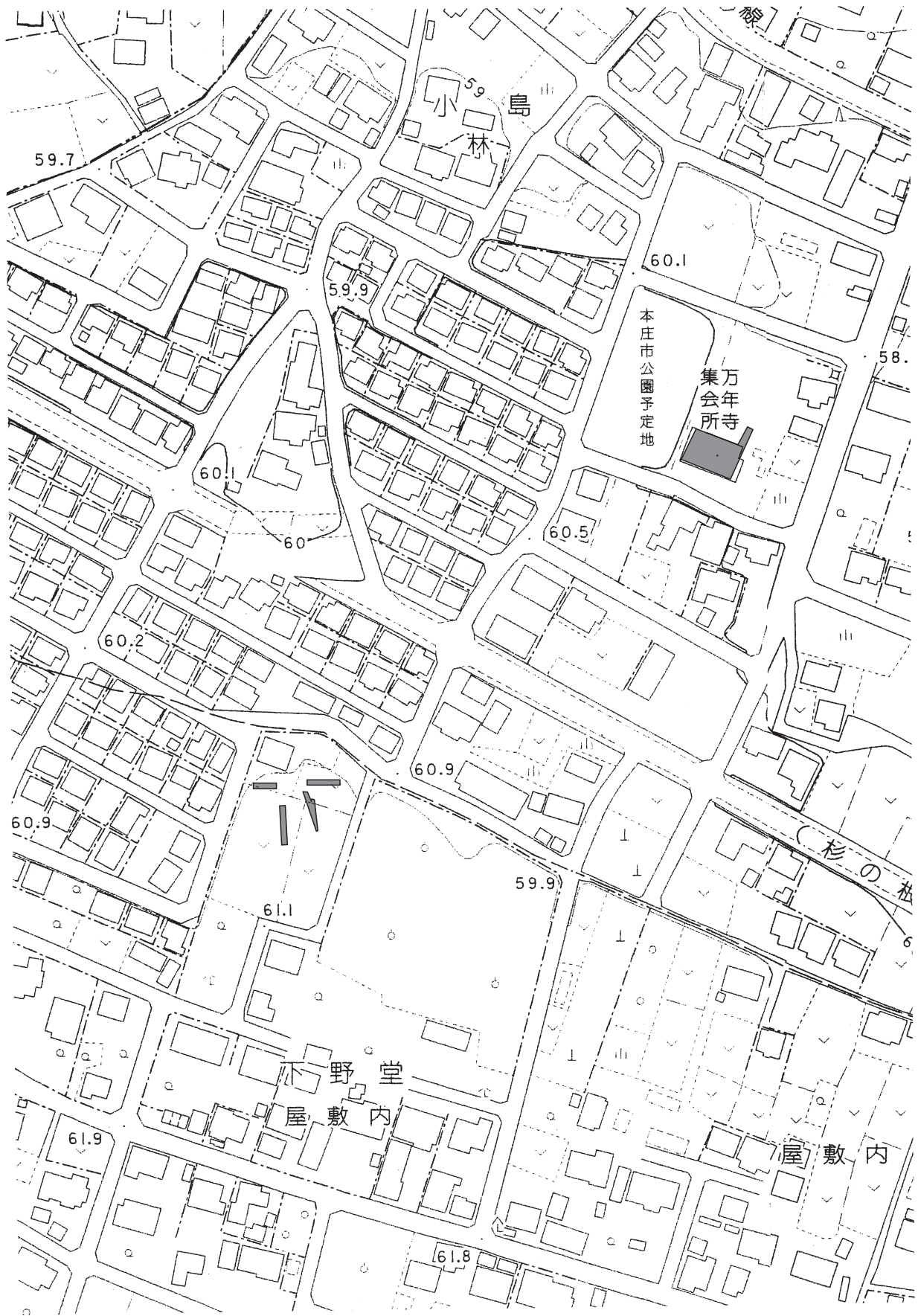


図39 万年寺八幡山古墳・屋敷内3号墳位置図



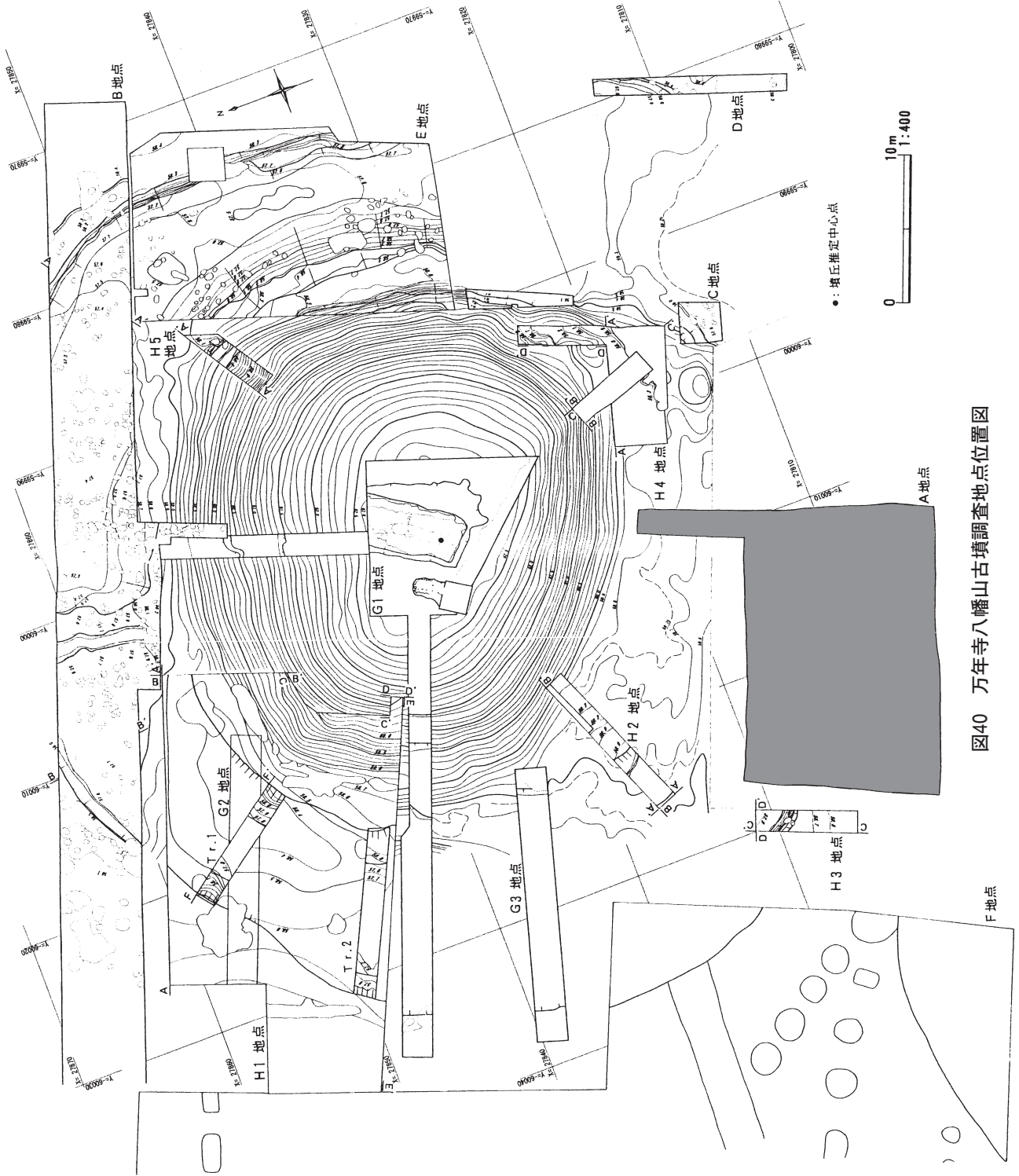


图40 万年寺八幡山古墳調査地点位置图

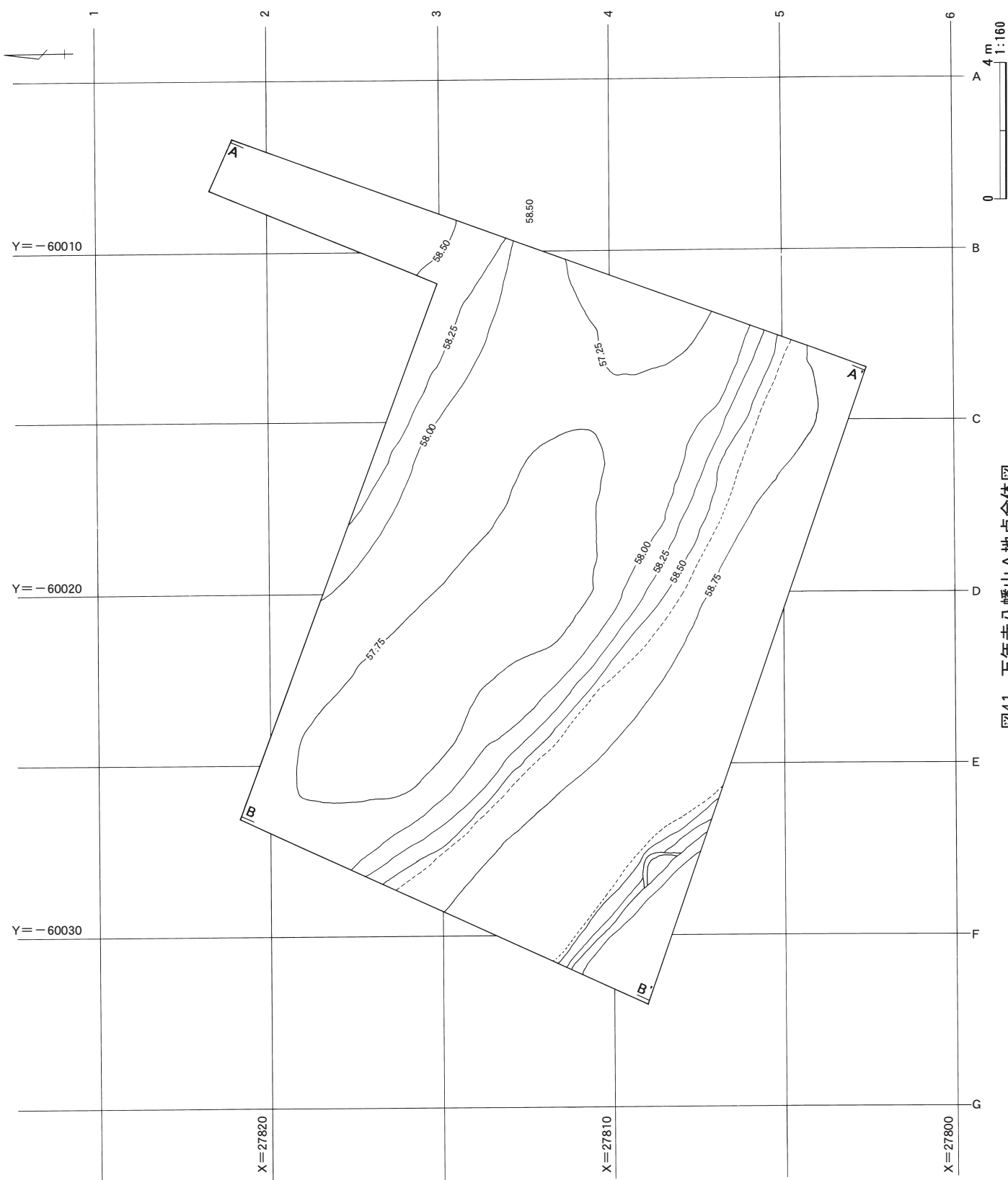


图41 万年寺八幡山A地点全体图

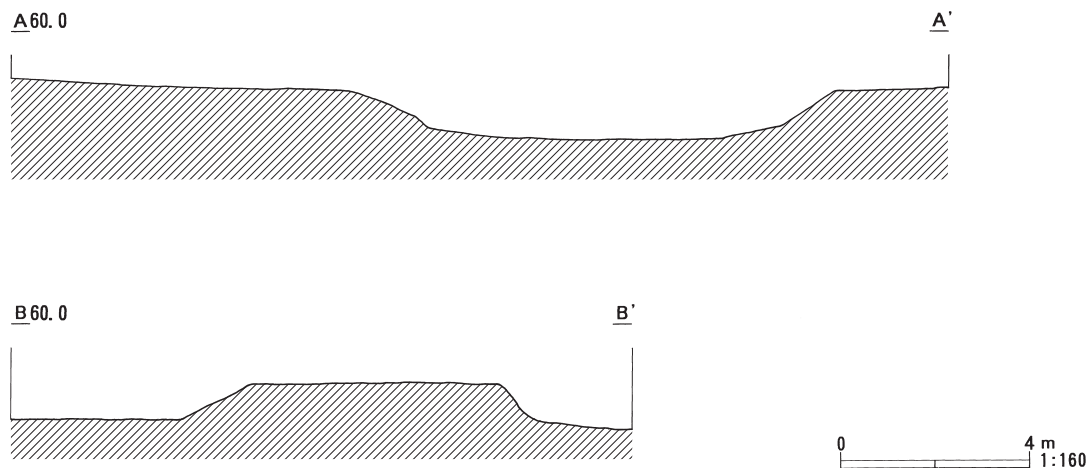


図42 万年寺八幡山A地点断面図

なお、万年寺八幡山古墳の埋葬施設としては、以前から箱式石棺を有することが知られていたが、平成12年度の確認調査では、石棺内から鉄剣2振を検出している。この箱式石棺は、墳丘中心を大きく外れる位置にあることから、墳丘中央部には未確認の中心埋葬施設が存在すると考えられる。遺物は、埴輪を伴わず、わずかに土師器埴の破片を出土するのみで築造時期の詳細は不明である（南毛古墳文化研究会2001）。南東側に所在する万年寺つつじ山古墳とは、相互の墳丘が近接することから、周堀の重複が予想されるが、前後関係は判明していない。

3 屋敷内3号墳

屋敷内3号墳は、昭和49年度から平成13年度にかけて、都合4次の調査がおこなわれている。まず、昭和49年度に、埼玉県遺跡調査会によって、宅地造成工事に伴う1次調査が実施され、北から西側にかけて周堀と墳丘の一部が確認された。この時の調査では、「下野堂14号墓」の呼称が与えられていた。次いで昭和58年に住宅の建設に伴う2次調査が、さらに平成10・13年度には、区画整理事業に伴う3・4次調査が、いずれも本庄市教育委員会によって実施された。「屋敷内3号墳」の呼称が定着したのは、平成10年度の3次調査以降である。なお、平成10・13年度3・4次調査については、すでに報告がなされている（太田2008）。

本節で報告するのは、昭和58年度に実施された2次調査の成果である（図39・43）。試掘の結果、調査原因となった工事は、すでに削平された墳丘部分の範囲にとどまることが判明したため、調査は周堀の規模を確認することに主眼が置かれ、墳丘の東から南側にかけて設定された3本のトレンチにおいて、いずれも周堀が確認されている。1次調査や既報告の3・4次調査を含めたこれまでの成果を総合すると、屋敷内3号墳は直径31mの規模を有する円墳であること、全周する周堀をもつこと、周堀幅は上端で5.5～11mを計測し、墳丘北側の堀幅がやや狭くなっているなど古墳の形状と規模がほぼ判明する。

昭和49年度の1次調査においては、周堀の半分程度を開削しているが、土師器・埴輪ともに検出されていない。2次調査においても、遺物の出土はなく、築造時期を知る手がかりに乏しいが、埴輪をもたないと考えられることから、古墳時代中期前葉以前に遡る可能性が高い。

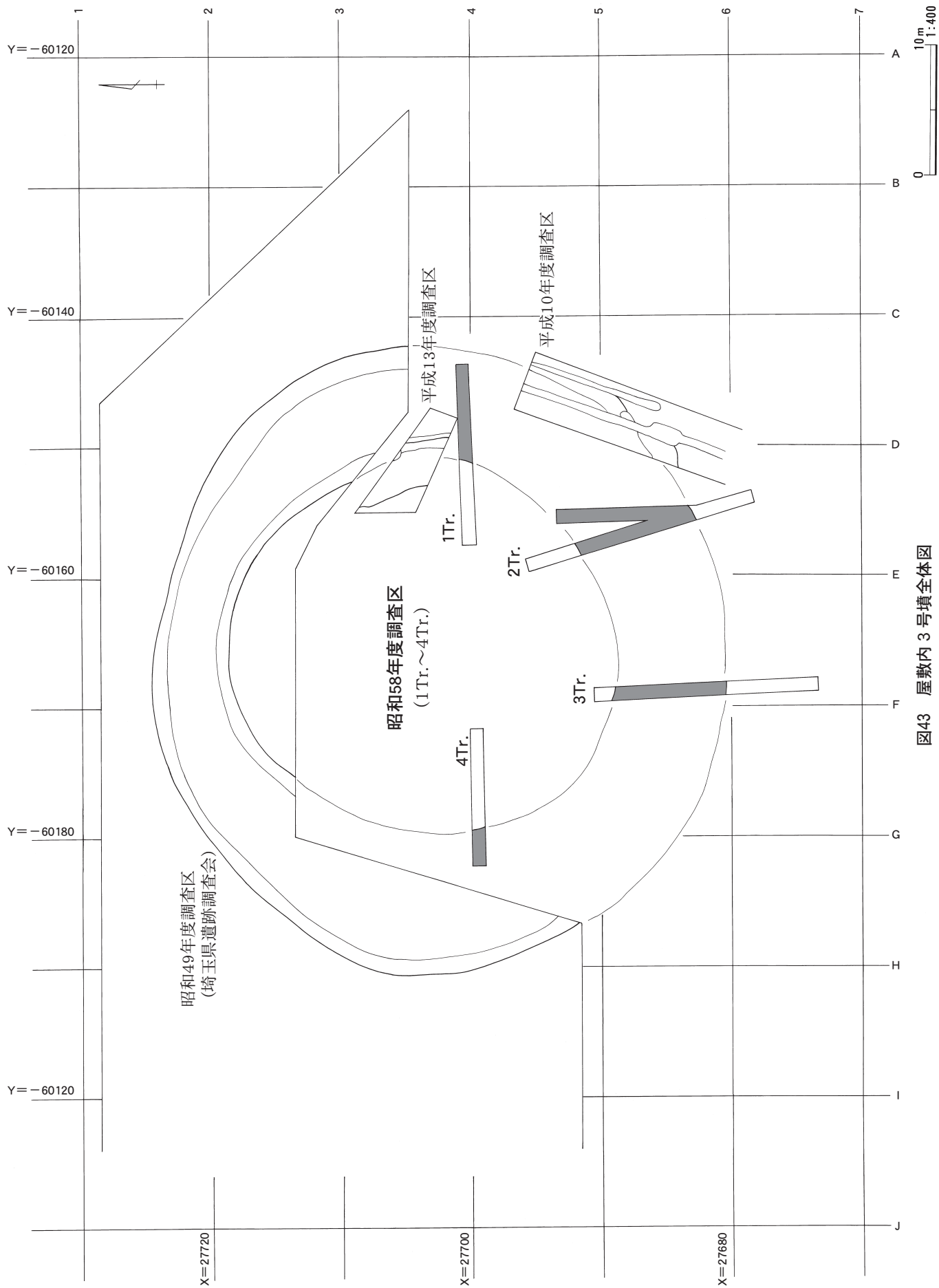


図43 屋敷内3号墳全体図



図44 堂場 3・10・11号墳位置図

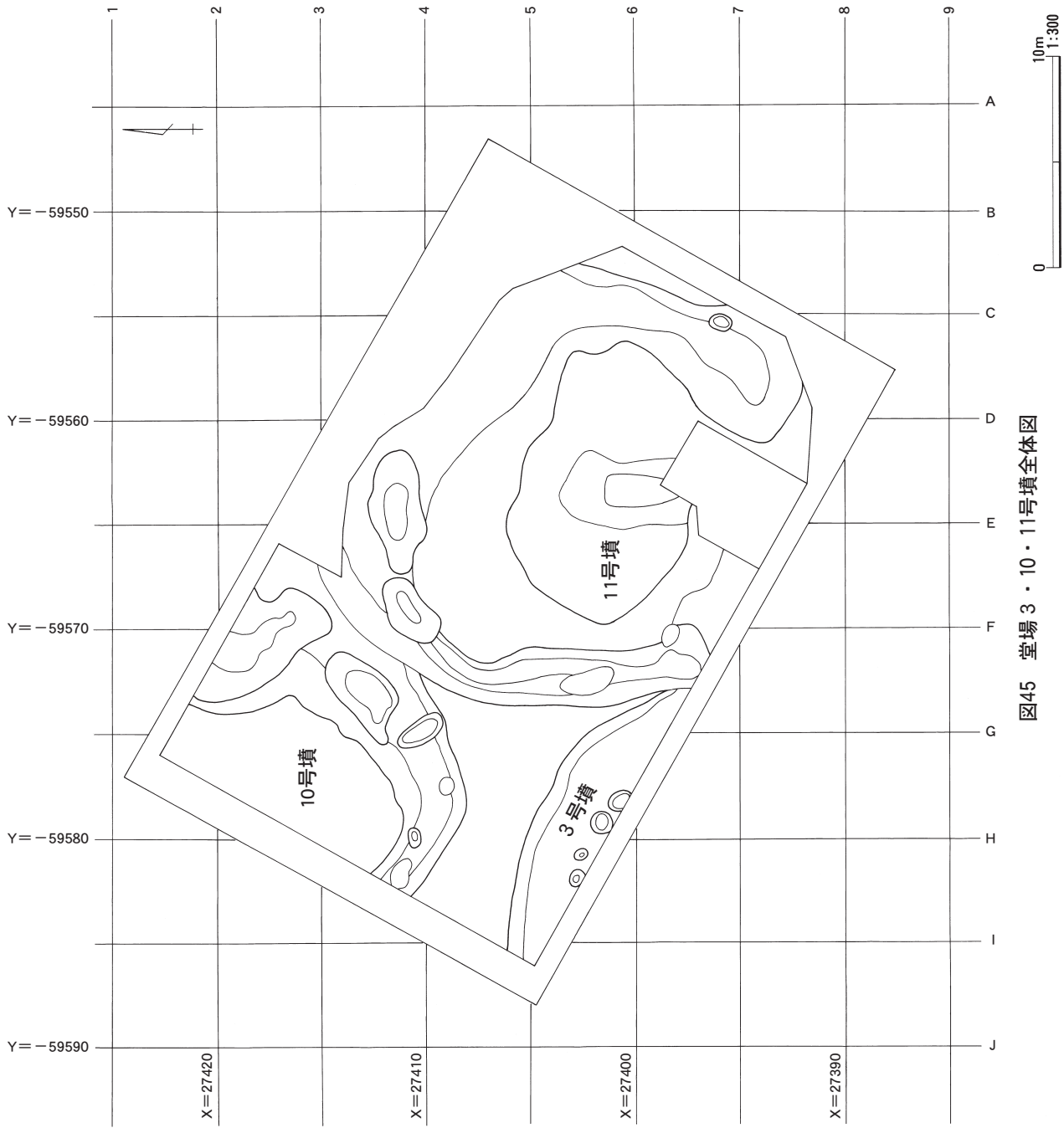


图45 堂場3・10・11号墳全体图

4 堂場 3・10・11号墳

本節に報告する昭和63年度調査区は、宅地造成にともなって調査が実施された昭和62年度調査区の北側に隣接する範囲である。昭和62年度の調査区においては、9基の古墳を検出し、堂場1～9号墳と番号した。今回報告の昭和63年度調査においては、先に調査をおこなった3号墳の周堀の一部に加え、新たに2基の古墳を検出し、堂場10・11号墳と番号した（図44～48）。

堂場3号墳（図46）

堂場3号墳は、調査区南西隅において周堀の一部を確認している。墳丘と周堀の大部分は、上記のように、昭和62年度調査区において検出している。墳丘は南北に長い楕円形を呈し、東西約17m南北約19mの規模を有する。周堀は不整形にめぐり、南北で途切れている。周堀の深さは一定せず、本調査区での最深部は、確認面から30cm前後である。周堀覆土中には礫を含むことから、墳丘に葺石を備えていたことが推測される。埋葬施設はすでに消滅していたが、周堀覆土から角閃石安山岩片が出土していることを考慮すると、埋葬施設には横穴式石室を備えていた可能性が高い。遺物は、本調査区では出土していないが、昭和62年度調査区において、土師器杯1、須恵器大甕片が少量出土している。埴輪をもたないことや、角閃石安山岩を用いた石室が想定されることから、築造時期は古墳時代終末期と推測される。

堂場10号墳（図47）

堂場10号墳は、調査区北西隅において墳丘と周堀の半分程度を確認している。周堀の上端は外内とも大きく蛇行し、とくに外側の立ち上がりは、東側に隣接する11号墳の周堀と重複している。石室は完全に削平をうけ痕跡を止めない。周堀は不整形にめぐり、途切れる箇所はないが、周堀の深さは一定しない。最深部は確認面から60cm程度である。墳丘外形の変形が著しく、原形の復原は困難であるが、最大径で10m外内の円墳と推定される。周堀から少量の礫を検出していることから、墳丘に葺石を備えていたことが推測される。周堀からの検出遺物は皆無である。築造時期については、積極的な根拠を示し得ないが、周堀・墳丘とも不整形を呈することから、周辺の古墳と同じく、古墳時代終末期に下ると考えられる。

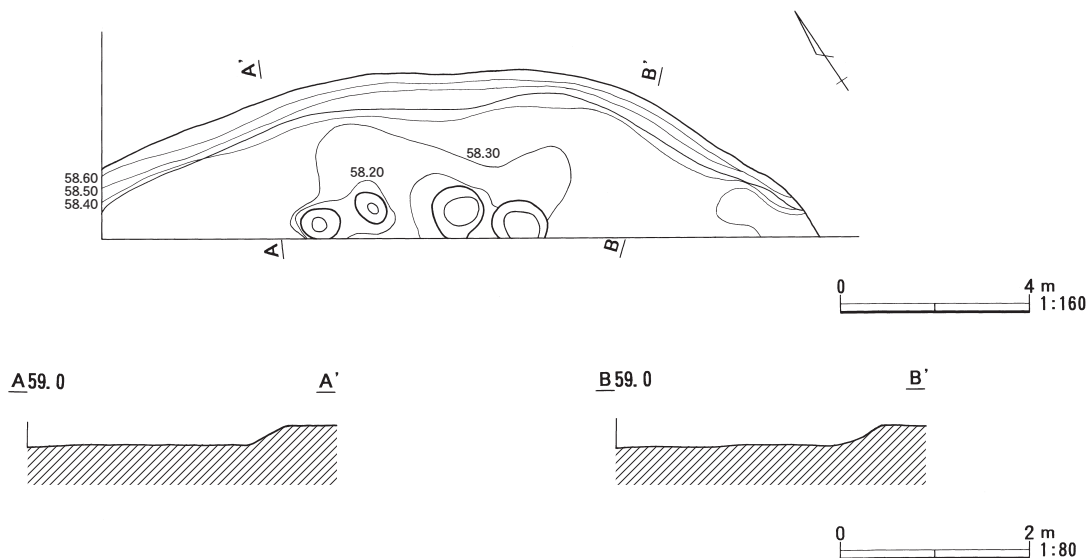


図46 堂場3号墳平面図および断面図

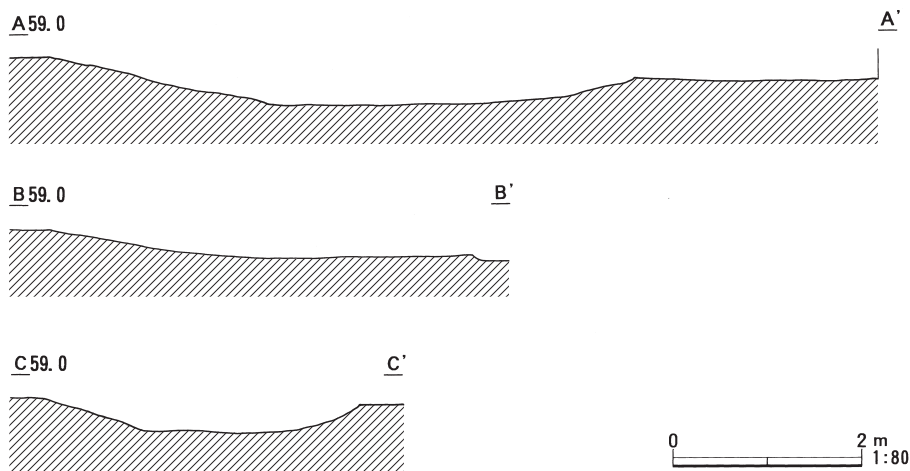
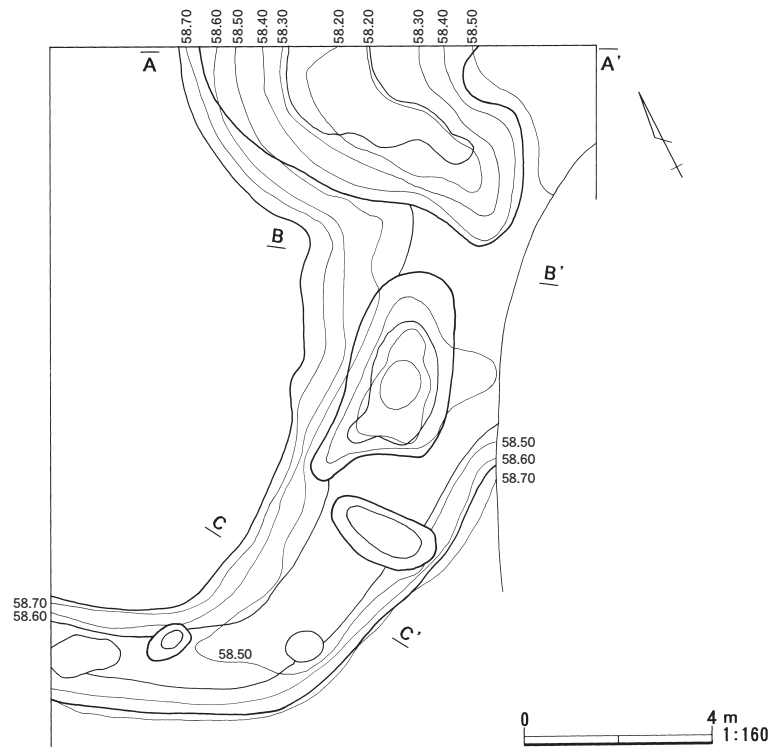


図47 堂場10号墳平面図および断面図

堂場11号墳 (図48)

堂場11号墳、調査区東半にあって、周堀の一部が調査区外にあるものの、墳丘部分はほぼ全体を検出している。埋葬施設は横穴式石室であるが玄室の床構造の一部を残して消失していた。床面も削平を受けた状態で、遺物は検出されていない。残存する石室石材の分布状況から、原形は胴張型の石室であったと思われる。周堀は不整形にめぐり、石室羨門に対応する南側が一部途切れている。確認面から周堀底までの深さも一定せず、各所に土坑状に掘り込まれた箇所があり、一部はローム層を掘り抜いて、その下の砂礫層にまで達している。最深部は確認面から70cm程度である。11号墳も周堀から少量の礫を検出しており、墳丘に葺石を備えていたことが推測される。周堀からも遺物は検出されていないが、横穴式石室を備え、埴輪をもたないことから、築造時期は、他の2基と同じく、古墳時代終末期と推測される。

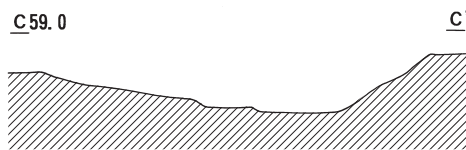
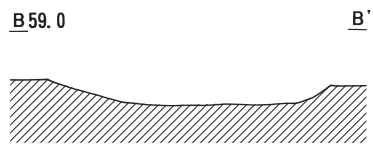
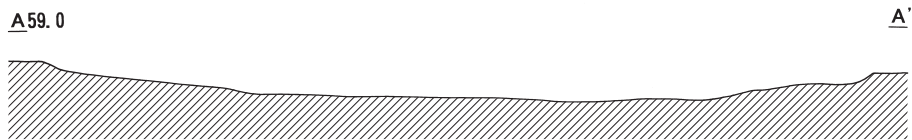
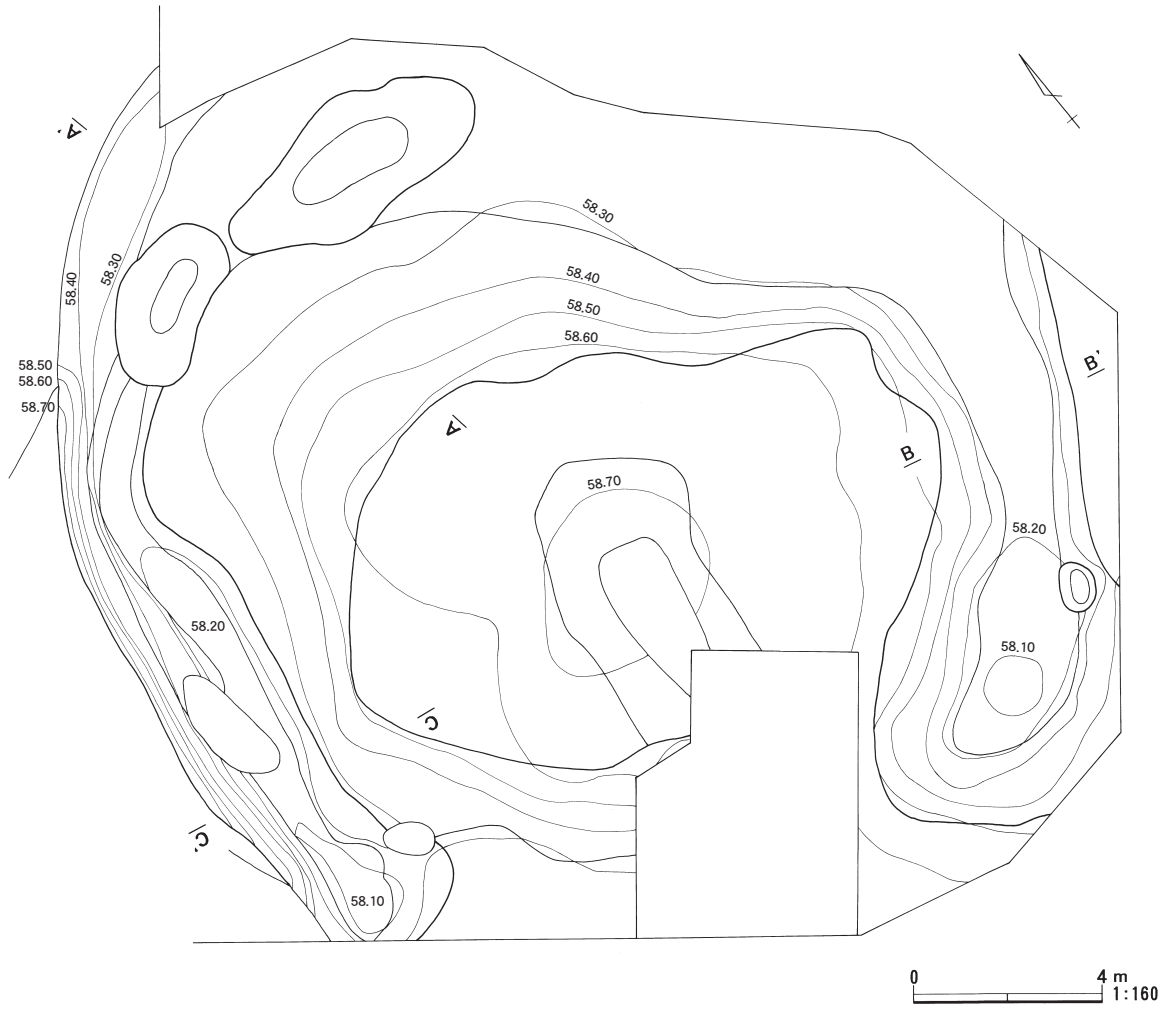


図48 堂場11号墳平面図および断面図

IV 結 語

ここでは本報告の主体をなす西富田新田遺跡の検討を行う。同遺跡では、本書報告のA地点に加え、B・Cの計3地点で、18棟の竪穴建物を検出し、帰属時期はいずれも古墳時代中期に該当している。西富田新田遺跡の東方から北方にかけては、夏目遺跡、夏目西遺跡、弥藤次遺跡、二本松遺跡など古墳時代中期後半を中心とする遺跡が所在している。これらの各遺跡は、断続的に分布しつつも、相互に一定の関係性を有した集落群として存在していたものと理解される。

昭和46年の西富田新田遺跡A地点の発掘調査では、別地点において確認された1棟を除き、13棟の竪穴住居が、調査区の中央から南側にまとまって検出されている。特徴的なのは、調査区南半に、一辺4.5m前後の規模を有し、東壁に竈を付設し、主軸方位をほぼ東にとり、規格性の高い住居(SI-4・5・8・10・11・13)6棟が集中するのに対し、調査区中央には一辺6m以上の規模を有し、主軸方位を北東方向にとり、大型住居(SI-2・3・7・12)がまとまっている。これらの中には、一辺8.8mを計測するSI-12といった希に見る大規模な住居も含まれている。SI-12のような遺構には、通常の住居とは異なる特殊な機能を想定し得るのかも知れないが、東壁に竈を付設し、床面の四箇所に支柱穴を有している点は、通常規格の住居と何ら変わるところがない。出土遺物についても、特段異質な資料が認められるわけではない。とはいえ、各住居の出土遺物を総覧した限りにおいては、相対的には小型で、通常規格といえるSI-4以下の住居と、SI-12に代表される大型住居との間に、明確な時間的前後関係は認められない。むしろ、通常規格の住居が調査区の南半に、大型住居が調査区の中央に集中して検出されているように、おのおの占地を違えて設営されていたとする理解が妥当であろう。

集落の全体像を把握していない現段階において、確言はできないが、大小二者の住居は、一定の時間幅のなかで連続的に設営されていったもので、相互の住居の一部に前後関係が生じ、遺構の重複が認められるものの、全体としては並行して存在し、同一の集落を構成していたと考えるべきものである。仮に住居の床面積が、当該住居の居住人数を単純に反映するものであるとすると、遺跡の実態からは、比較的多数の構成員を要した同居集団と、最小の単位家族のみという二種の居住単位が抽出されるかのようである。当時の集落構造や親族構成、世帯分化の問題を分析するうえにおいて、興味深い成果といえよう。

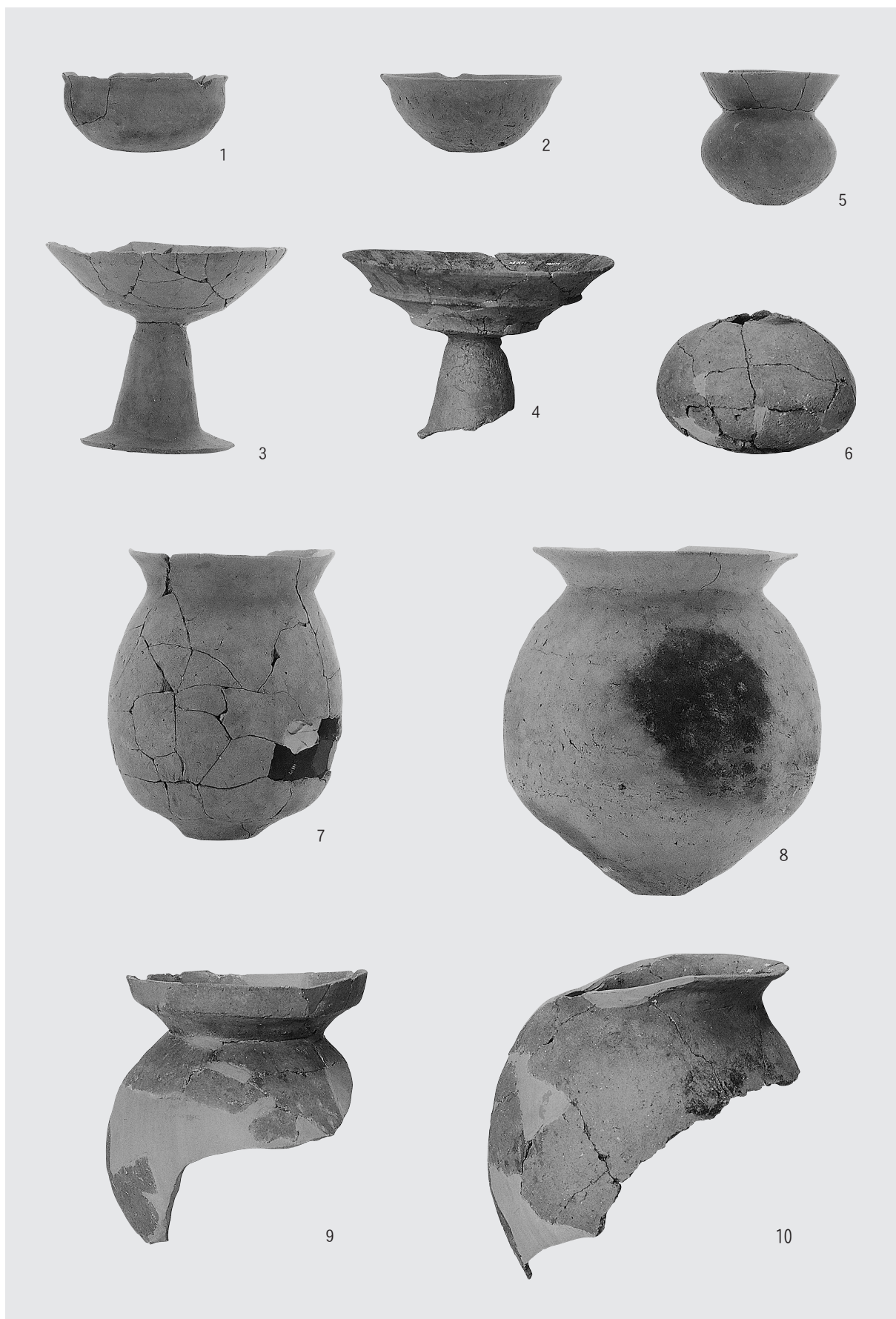
なお、SI-1やSI-9といった比較的小型で、柱穴や貯蔵穴をもち、竈も確実に付設されていない遺構も、同時期の土師器を検出していることから、上記の住居と同じ集落の一部を成していたことは確実である。遺存状態が良好ではなかったSI-6についても、上記の二遺構に比較すると、推定で一辺9.3mと格段に大きく、SI-12をも凌ぐ規模を有するが、床面において柱穴や貯蔵穴の検出に至っていない点は同様である。柱穴の存在が確認できないこれらの遺構の上屋構造がいかなるものであったのかは、不明といわざるを得ないが、竈や炉など通常の住居に伴う燃焼施設をもたないことから、居住施設とは異なる機能を果たしていた可能性も考慮されるべきであろう。

出土遺物の中では、鏡形や馬形、鞍形といった土製品の存在が注目される。いわゆる「形代」としての性格を有する資料であるが、とりわけ東日本において馬匹の生産・使用が開始されたごく初期段階にあたる時期の集落に、早くも馬・鞍形土製品が取り入れられている事実は、初現期の竈の導入と相俟って、当集落の先進性を示す資料と評価される。

【文 献】

- 浅野一郎 1999 『大久保山Ⅴ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告5 早稲田大学本庄校地文化財調査室
- 新井房夫 1979 「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』No.157 ニューサイエンス社
- 太田博之・松本 完・的野善行 2006 『塩原屋敷遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第32集 本庄市教育委員会
- 太田博之・松本 完・的野善行 2006 『旭・小島古墳群－林地区Ⅰ－』本庄市埋蔵文化財調査報告書第3集 本庄市教育委員会
- 太田博之・大熊季広 2011 『西富田新田遺跡Ⅱ－B地点の調査－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第26集 本庄市教育委員会
- 岡本健一 2003 「埼玉県における後期前方後円墳の展開」『後期古墳の諸段階』第8回東北・関東前方後円墳研究会大会発表要旨資料 東北・関東前方後円墳研究会
- 恋河内昭彦 1996 『辻堂遺跡Ⅰ－県営水田農業確立排水対策特別事業（やぼり川地区）に伴う辻堂遺跡B地点発掘調査報告書－』児玉町文化財調査報告書第19集 児玉町教育委員会
- 2009 『七色塚遺跡Ⅱ（B1地点）・北堀新田前遺跡（A1地点）－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集本庄市教育委員会
- 昆 彭生 2001 『大久保山Ⅹ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告9 早稲田大学本庄考古資料館
- 坂本和俊 2008 「北関東（埼玉・群馬・栃木）の大型円墳の築造動向」『前期・中期における大型円墳の位置と意味』第13回東北・関東前方後円墳研究会大会発表要旨資料 東北・関東前方後円墳研究会
- 塩野 博 2004 『埼玉の古墳』さきたま出版会
- 菅谷浩之 1972 『西富田新田遺跡 古墳時代発掘調査概報』本庄市教育委員会
- 広瀬和雄 1992 「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成畿内編』山川出版社
- 本 庄 市 1976 『本庄市史』資料編
- 増田一裕 1990 『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅳ－御堂坂2号墳の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告第16集 本庄市教育委員会
- 的野善行 2014 『長沖古墳群Ⅶ・女池遺跡Ⅳ・西富田新田遺跡Ⅱ』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第36集 本庄市教育委員会
- 松本 完 2002 『本庄遺跡群発掘調査報告書－御堂坂第1号墳の調査－』本庄市埋蔵文化財調査報告第24集 本庄市教育委員会
- 2009 『浅見山Ⅰ遺跡（Ⅲ次）・久下東遺跡（Ⅲ次）A1・B1地点・北堀久下塚北遺跡－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 本庄市教育委員会
- 2010 『久下前遺跡Ⅲ（C1地点）・北堀新田遺跡Ⅱ（A1地点）・宍勝寺北裏遺跡Ⅲ（A1・B1地点）－本庄早稲田駅周辺土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書4－』本庄市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集 本庄市教育委員会
- 山本千春 2005 『城山遺跡』本庄市遺跡調査会報告第12集 本庄市遺跡調査会
- 和田晴吾 1992 「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』第五巻 近畿Ⅰ 角川書店

写 真



西富田新田遺跡A地点 SI-1 出土遺物(1)

写真2



西富田新田遺跡 A地点 SI-1 出土遺物(2)



西富田新田遺跡 A地点 SI-2 出土遺物

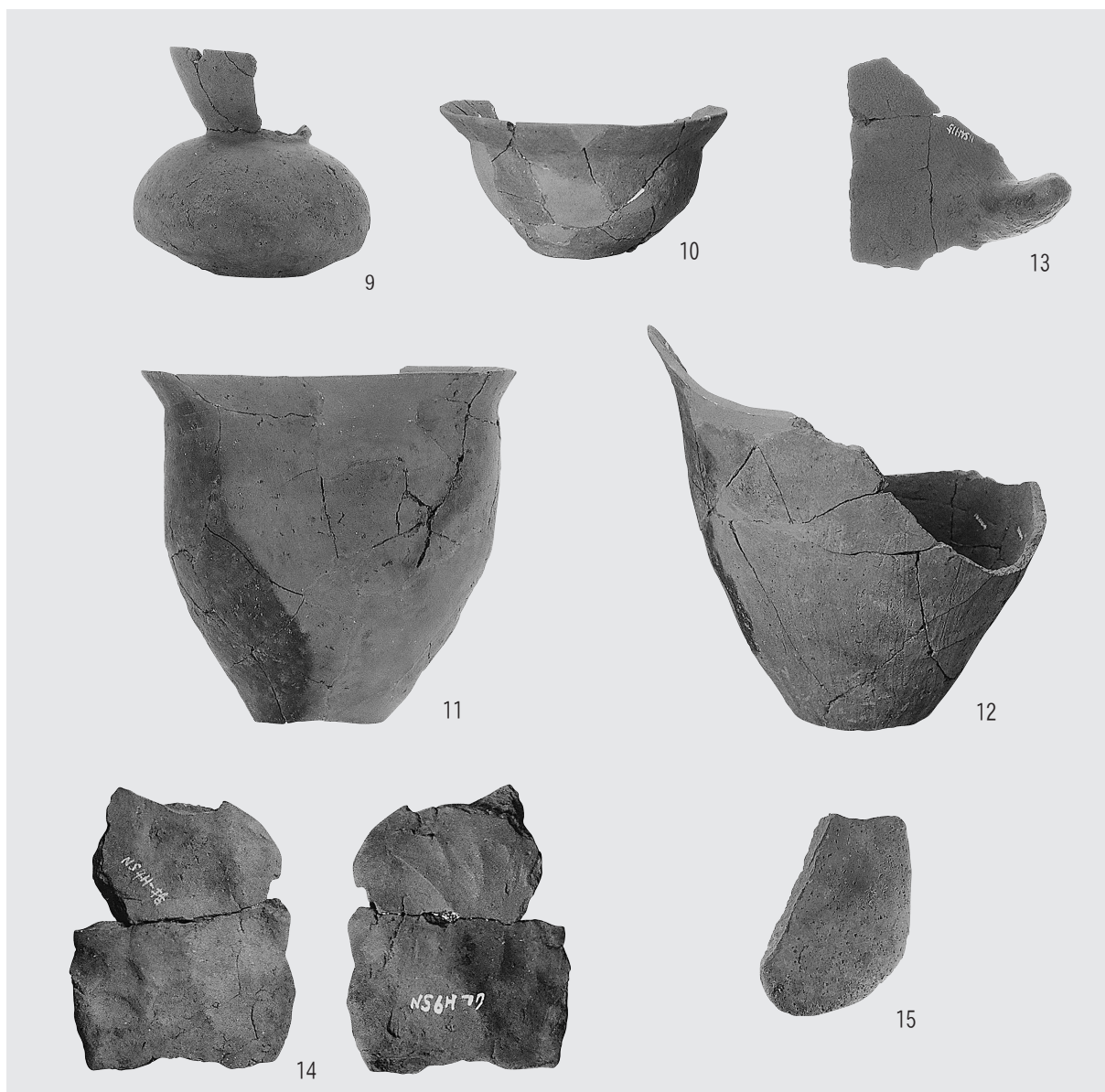


西富田新田遺跡 A 地点 SI-3 出土遺物

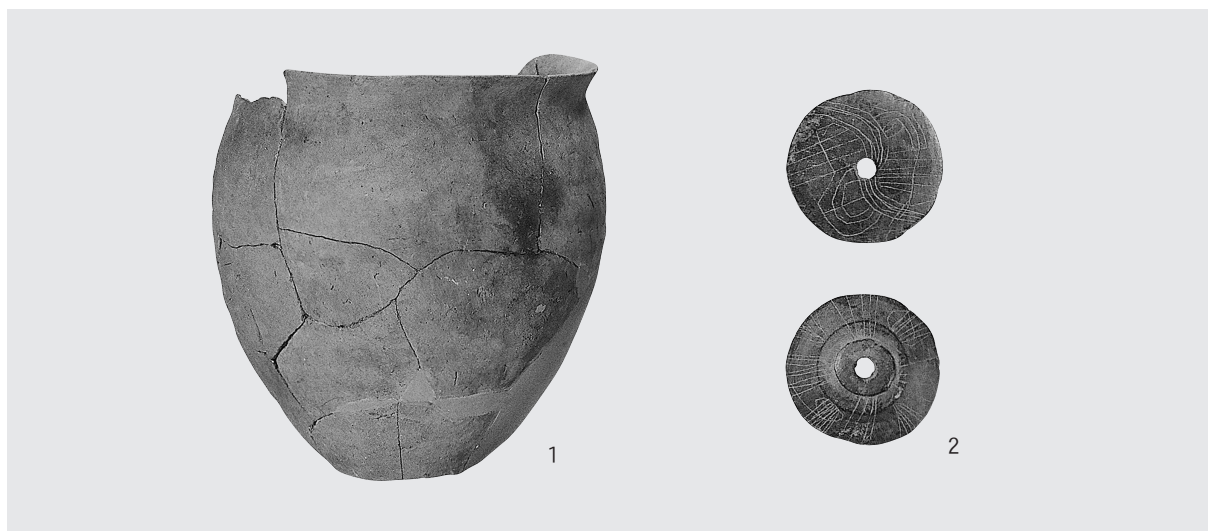


西富田新田遺跡 A 地点 SI-4 出土遺物(1)

写真4



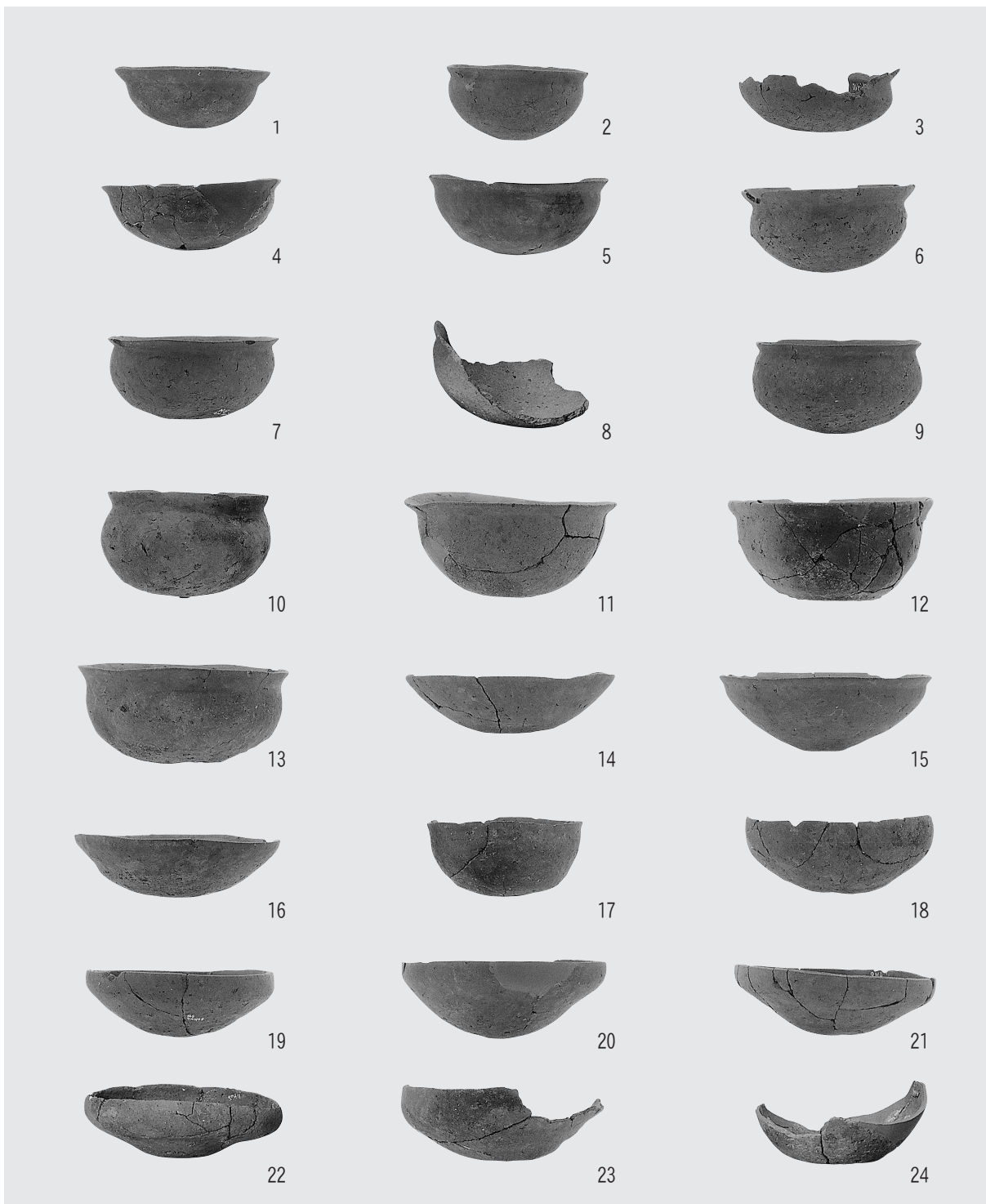
西富田新田遺跡A地点 SI-4 出土遺物(2)



西富田新田遺跡A地点 SI-5 出土遺物

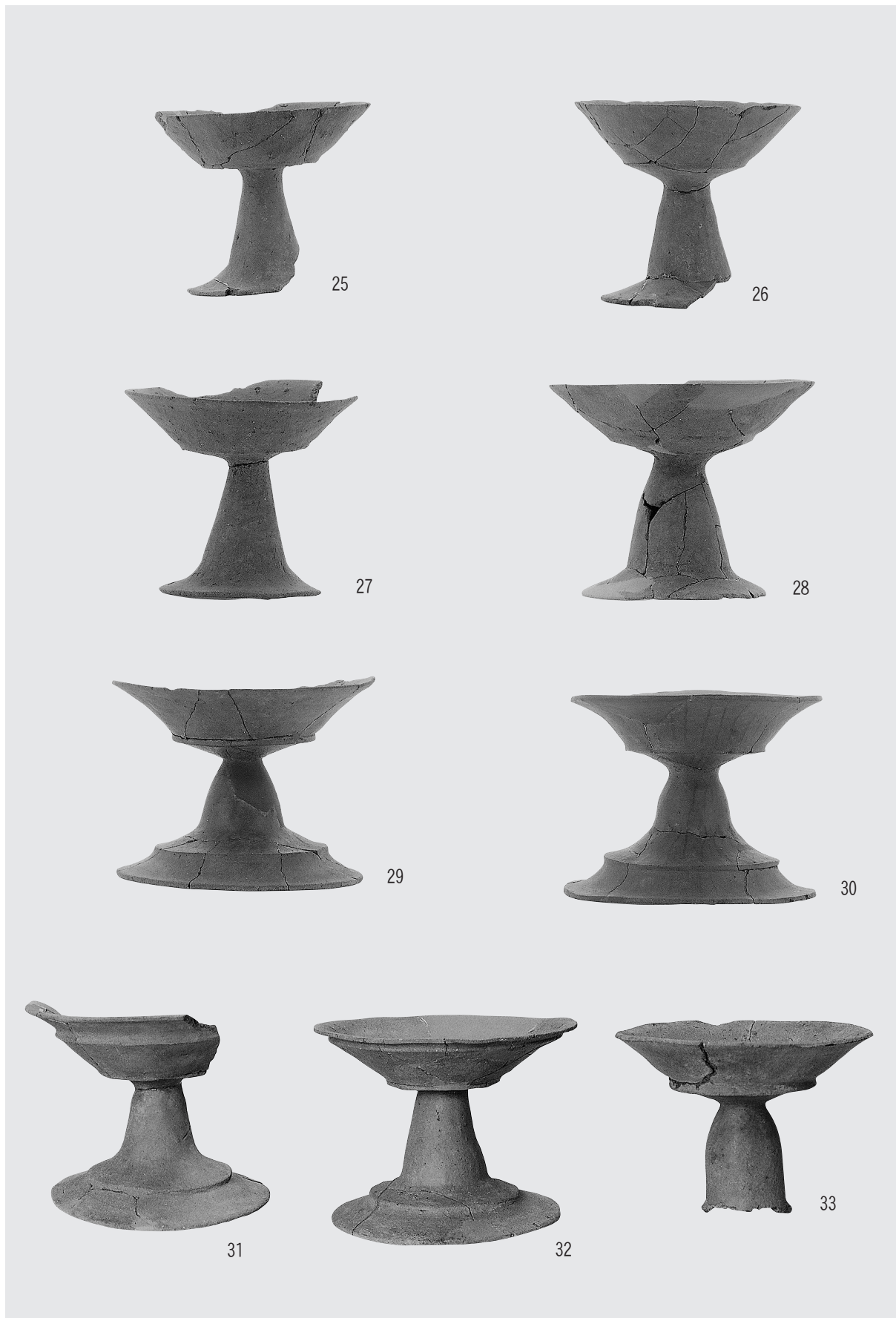


西富田新田遺跡 A 地点 SI-6 出土遺物

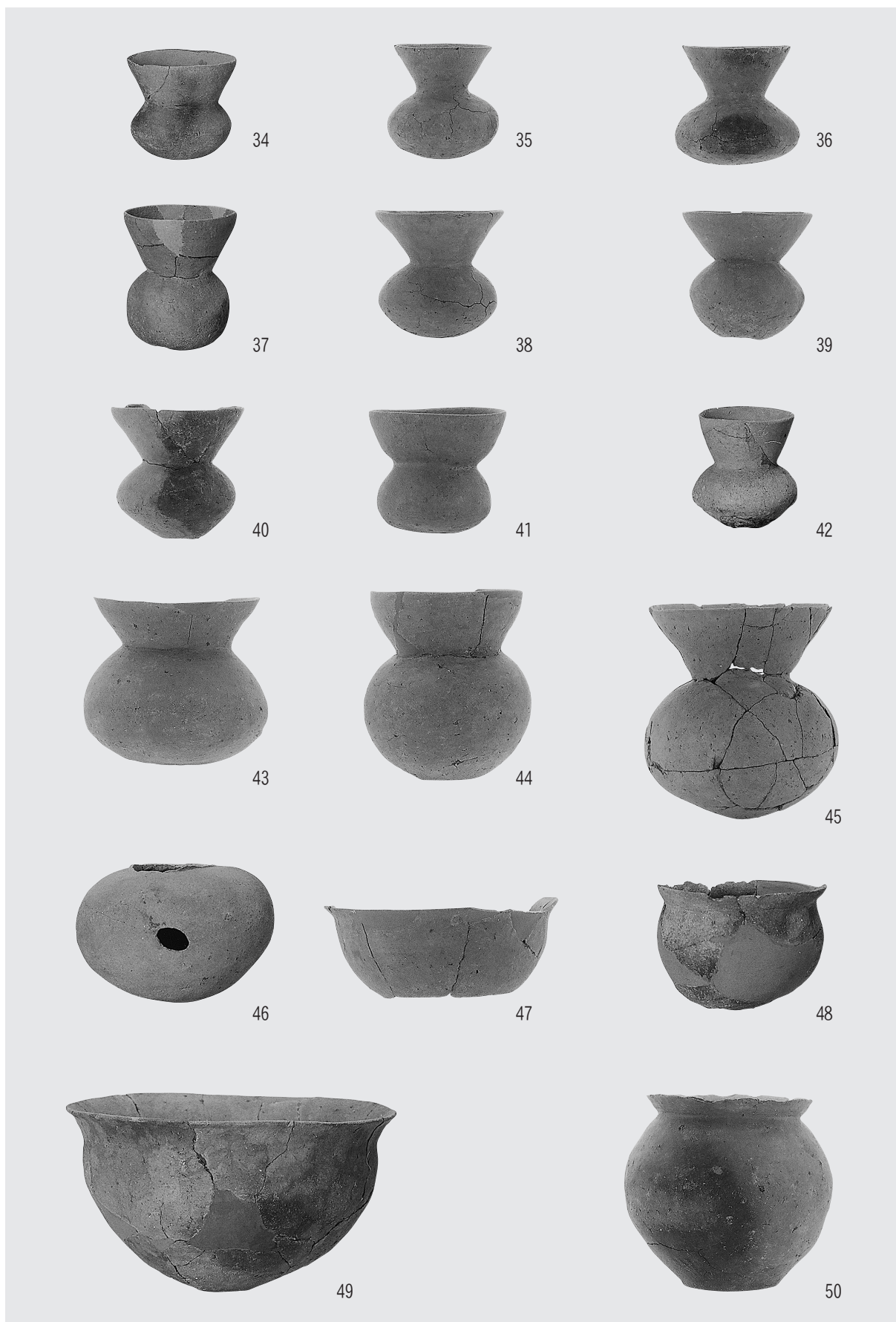


西富田新田遺跡 A 地点 SI-7 出土遺物(1)

写真6



西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(2)



西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(3)

写真8

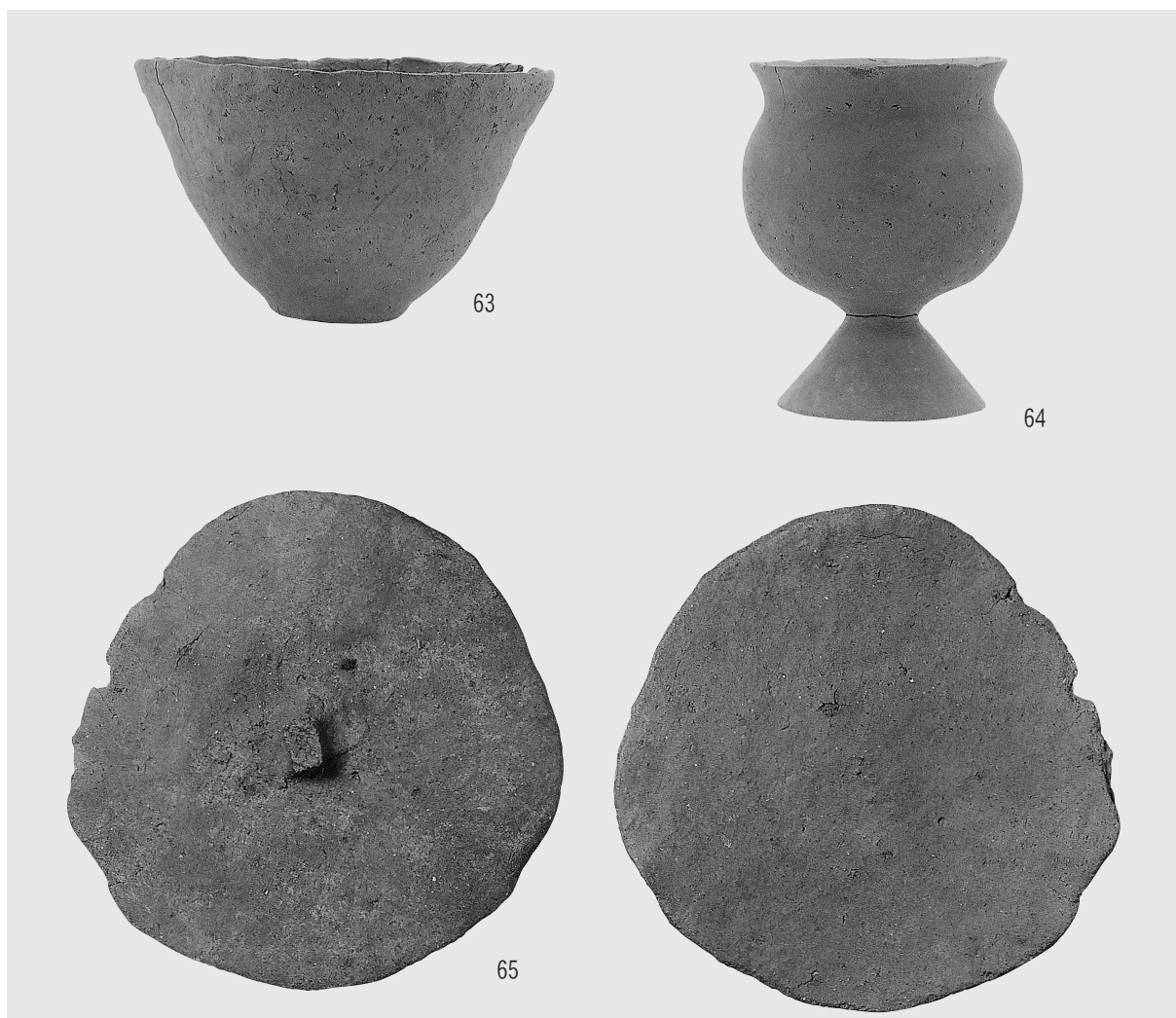


西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(4)



西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(5)

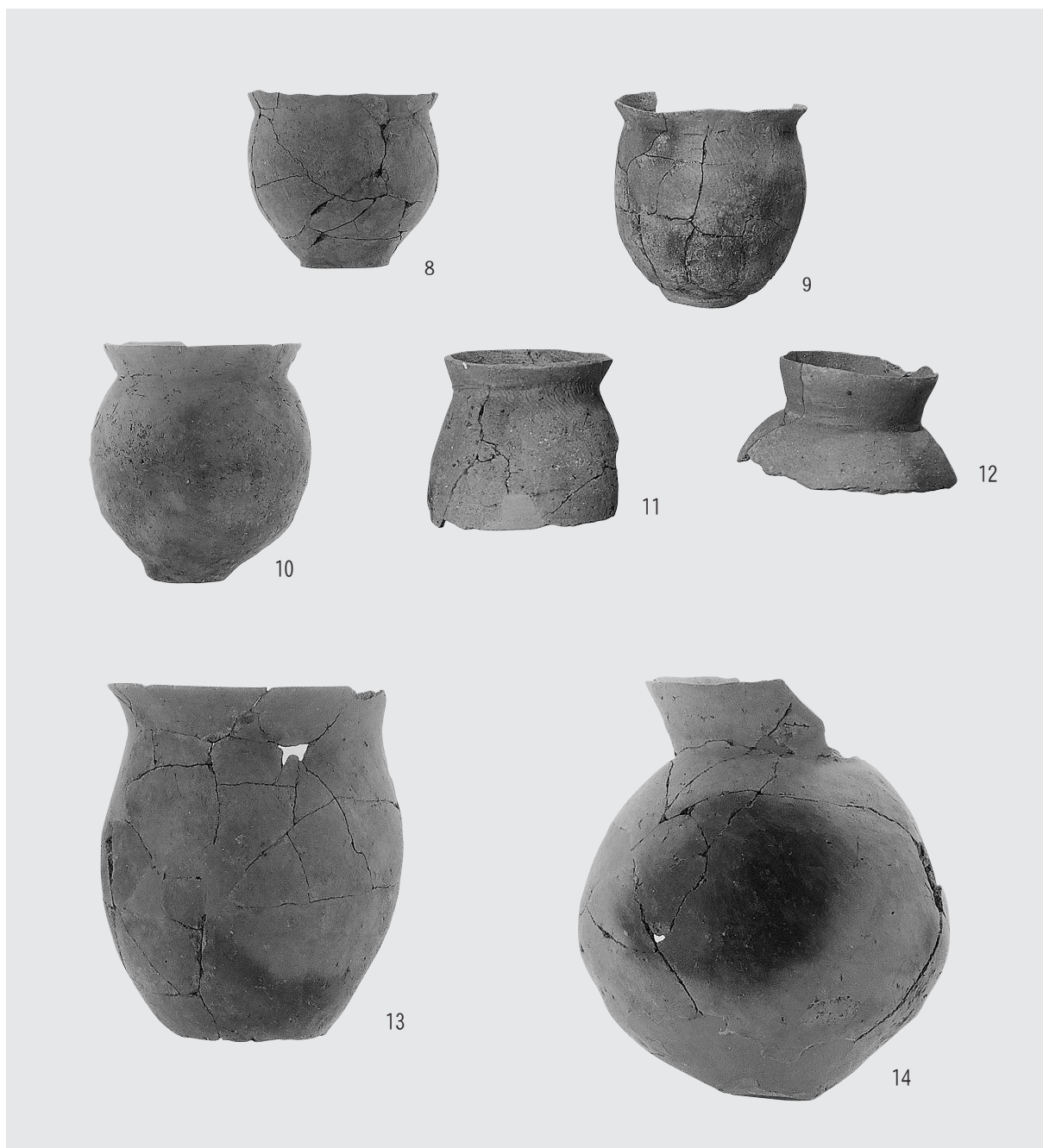
写真10



西富田新田遺跡A地点 SI-7 出土遺物(6)



西富田新田遺跡A地点 SI-8 出土遺物(1)

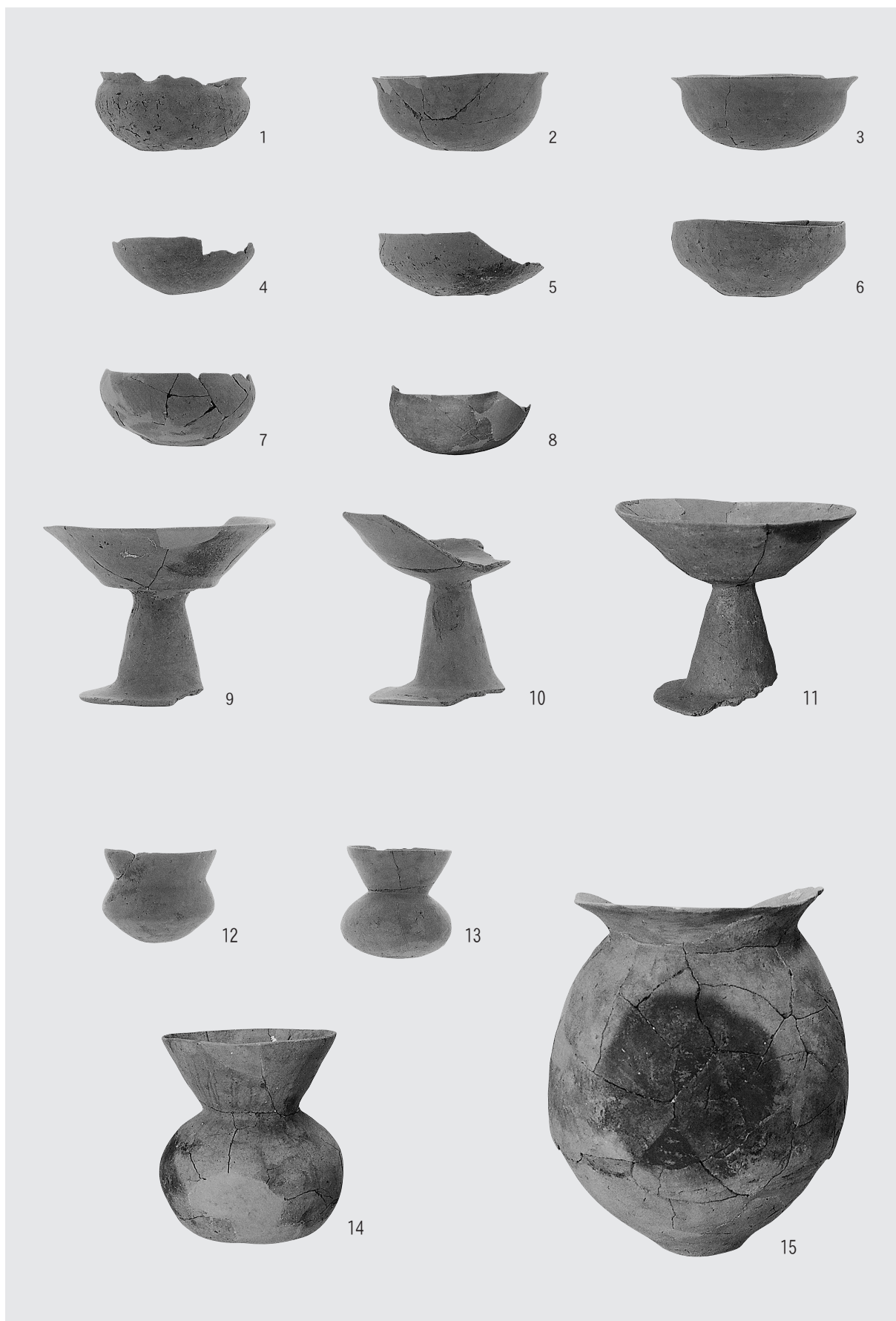


西富田新田遺跡A地点 SI-8 出土遺物(2)

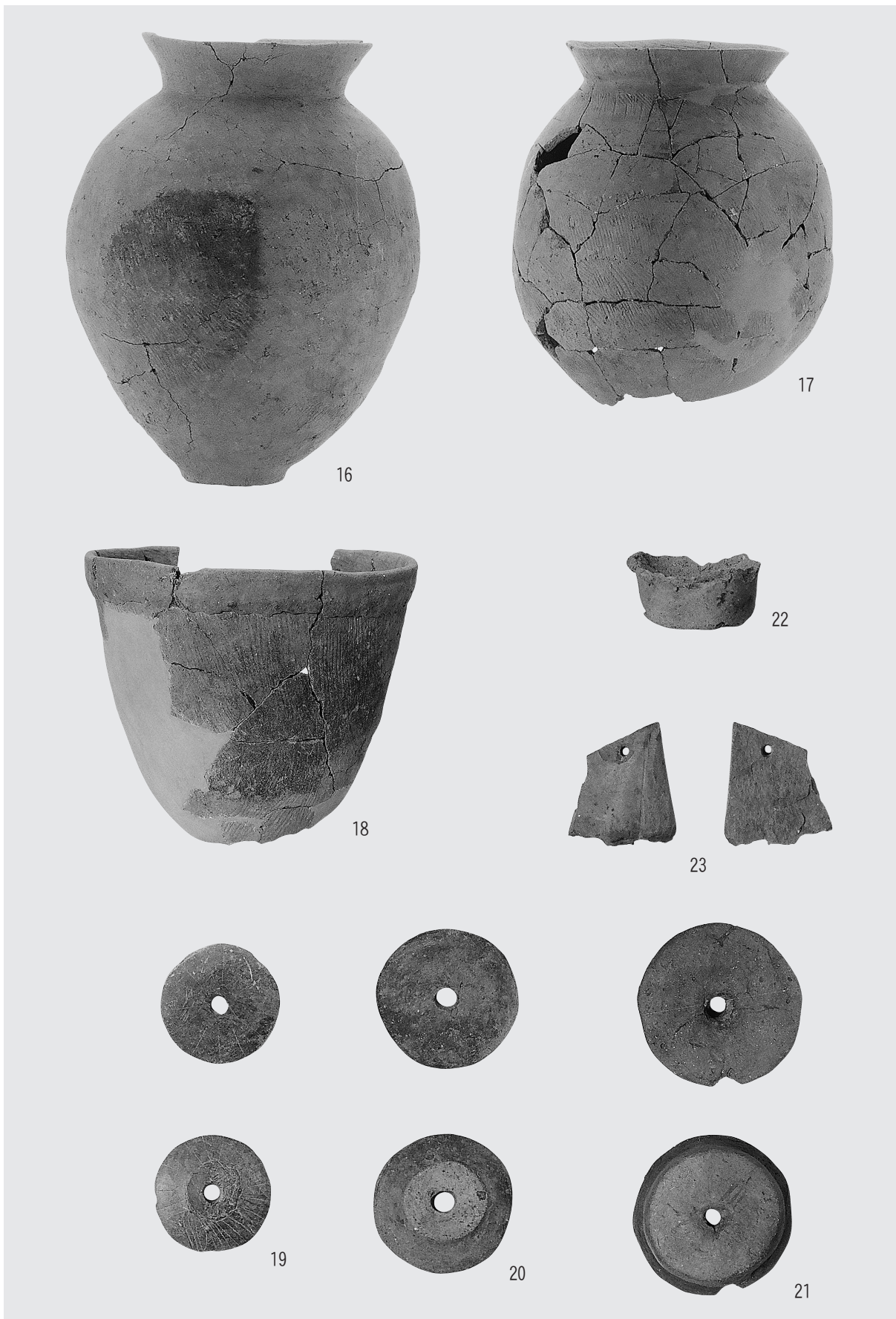


西富田新田遺跡A地点 SI-9 出土遺物

写真12



西富田新田遺跡 A 地点 SI-10 出土遺物(1)

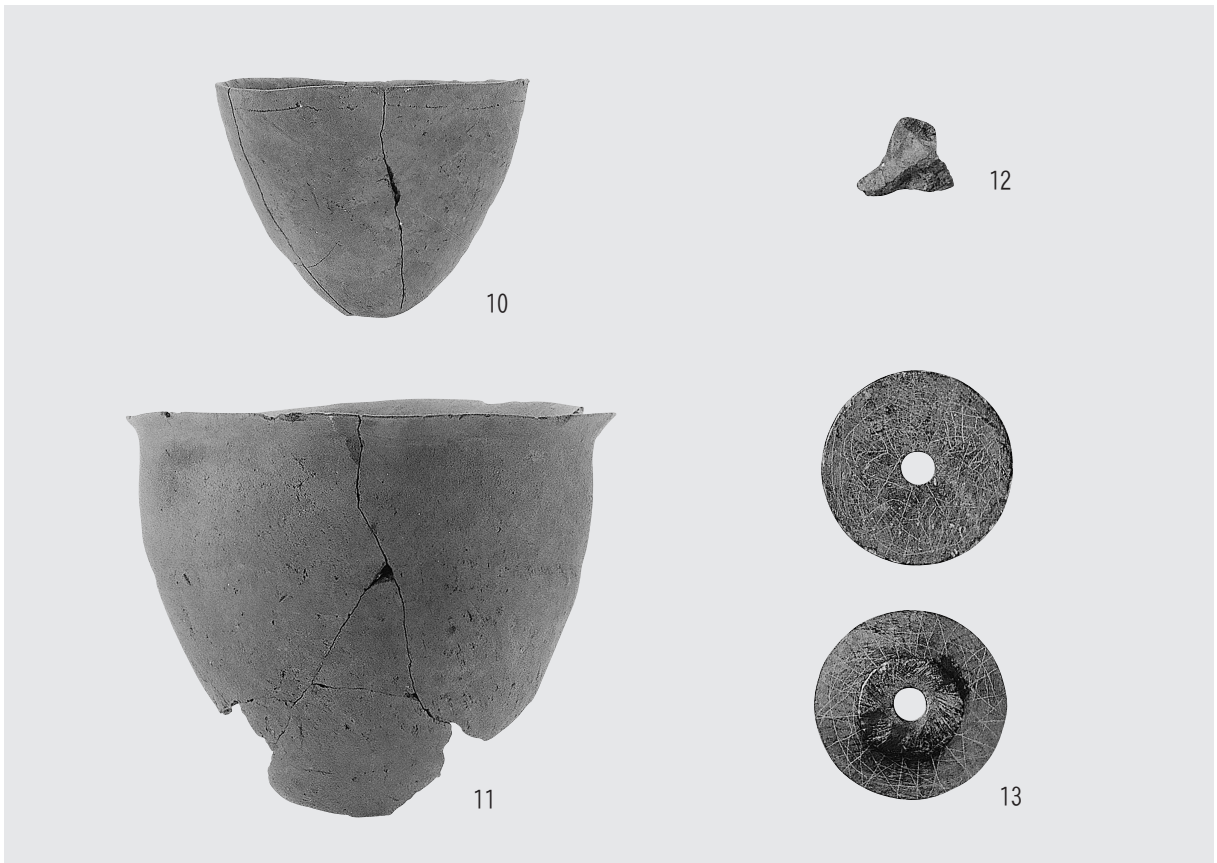


西富田新田遺跡 A 地点 SI-10 出土遺物(2)

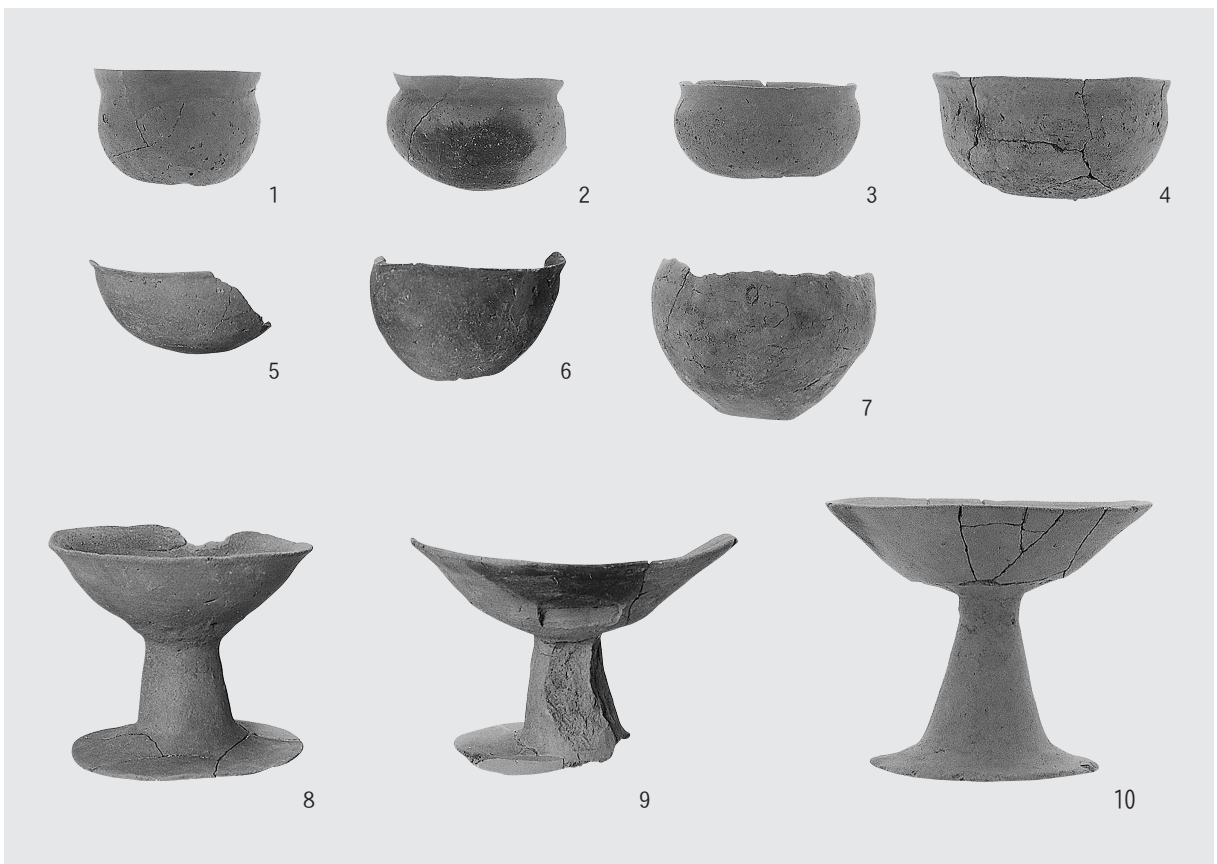
写真14



西富田新田遺跡 A 地点 SI-11 出土遺物(1)

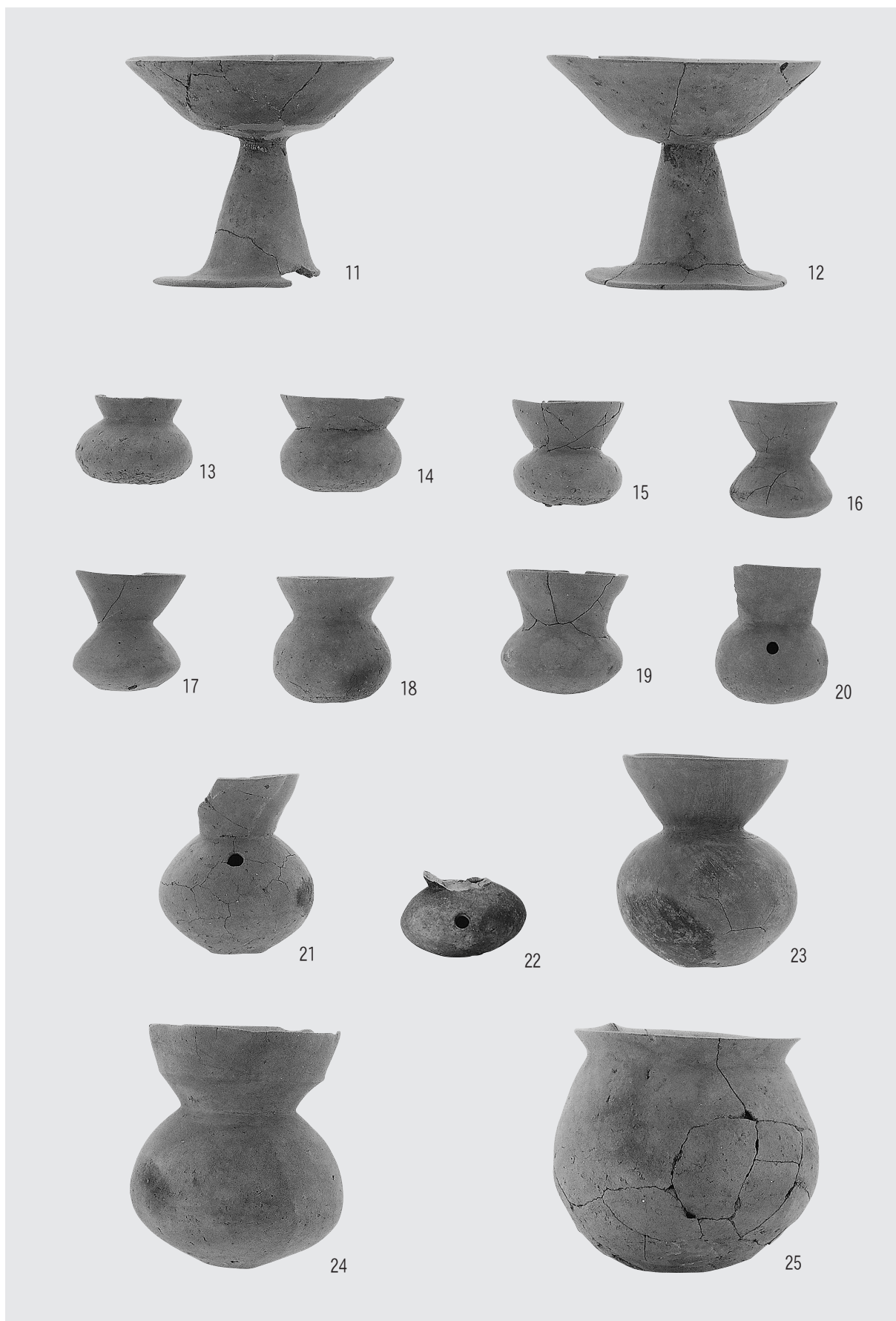


西富田新田遺跡 A 地点 SI-11 出土遺物(2)

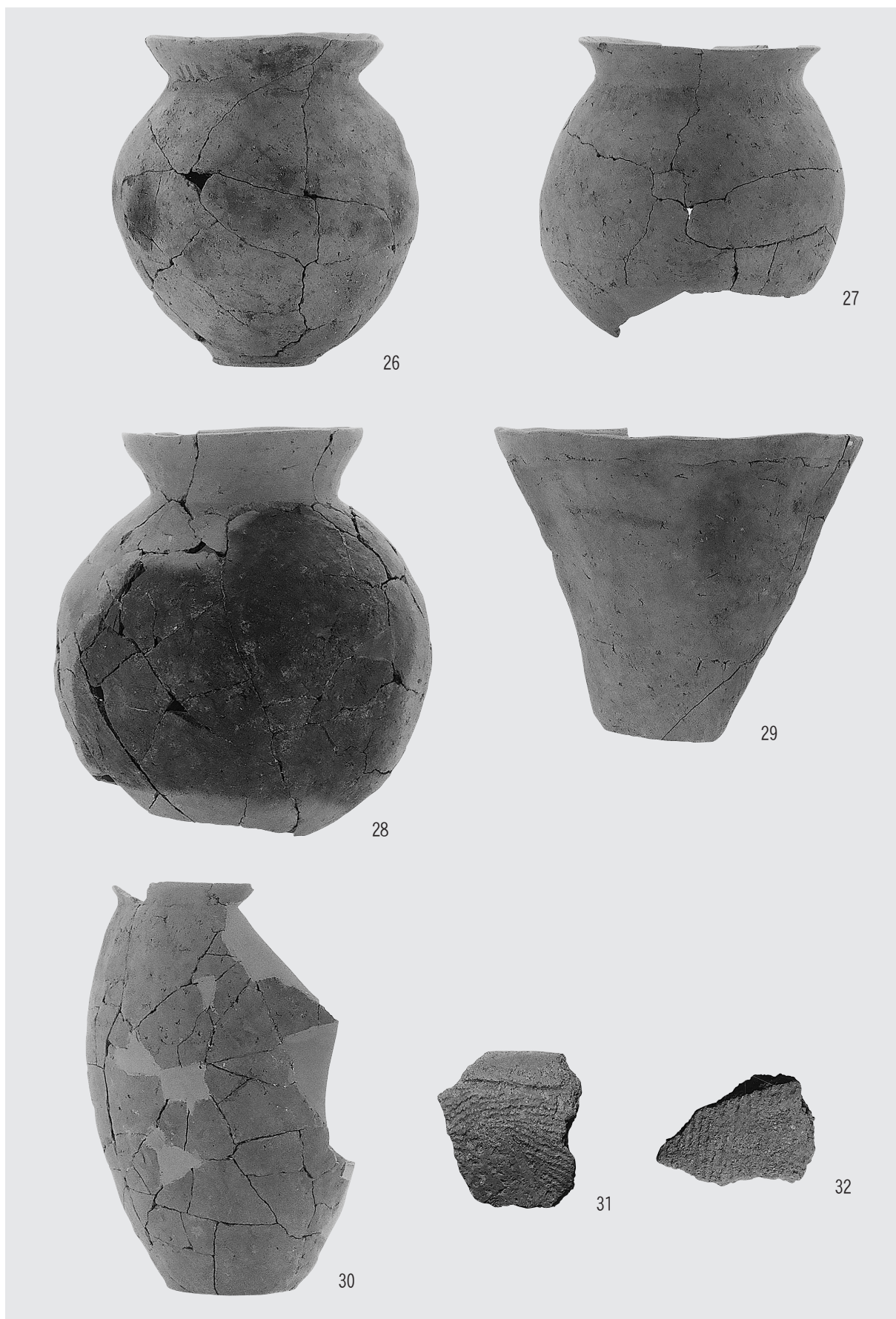


西富田新田遺跡 A 地点 SI-12 出土遺物(1)

写真16

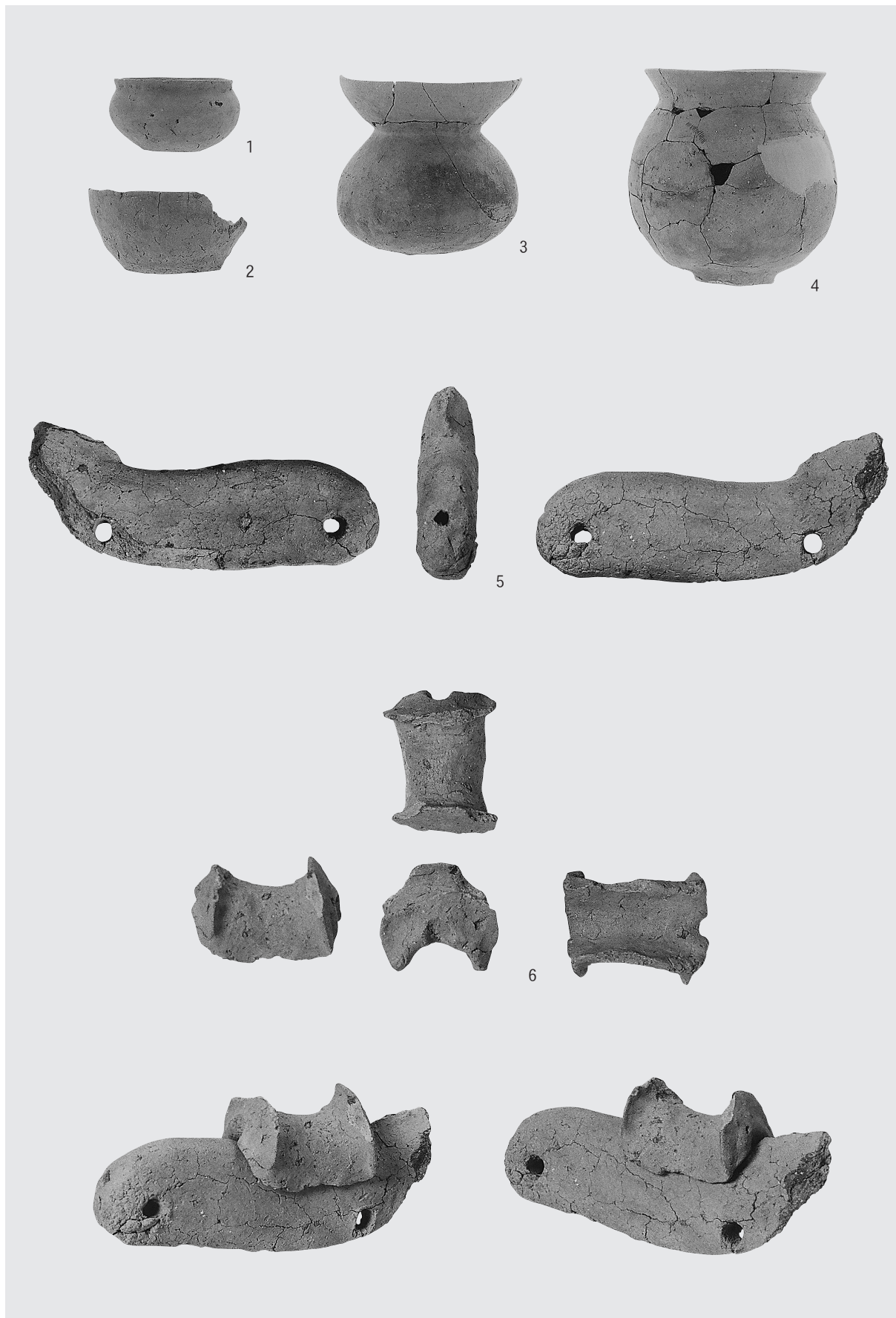


西富田新田遺跡 A 地点 SI-12 出土遺物(2)



西富田新田遺跡 A 地点 SI-12 出土遺物(3)

写真18



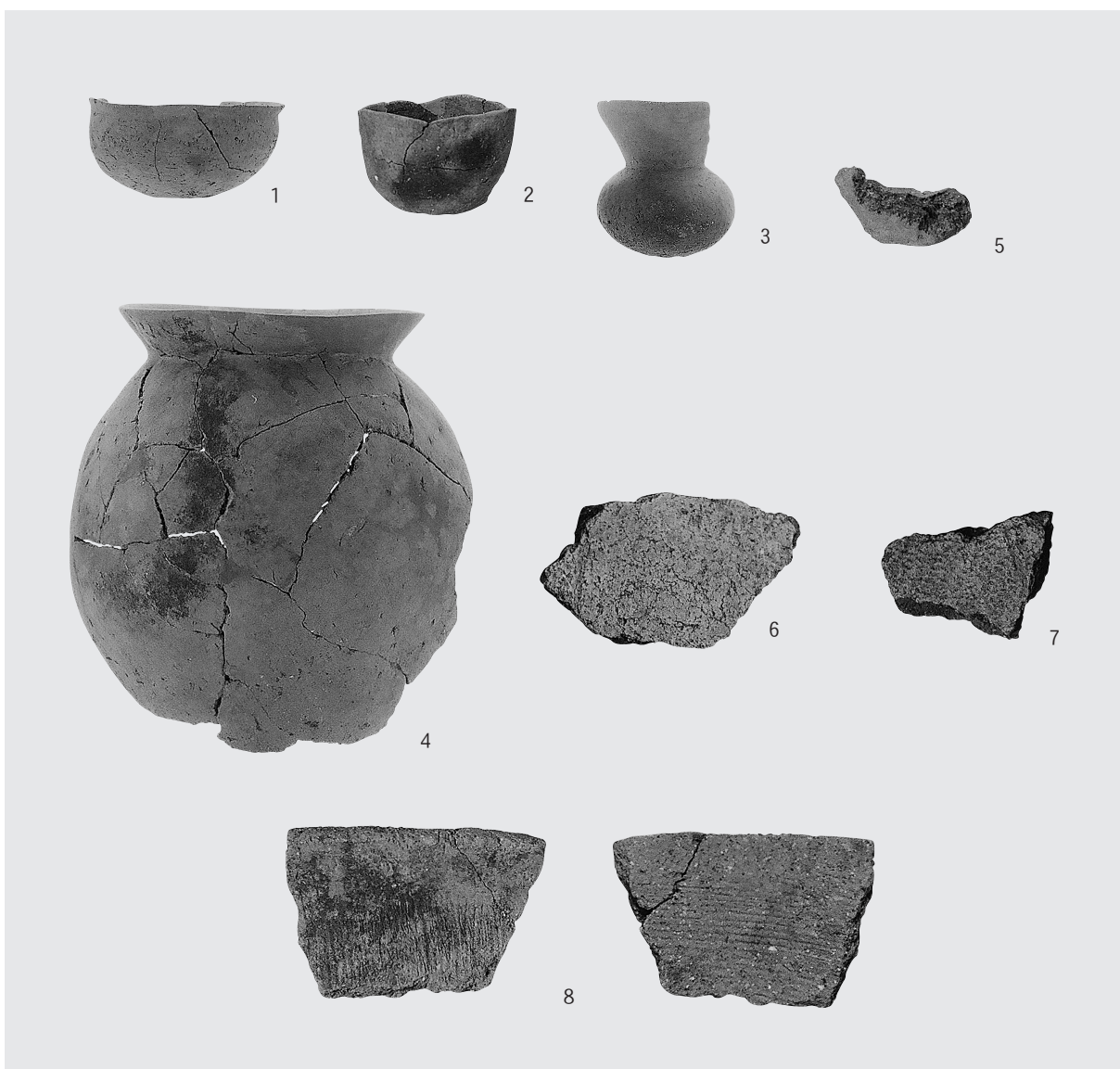
西富田新田遺跡 A地点 SI-13出土遺物



西富田新田遺跡 A地点 SI-14出土遺物



西富田新田遺跡A地点祭祀遺構出土遺物



西富田新田遺跡A地点遺構外出土遺物

報告書抄録

フリガナ	ニシトミタシンデンイセキ／アサヒ・オジマコフンゲン							
書名	西富田新田遺跡Ⅲ／旭・小島古墳群							
副書名								
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻次	第45集	
編著者	太田博之							
編集機関	本庄市教育委員会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄三丁目5番3号 TEL 0495-25-1185							
発行日	西暦2015年（平成27年）3月31日							
フリガナ	フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡	(度分秒)				(度分秒)
ニシトミタシンデンイセキ 西富田新田遺跡	ホンジョウシニシトミタアザ 本庄市西富田字 新田810-1～12番	112119	53-094	36°13'51"	139°09'17"	19710320～ 19720516	2,491㎡	宅地造成
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	集落	古墳時代	住居14基ほか		土師器、石製模造品、土製模造品他			
フリガナ	フリガナ	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
所収遺跡	所在地	市町村	遺跡	(度分秒)				(度分秒)
アサヒオジマコフンゲン 旭・小島古墳群	ホンジョウシオジマ 本庄市小島3丁目、 万年寺3丁目、 下野堂3丁目 地内	112119	53-171	36°14'48"	139°10'19"	19801107～ 19880730	1,910㎡	宅地造成・ 集会所建設
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
	古墳	古墳時代	古墳5基		なし			

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第45集

西富田新田遺跡Ⅲ

— A地点の調査 —

旭・小島古墳群

— 万年寺八幡山古墳ほかの調査 —

平成27年3月30日 印刷

平成27年3月31日 発行

発行／本庄市教育委員会

〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号

電話 0495-25-1185

印刷 株式会社タカサキ印刷

